

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	東海大学	大学名	東海大学
研究プロジェクト名	高分子超薄膜から創成する次世代医用技術		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトは、東海大学の新たな研究拠点(マイクロ・ナノ研究開発センター)を形成し、科学・技術の発展への貢献と、健康で安全な社会形成のための要素技術構築を目的とする。具体的には、機能性高分子超薄膜(膜厚が 100 ナノメートル以下)に着目する。高分子を超薄膜に加工することで顕在化する「面をもつ構造」ならではのユニークな特性を利用し、これを医学・理学・工学連携の研究体制により医用技術へ応用する。

初年度に研究施設の改修を実施して活動場所を整備し、2 年目までに必要な実験設備を導入していく。3 年目には外部評価委員会からの評価を受ける。4、5 年目は成果を取りまとめつつ、5 年目以降の発展性を見込んだ研究を推進する。5 年経過後には外部評価委員会から総合評価を受ける。特に、4 年目には海外から関連研究者を招待し、国際シンポジウムを開催する。研究交流を活発化させるための小規模ではあるがオープンな研究交流会を 2 カ月毎に開催し、また年次報告会を毎年開催する。頻繁な研究交流と最先端の研究活動を支えつつ、グローバル化のためにポストドクターは外国人を積極的に採用する。そして企業との産学連携共同研究に積極的に取り組み研究サロンとなることを目指す。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

研究施設として整備した「マイクロ・ナノ研究開発センター」は、本学の附置研究所として組織化され大学主導の研究拠点として運営されている。構想調書に則り、施設と設備は計画通りに整備され、ポストドクターなど若手研究者の雇用と育成も計画通り進行中である。研究交流の拠点となるべく、大小さまざまな研究交流会の開催も継続している。また、企業との産学連携共同研究契約も多数結ばれている。本研究プロジェクトが中心となり、ニコングループとの包括協定に基づき開設した「東海大学イメージング研究センター」に多数のイメージング機器を配置し研究を推進している。これは学内外の研究者へ公開し産学連携共同利用施設としての運営も行っている。目標として掲げた 3 つのアウトプット; 「①針と糸いらずの次世代絆創膏」は、基礎研究が精力的になされており、さらに実用化研究も進んでいる。「②動物実験いらずの疾患モデル」は、医理工連携体制が功を奏し様々な基礎的知見が得られており、社会実装に向けた応用研究フェーズに来ている。「③手術いらずのピンポイント血栓クリーナー」は、残りの 2 年間で基礎研究のフェーズが終了する見込みである。3 年目終了時点で 3 名の外部評価委員から進捗状況の審査を受け、研究内容や研究実施体制、ポストドクターの雇用状況、研究費導入、研究成果などの評価に加え、バーチャルではなく実際の医理工連携研究が進んでいることに高い評価を得た。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

平成26年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書

1 学校法人名 東海大学 2 大学名 東海大学

3 研究組織名 マイクロ・ナノ研究開発センター

4 プロジェクト所在地 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

5 研究プロジェクト名 高分子超薄膜から創成する次世代医用技術

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
喜多 理王	理学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 8 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
岡村 陽介	応用化学科・准教授	高分子超薄膜の創製	高分子超薄膜の設計と創製(テーマ1代表)
槌谷 和義	精密機械工学科・教授	精密工学によるバイタル評価装置開発	超薄膜を用いた生体用微小センサ開発(テーマ2代表)
喜多 理王	物理学科・教授	高分子と超薄膜の分子物性解析	分子物性解析と統括(テーマ3代表、研究代表者)
木村 啓志	機械工学科・准教授	機能集積型マイクロ流体デバイスの開発	超薄膜を用いたデバイス開発による医用応用の具現化
砂見 雄太	機械工学科・講師	超薄膜の界面構造制御技術の開発	超薄膜のバルク化技術開発と応用展開
大友 麻子	医学部・助教	超薄膜を用いた細胞培養技術開発	細胞培養と細胞病理への医学応用展開
樺山 一哉	大阪大学・准教授	超薄膜を用いたライブセルイメージング	細胞および薬剤スクリーニングへの応用
中川 草	医学部・助教	細胞状態評価のためのゲノム解析	薄膜と細胞との相互作用評価法確立と医学応用
(共同研究機関等)			

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

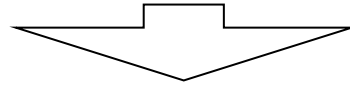
<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

変更なし

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【目的・意義】

本研究プロジェクト「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」では、総合大学である特色を生かし、また若手を中心とした研究者による知と技とエネルギーを集結することで、東海大学の新たな研究拠点(マイクロ・ナノ研究開発センター)を形成し、科学・技術の発展への貢献と、健康で安全な社会形成のための要素技術構築を目的とする。

具体的には、機能性高分子超薄膜(膜厚が 100 ナノメートル以下)に着目する。高分子を超薄膜に加工することで顕在化する「面をもつ構造」ならではのユニークな特性を利用し、これを医学・理学・工学連携の研究体制により医用技術へ応用していく。基礎研究とそれに関連する応用研究を実施するために、各研究者が密に協調しなければ成し遂げられない研究テーマを設定した。その具体的なアウトプットとして、

- ①針と糸いらずの次世代絆創膏(ナノ厚の創傷被覆材)
- ②動物実験いらずの疾患モデル(神経・血管の疾患モデルデバイス)
- ③手術いらずのピンポイント血栓クリーナー(血栓溶解ディスク状超薄膜)

の実現を目指す。

研究交流を活発化させるための小規模ではあるがオープンな研究交流会を 2 カ月毎に開催し、また年次報告会を毎年開催している。これらにより、頻繁な研究交流と最先端の研究活動を支えつつ、マイクロ・ナノをキーワードとして基礎研究から医用応用に展開するための本プロジェクトの目的を明確に共有した共同研究を推進し、かつ若手研究者育成を可能とする活動を実施する。ポストドクターには外国人を積極的に採用しグローバル化を図る。そして企業との産学連携共同研究に積極的に取り組むことで、研究成果を社会実装することを目指す。

【計画】

本研究プロジェクトの体制として、「テーマ 1 創る」、「テーマ 2 試す」、「テーマ 3 知る」を有機的に連携させて研究を実施する。各参加研究者は 1 名ずつの博士研究員(または 2 名のリサーチアシスタント)を随時採用する。また、参加研究者に加えて、総合医学研究所、糖鎖科学研究所(現 先進生命科学研究所)などの学内機関とも密に連携を図り、経験豊かで実績のある様々な分野の研究者、そして若手研究者達が集う研究体制を敷く。過去に採択された戦略的研究基盤形成支援事業に携わっている学内シニア教員をプロジェクトのアドバイザーとして迎え、必要な助言を得る体制とする。

初年度に研究施設の改修を実施して活動場所を整備し研究に着手する。同時に 2 年目までに必要な実験設備を順次導入していく。3 年目には外部評価委員会からの評価を受け、必要があれば方向性を是正する。4、5 年目は成果を取りまとめつつ、5 年目以降の発展性を見込んだ研究を推進する。5 年経過後には外部評価委員会から総合評価を受ける。特に、4 年目には海外から関連研究者を招待し国際シンポジウムを開催する。

このようにして、上記 3 つのアウトプットを目指す研究に軸足を置きつつ、国際研究交流、若手研究者育成、産学連携研究などを目指す実践的な教育・研究を実施する拠点である「マイクロ・ナノ研究開発センター」を形成し運営することが本研究プロジェクトの使命である。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

(2) 研究組織

■ マイクロ・ナノ研究開発センター(東海大学附置研究所)

所長 稲津敏行【本研究プロジェクト アドバイザー】

事務1名【本学研究推進部から本研究プロジェクトへの専属職員】

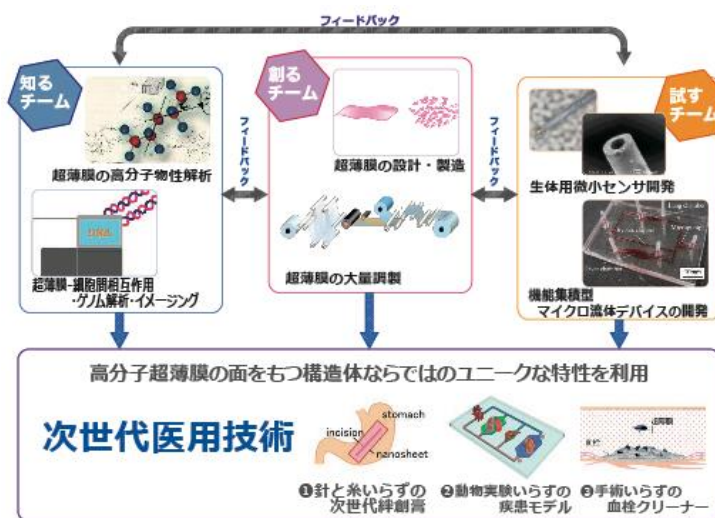
事務2名【本プロジェクト雇用職員(H27.6~11、H27.11~H29.3)】

■ マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」

研究代表 喜多 理王【本研究プロジェクトの総括】

チーム内、チーム間で各研究者が密に協調しなければ成し遂げられないテーマを設定し共同研究を遂行している。このための毎月の定期ミーティングおよび不定期に随時ディスカッションを行っている。

参加研究者を軸に、各チーム所属のポストドクターやリサーチアシスタント、実験補助員、大学院生、学部生らが学科の垣根を超えた共同研究を遂行している。現在、本研究プロジェクトは本学附置研究所として新設され、大学から組織としての支援を受けている。



■ 創るチーム【サイズ・界面構造を制御した高分子超薄膜の創製と医用展開】

参加研究者 岡村陽介【チーム代表】、木村啓志、砂見雄太

ポストドクター 中川 篤(~H29.3)、Hong Zhang

大学院生 各年度およそ 20 名が本研究プロジェクトの研究に参加

■ 試すチーム【高分子超薄膜を用いた評価系の確立と医用展開】

参加研究者 榎谷和義【チーム代表】、大友麻子、木村啓志、岡村陽介

ポストドクター Yang Lu(~H27.3)、横山 奨、Ganesh Kumar Mani

実験補助員 望月明子、高橋博美

大学院生 各年度およそ 20 名が本研究プロジェクトの研究に参加

■ 知るチーム【高分子超薄膜の高機能化に係る物性・挙動解析】

参加研究者 喜多理王【チーム代表】、砂見雄太、樺山一哉、中川 草

ポストドクター 上田真保子、Isala Dueramae

リサーチアシスタント 佐々木海渡

大学院生 各年度およそ 10 名が本研究プロジェクトの研究に参加

(外部評価者)

谷下 一夫 教授 早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構

石野 史敏 教授 東京医科歯科大学 難治疾患研究所

石原 一彦 教授 東京大学 大学院工学研究科

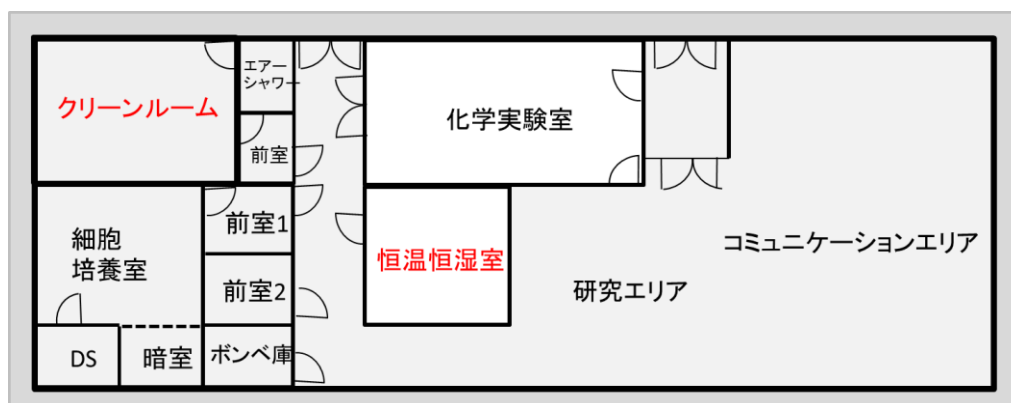
法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

(3) 研究施設・設備等

■ 研究施設

「マイクロ・ナノ研究開発センター」 東海大学湘南キャンパス(平塚市)

12号館1階の面積 約 390 m² (11 m×35 m)を改修し、研究装置として「クリーンルーム(終日稼働)」と「恒温恒湿室(終日稼働)」を整備し、さらに「研究・コミュニケーションエリア」、「化学実験室」、「細胞培養室」を配置した。事務機能とポストドクターのデスクに加え教員のデスクも備える。卒研究生や院生など利用登録者数は年間 150 名～200 名である。コミュニケーションエリアは 50 人規模の講演会(後述)や研究室単位のゼミ、企業との打ち合せ等に活用されている。



■ 主な研究設備

構想調書に則り設備を整備し研究に活用している (数値は稼働時間 / 稼働回数)。

ミュコーター (マイクログラフィ印刷機)	350 時間/年
オールインワン顕微鏡システム	1500 時間/年 (720 回/年)
卓上型マスクレス・リソグラフィ装置	200 時間/年
リアクティブイオンエッチング装置	500 時間/年
デスクトップ型次世代シーケンサ	DNA 読取り 41 回(通算)
全反射エバネッセント顕微鏡	280 時間/年
ナノファイバ紡糸装置	300 時間/年
水槽システム	終日稼働
クリーンベンチ、細胞培養器、ディープフリーザ	

■ 東海大学イメージング研究センター(湘南校舎 12号館1階 約 300 m²)開設

本研究プロジェクトをきっかけとするニコングループとの包括協定を平成 28 年 8 月に締結し、それに基づき産学連携共同利用施設を大学主導にて整備した。同時に、本研究プロジェクトは、ニコングループとの「高分子超薄膜の高機能化」に係る共同研究を実施している。本研究プロジェクトが、東海大学イメージング研究センターの運営に携わることで、研究環境が充実するのみならず、企業共同研究のきっかけ作りとしても機能している。平成 29 年 1 月から本格的に稼働を始めた東海大学イメージング研究センター内の設置機器は、X 線 CT、卓上 SEM、白色干渉顕微鏡、共焦点レーザースキャン顕微鏡、細胞・材料観察用光学顕微鏡などである。本研究プロジェクトはこれらの設置機器を併用して、4 年目(平成 29 年度)以降も、産学連携研究の拠点としての役割を果たすことが期待される。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

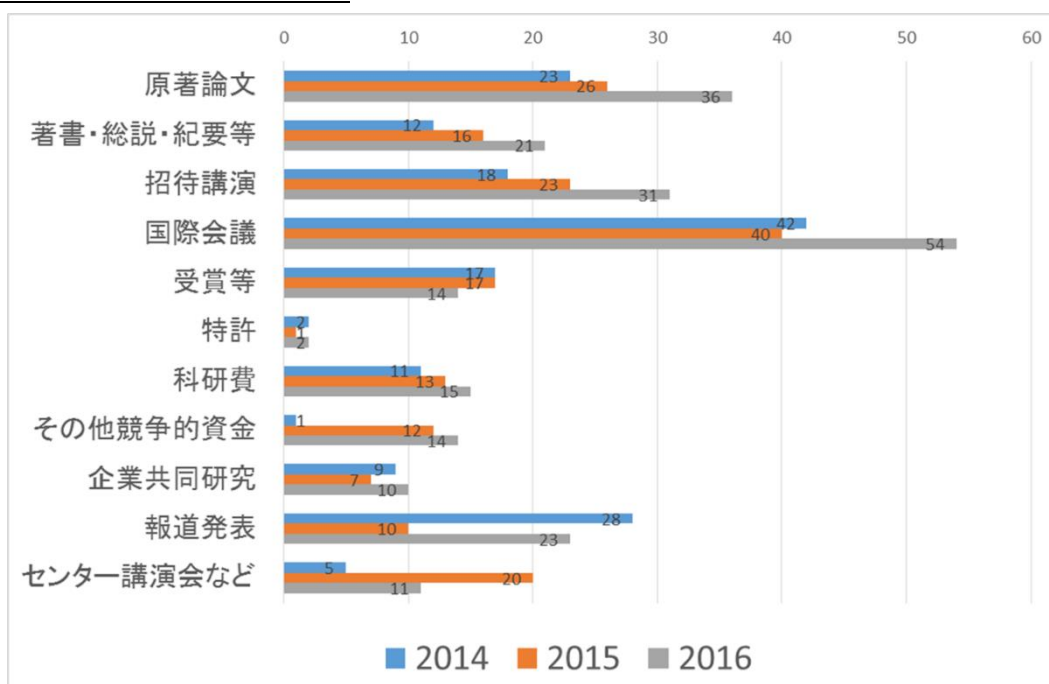
研究施設として整備した「マイクロ・ナノ研究開発センター」は、本学の附置研究所として組織化され大学主導の研究拠点として運営されている。構想調書に則り、施設と設備は計画通りに整備され、ポストドクターなど若手研究者の雇用と育成も計画通り進行中である。研究交流の拠点となるべく、大小さまざまな研究交流会を実施*¹してきた。また企業との産学連携共同研究*²が複数の契約締結に至り研究が進行中である。中でも本研究プロジェクトをきっかけとしてニコングループと本学との包括協定が結ばれた*³。これは「東海大学イメージング研究センター」を整備し、かつ「高分子超薄膜の高機能化に関する共同研究」を遂行するもので、多数のイメージング機器を配置している。本研究プロジェクトで整備した機器の一部はこの東海大学イメージング研究センターに設置している。

掲げた3つのアウトプット達成状況*⁴

「①針と糸いらずの次世代絆創膏」は、基礎研究が精力的になされており、さらに実用化研究も進んでいる。「②動物実験いらずの疾患モデル」は、医理工連携体制が功を奏し、様々な基礎的知見が得られており、学術的に価値ある成果が得られている。現在は社会実装に向けたフェーズへ移行する段階に来ている。「③手術いらずのピンポイント血栓クリーナー」は、基礎研究が進んでおり、残りの2年間で基礎研究のフェーズは終了する見込みである。

これら研究成果と進捗状況は、3年目終了時点で3名の外部評価委員から審査を受けた。研究内容や研究実施体制、ポストドクターの雇用状況、競争的資金(科研費、委託研究費)、研究成果に加え、バーチャルではなく実際の医理工連携研究が進んでいることに高い評価を得ている。また、当プロジェクトをきっかけに多くの副次的な共同研究テーマが生まれ、それらの研究も精力的になされている。

論文数など主な研究成果*⁴について3年間の推移を示す(2017年2月末時点)



法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<特に優れた研究成果>

貼る絆創膏などとして開発してきた高分子超薄膜の新たな応用方法が考案された。これは浮遊細胞を撮像するための新システム「(仮称)ナノラッピング法」*⁵であり、学会などから高い評価を得ており、市場へ展開することを目指している。また、ニコングループと共同で産学連携共同利用施設「東海大学イメージング研究センター」を開設*³した。

新聞・テレビなど報道発表*⁶や企業共同研究*²など特筆すべき成果が多数ある(13.および14.を参照されたい)。

<問題点とその克服方法>

大学主導の研究拠点形成という観点では特別な問題点は見当たらないと考えているが、3つのアウトプットの達成に向けたさらなる体制作りが必要である。例えば、研究時間の確保、大型予算申請などである。このためのディスカッションを意識的に実施中である。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

特許出願はその都度行っており、中でも実用化へ向け市場調査を開始した成果「ナノラッピング法」は、JSTのSTART事業などへの申請を検討している。

ニコングループと開設した、イメージング機器を多数配置した「東海大学イメージング研究センター」は、本研究プロジェクトの研究推進に必要な機材が整備できたという意義に加え、ニコングループとの共同研究を実施中である。さらに当該イメージング研究センターは学内外の研究者へ公開しており、産学連携共同利用施設として企業を含む多くの研究者に活用していただいている。その他の企業との共同・委託研究も多数行われており、産学連携のためのハブとしての役割も果たしているものとする。

<今後の研究方針>

高分子超薄膜の創製と分子論的メカニズム研究、センサ・デバイス開発、そして医用応用へといった幅広い研究活動を、医理工連携の体制で継続していく。そして3つのアウトプットの実現と副次的研究テーマも精力的に実施する予定である。5年終了時点では本研究プロジェクトの発展形として、文科省ブランディング事業や他の大型予算申請を視野に入れる。

<今後期待される研究成果>

「ナノラッピング法」の技術・製品を市場へ展開する。このためのパートナー企業との協力体制の確立もしくはベンチャー企業設立を視野に入れている。ニコングループと開設した東海大学イメージング研究センターを利用した研究を実施するとともに、特に企業にも使ってもらい体制を継続する。これにより企業共同研究のさらなる活性化が期待される。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

下記の3名の外部評価者からの評価結果およびコメントを基に今後の研究展開を図るが、費用対効果および組織や研究成果は着実な進捗が見られるとの結果を得ている。したがってこれまでの活動を継続していくことが本プロジェクトの対応であり自己評価である。

<外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

バイオメカニクス、医学、材料の各分野において著名な3名の外部評価者から、6項目(1. 研究組織、2. 研究施設等、3. 研究の進捗状況・研究成果等、4. その他(特記事項があれば)、5. 総合評価、6. 4~5年目への助言)を評価していただいた。評価者の氏名は(2)研究組織で示した。

評価基準 A~C(A 着実な進捗がみられる、B 進捗がみられるが改善すべき点がある、C 進捗があまり見られない)において、3名から「総合評価 A 着実な進捗がみられる」との結果を頂戴した。多数の貴重なコメントを頂戴できたことから、これらを参考にして4年目以降の研究を実施していく。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 高分子 (2) 医用応用 (3) 医理工連携
 (4) 材料 (5) センサ (6) デバイス
 (7) 疾患モデル (8) 産学連携研究

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

2016年度(論文・紀要等)*⁴

- 1) K. Sasaki, A. Panagopoulou, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, A. Kyritsis, and P. Pissis, “Dynamics of Uncrystallized Water, Ice, and Hydrated Protein in Partially Crystallized Gelatin-Water Mixtures Studied by Broadband Dielectric Spectroscopy”, *Journal of Physical Chemistry B* **121**, 265-272 (2017).
- 2) M. Miyara, I. Takashima, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihar, “Dynamics of Uncrystallized Water in Partially Crystallized Poly(ethylene glycol)-Water Mixtures Studied by Dielectric Spectroscopy”, *Polymer Journal*, (in press. doi:10.1038/pj.2017.15).
- 3) F. Abe, A. Nishi, H. Saito, M. Asano, S. Watanabe, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, S. Sudo, and Y. Suzuki, “Dielectric study on hierarchical water structures restricted in cement and wood materials”, *Meas. Sci. Technol.* **28**, 044008 (9pp) (2017).
- 4) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita, “Self-assembly of acetylated dextran with various acetylation degrees in aqueous solutions: Studied by light scattering”, *Carbohydrate Polymers* **159**, 171-177 (2017).
- 5) J. Sakamoto, R. Kita, I. Dueramae, M. Kunitake, M. Hirano, D. Yoshihara, T. Yamamoto, T. Noguchi, B. Roy, and S. Shinkai, “Cohelical crossover network by supramolecular polymerization of α -4,6-acetalized β -1,3-glucan macromer”, *ACS Macro Letters* **6**, 21-26 (2017).
- 6) K. Sasaki, Y. Matsui, M. Miyara, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Glass transition and dynamics of the polymer and water in the poly(vinylpyrrolidone)-water mixtures studied by dielectric relaxation spectroscopy”, *Journal of Physical Chemistry B* **120**, 6882-6889 (2016).
- 7) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric relaxation time of ice-ih with different preparation”, *Journal of Physical Chemistry B* **120**, 3950-3953 (2016).
- 8) K. Eguchi, D. Niether, S. Wiegand, and R. Kita, “Thermophoresis of cyclic oligosaccharides in polar solvents” *European Physical Journal E* **39**, 86-1 – 86-8 (2016).
- 9) T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, “The Bi-modality Diffusion of Water Molecules in Liposome/Water Dispersion Systems Analyzed by Pulsed Field Gradient Spin Echo NMR Method”, *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **41**, 359-362 (2016).
- 10) Ganesh Kumar Mani, M. Morohoshi, Y. Yasoda, S. Yokoyama, H. Kimura, and K. Tsuchiya, “ZnO Based Microfluidic pH Sensor: A Versatile Approach for Quick Recognition of Circulating Tumor Cells in Blood”, *ACS Applied Materials and Interfaces* **9**, 5193-5203 (2017).
- 11) Y. Hayakawa, R. S. Ganesh, N. M, Ganesh Kumar Mani, S. Ponnusamy, K. Tsuchiya, C. Muthamizhchelvan, and S. Kawasaki, “Influence of Al doping on the structural, morphological, optical, and gas sensing properties of ZnO nanorods”, *Journal of Alloys and Compounds* **698**, 555-564 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 12) K. Tsuchiya, A. S. Mohammad, D. Kaneko, K. Kajiwara, and M. Kimura, “Development of one electrode type pH sensor measuring in microscopic region”, *The International Journal of Applied Electromagnetics and Mechanics* **52**, 1417-1424 (2016).
- 13) Y. Uetsuji, T. Wada, and K. Tsuchiya, “Multiscale numerical investigation on effective physical properties of multiferroic BaTiO₃/CoFe₂O₄ composites”, *The International Journal of Applied Electromagnetics and Mechanics* **52**, 1245-1250 (2016).
- 14) Arockia Jayalatha Kulandaisamy, Vignesh Elavalagan, Prabakaran Shankar, Ganesh Kumar Mani, K. Jayanth Babu, and John Bosco Balaguru Rayappan, “Nanostructured Cerium-doped ZnO thin film – A breath sensor,” *Ceramics International* **42**, 18289–18295 (2016).
- 15) Manju Bhargavi Gumpu, Ganesh Kumar Mani, Noel Nesakumar, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, K Jayanth Babu, and John Bosco Balaguru Rayappan, “Electrocatalytic nanocauliflower structured fluorine doped CdO thin film as a potential arsenic sensor”, *Sensors and Actuators B: Chemical* **234**, 426–434 (2016).
- 16) Jagatheeswaran Kothandapani, Asaithampi Ganesan, Ganesh Kumar Mani, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, John Bosco Balaguru Rayappan, and Subramaniapillai Selva Ganesan, “Zinc oxide surface: a versatile nanoplatform for solvent-free synthesis of diverse isatin derivatives”, *Tetrahedron Letters* **57**, 3472–3475 (2016).
- 17) T. Komachi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, S. Takeoka, Y. Nagase, and Y. Okamura, “Adhesive and robust multi-layered poly(lactic acid) nanosheets for hemostatic dressing in liver injury model”, *J. Biomed. Mater. Res. B: Applied Biomaterials*, in press. DOI: 10.1002/jbm.b.33714.
- 18) H. Zhang, M. Fujii, Y. Okamura, L. Zhang, and S. Takeoka, “Massive fabrication of polymer microdiscs by phase separation and freestanding process”, *ACS Appl. Mater. Interfaces* **8**, 16296-16302 (2016).
- 19) 浅尾幸平, 荻野真里, 岩野篤, 岡村陽介, 武岡真司, 長瀬裕, “ホスホリルコリン基を有するポリイミドの合成と生体適合性ナノシートの作製”, *高分子論文集* **73**, 76-86 (2016).
- 20) M. Horayama, K. Shinha, K. Kabayama, T. Fujii, and H. Kimura, “Spatial Chemical Stimulation Control in Microenvironment by Microfluidic Probe Integrated Device for Cell-Based Assay”, *PLOS ONE* **11**, e0168158 (2016).
- 21) S. Yokoyama, T. S. Matsui, and S. Deguchi, “Microcontact Peeling: A Cell Micropatterning Technique for Circumventing Direct Adsorption of Proteins to Hydrophobic PDMS”, *Current Protocols in Cell Biology* **75**, 10.21.1-10.21.8 (2017).
- 22) S. Yokoyama, T. S. Matsui, and S. Deguchi, “New Wrinkling Substrate Assay Reveals Traction Force Fields of Leader and Follower Cells Undergoing Collective Migration”, *Biochemical and Biophysical Research Communications* **482**, 975-979 (2017).
- 23) 鈴木大介, 小玉翔伍, 落合成行, 砂見雄太, 橋本巨, “ドライガスシールにおける気体流れの可視化実験”, *J. Adv. Sci.*, **28**, 11005-1-11005-5 (2017).
- 24) S. Hadano, S. Mitsui, L. Pan, A. Otomo, M. Kubo, K. Sato, S. Ono, W. Onodera, K Abe, X.P. Chen, M. Koike, Y. Uchiyama, M. Aoki, E. Warabi, M. Yamamoto, T. Ishii, T. Yanagawa, H.-F. Shang, and F. Yoshii, “Functional links between SQSTM1 and ALS2 in the pathogenesis of ALS: Cumulative impact on the protection against mutant SOD1-mediated motor dysfunction in mice”, *Hum. Mol. Genet.*, **25**, 3321-3340 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 25) K. Sato, K. Suzuki-Utsunomiya, Y. Hiratsuka, S. Ono, A. Otomo, and S. Hadano, “Alteration of oligomeric states and subcellular localization of ALS2 mutants underlie the pathogenesis of ALS2-linked motor neuron diseases”, *Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration*, **17**, 118-119 (2016).
- 26) S. Mitsui, A. Otomo, M. Nozaki, S. Ono, K. Sato, R. Shirakawa, H. Adachi, M. Aoki, G. Sobue, H.-F. Shang, and S. Hadano, “Systemic overexpression of sqstm1 accelerates age of disease onset and reduces survival in SOD1H46R mice”, *Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration*, **17**, 154 (2016).
- 27) M. T. Ueda, Y. Kurosaki, T. Izumi, Y. Nakano, O.K. Oloninyi, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, and S. Nakagawa, “Functional mutations in spike glycoprotein of Zaire ebolavirus associated with an increase in infection efficiency”, *Genes to Cells*, **22**, 148-159 (2017).
- 28) S. Nakagawa and M. U. Takahashi, “gEVE: a genome-based endogenous viral element database provides comprehensive viral protein-coding sequences in mammalian genomes”, *Database (Oxford)*, baw087 (2016).
- 29) Y. Suzuki, A. Okano, K. Kabayama, A. Nishina, M. Tanigawa, K. Nishimura, and Y. Kushi, “Purification of Pyridylaminated Oligosaccharides Using 1,2-Dichloroethane Extraction” *Anal. Sci.*, **32**, 487-490 (2016).
- 30) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能集積型受精卵作出デバイスの開発”, *日本機械学科論文集*, 印刷中.
- 31) Y. Nakano, S. Sachie, H. Sumiyoshi, K. Mikami, Y. Tanno, M. Sueoka, D. Kasahara, H. Kimura, T. Moro, A. Kamiya, K. Hozumi, and Y. Inagaki, “Identification of a Novel Alpha-Fetoprotein-Expressing Cell Population Induced by Jagged1/Notch Signal in Murine Fibrotic Liver”, *Hepatology Communications* **1**, 215-229 (2017).
- 32) 宮良政彦, 高島いける, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光法による Poly(ethylene glycol) 水溶液の不凍水の分子ダイナミクス”, *東海大学紀要 理学部* **51**, 39-50 (2016).
- 33) 槌谷和義, “鍍金による金属製マイクロ針の開発”, *精密工学会* **82**, 1010-1013 (2016).
- 34) 槌谷和義, “MEMS 用圧電材料の創製技術”, *機械の研究* **68**, 1011-1023 (2016).
- 35) 槌谷和義, “精密工学をベースとした医用工学への展開”, *超音波テクノ* **29**, 93-99 (2017).
- 36) 岡村陽介, “高分子ナノシートの設計と貼る医用材料への展開”, *ケミカルエンジニアリング* **61**, 58-64 (2016).
- 37) 岡村陽介, 砂見雄太, 喜多理王, “厚み 100 nm 以下の高分子超薄膜の不思議 ~調製法・物性から医用展開まで~”, 第 59 回プラスチックフィルム研究会講座, 19-22 (2016).
- 38) 岡村陽介, “生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, *バイオマテリアル* **35**, 14-15 (2007).
- 39) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “創薬を加速するツールとしての Organ-on-a-chip の進展”, *薬剤学* **76**, 238-242 (2016).
- 40) 荒木良介, 大友麻子, 和田純希, 石田智行, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの開発”, *東海大学紀要 工学部* **54**, 67-74 (2016).
- 41) 笠原大瑚, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, “微小環境制御による肝小葉モデルの構築”, *東海大学紀要 工学部* **54**, 75-82 (2016).
- 42) 矢崎亮, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップ型マイクログルコースセンサの高性能化に関する検討”, *東海大学紀要 工学部* **54**, 83-88 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 43) 砂見雄太, 橋本巨, “ロール・ツー・ロール・プリンテッドエレクトロニクス技術への期待”, *シミュレーション* **35**, 2 (2016).
- 44) K. Imakawa, S. Nakagawa “The Phylogeny of Placental Evolution Through Dynamic Integrations of Retrotransposons” *Progress in Molecular Biology and Translational Science*, **145**, 89–109 (2017).
- 45) 宮沢孝幸, 下出紗弓, 中川草, “RD-114 物語: ネコの移動の歴史を探るレトロウイルス”, *ウイルス* **66**, 21-30 (2016).
- 46) 今川和彦, 中川草, 草間和哉, “胎盤と内在性レトロウイルス”, *ウイルス* **66**, 1-10 (2016).
- 47) 樺山一哉, “糖脂質関連分子の機能および構造解析 ~蛍光顕微鏡と質量分析装置を効果的に利用して~, *FBC Lett.* **51** (2016).
- 48) 樺山一哉, “ガングリオシドと膜タンパク質の静電的相互作用”, *生化学* **88**, 782–785 (2016).
- 49) 木村啓志, “創薬に向けた Organ/Body-on-a-chip の現状”, *HAB News Letter* **23**, 9-11 (2017).
- 50) 木村啓志, 南学正臣, 藤井輝夫, “Organ-on-a-chip の潮流と in vitro 腎臓モデルへの応用”, 月刊「腎臓内科・泌尿器科」, 科学評論社, in press (2017)
- 51) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “Organ-on-a-Chip : マイクロ流体アプローチが拓く新展開”, *日本内科学会雑誌*, in press (2017)

2015 年度 (論文・紀要等) *4

- 52) K. Maeda, N. Shinyashiki, S. Yagihara, S. Wiegand, and R. Kita, Ludwig-Soret effect of aqueous solutions of ethylene glycol oligomers, crown ethers, and glycerol: Temperature, molecular weight, and hydrogen bond effect, *J. Chem. Phys.* **143**, 124504-1 – 124504-7 (2015).
- 53) S. Sato, Y. Maruyama, H. Kamata, S. Watanabe, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Egawa, and N. Kunizawa, *Trans. Mater. Res. Soc. Jpn.* **40**, 133-136 (2015).
- 54) S. K. Kundu, S. Choe, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, *Phys. Chem. Chem. Phys.* **17**, 18449-18455 (2015).
- 55) Y. Ohnishi, R. Kita, K. Tsuchiya, and S. Iwamori, “Optical characteristics of poly(tetrafluoroethylene) thin film prepared by a vacuum evaporation” *Jpn. J. Appl. Phys.* **55**, 02BB04 (2016).
- 56) 榎谷和義, 今井尚, 大恵克俊, 上辻靖智, 人工喉頭における PZT 圧電振動体設計および音響特性評価, *スマートプロセス学会誌*, Vol. 5, No. 1, p.53-58(2016).
- 57) 榎谷和義, 滝田力也, 上辻靖智 PZT 圧電性向上に関する Au-Pt 複合バッファ層の開発, *スマートプロセス学会誌*, Vol. 5, No. 1, p.16-22(2016).
- 58) 和田剛, 上辻靖智, 榎谷和義, マルチフェロイック複合材料の電気磁気特性に及ぼす非軸分極処理の影響, *スマートプロセス学会誌*, Vol. 5, No. 1, p.9-15(2016).
- 59) Y. Uetsujia, T. Hata, T. Oka, H. Kuramae, and K. Tsuchiya, “Multiscale simulation of domain switching behavior in polycrystalline ferroelectric materials”, *Computational Materials Science*, Volume 106, Pages 100–110(2015).
- 60) Yang Lu, Yosuke Okamura, Hiroshi Kimura, “Surface modification on polydimethylsiloxane-based microchannels with fragmented poly(L-lactic acid) nanosheets”, *Biomicrofluidics* **9**, 064108 (2015).
- 61) H. Kojima, Y. Suzuki, M. Ito, K. Kabayama, “Structural Characterization of Neutral Glycosphingolipids from 3T3-L1 Adipocytes”, *Lipids* **50**, 913-917 (2015).
- 62) YH. Lee, DH. Seo, JH. Park, K. Kabayama, J. Opitz, KH. Lee., HS. Kim, TJ. Kim, “Effect of *Oenothera odorata* Root Extract on Microgravity and Disuse-Induced Muscle Atrophy”, *Evid. Based Complement Alternat. Med.* **2015**, 130513 (2015).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 63) H. Kimura, T. Ikeda, H. Nakayama, Y. Sakai, T. Fujii, "An On-chip Small Intestine-Liver Model for Pharmacokinetic Studies", *Journal of Laboratory Automations* **20**, 265-273 (2015).
- 64) L. Yang, Y. Okamura, H. Kimura, "Surface Modification on Polydimethylsiloxane-based Microchannels with Fragmented Poly(L-lactic acid) Nanosheets", *Biomicrofluidics* **9**, 064108 (2015).
- 65) M. Komeya, H. Kimura, H. Nakamura, T. Yokonishi, T. Sato, K. Kojima, K. Hayashi, K. Katagiri, H. Yamanaka, H. Sanjo, M. Yao, S. Kamimura, K. Inoue, N. Ogonuki, A. Ogura, T. Fujii, T. Ogawa, "Long-term ex vivo maintenance of testis tissues producing fertile sperm in a microfluidic device", *Scientific Reports* **6**, 21472, DOI: 10.1038/srep21472, (2016).
- 66) H. Kimura, T. Ikeda, H. Nakayama, Y. Sakai, T. Fujii, "An On-chip Small Intestine-Liver Model for Pharmacokinetic Studies", *Journal of Laboratory Automations* **20**, 265-273 (2015).
- 67) K. Fujitani, A. Otomo, M. Wada, N. Takamatsu, and M. Ito, "Sexually dimorphic expression of Dmrt1 and γ H2AX in germ stem cells during gonadal development in *Xenopus laevis*", *FEBS Open Bio.* **6**, 276–284 (2016).
- 68) Akihito Akishinonmiya, Y. Ikeda, M. Aizawa, S. Nakagawa, Y. Umehara, T. Yonezawa, S. Mano, M. Hasegawa, T. Nakabo, T. Gojobori, "Speciation of two gobioid species, *Pterogobius elapoides* and *Pterogobius zonoleucus* revealed by multi-locus nuclear and mitochondrial DNA analyses", *Gene* **576**, 593-602 (2015).
- 69) M. Ochiai, H. Sasaki, Y. Sunami, H. Hashimoto, "Experimental and Theoretical Verification of Impact Response on Air Thrust Bearing with Topological Optimized Groove", *Tribology Online*, **10**, 115-120 (2015).
- 70) H. Hashimoto and Y. Sunami, "Optimization of Winding Conditions Considering Web Thickness Variation in Width Direction and Experimental Verification", *Mechanical Engineering Journal* **6**, 1-12 (2015).
- 71) H. Hashimoto and Y. Sunami, "Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermo-viscoelastic Property and Its Experimental Verification", *Mechanical Engineering Journal* **6**, 1-14 (2016).
- 72) R.N. Miyaho, S. Nakagawa, A. Hashimoto-Gotoh, Y. Nakaya, S. Shimode, S. Sakaguchi, R. Yoshikawa, M. U. Takahashi, T. Miyazawa, "Susceptibility of domestic animals to a pseudotype virus bearing RD-114 virus envelope protein", *Gene* **567**, 189-195 (2015).
- 73) M. Kawamura, S. Watanabe, Y. Odahara, S. Nakagawa, Y. Endo, H. Tsujimoto, K. Nishigaki, "Genetic diversity in the feline leukemia virus gag gene", *Virus Research* **204**, 74-81(2015).
- 74) R. Yoshikawa, M. Okamoto, S. Sakaguchi, S. Nakagawa, T. Miura, H. Hirai, T. Miyazawa, "Simian Retrovirus 4 Induces Lethal Acute Thrombocytopenia in Japanese Macaques", *Journal of Virology* **89**, 3965-3975 (2015).
- 75) 八木原晋, 喜多理王, 新屋敷直木, 福崎稔, 水溶液の誘電緩和—高分子と水の広帯域ダイナミクスからの物性・生体評価—, 第37回高分子と水・分離に関する研究会講座 **37**, 17-20 (2015).
- 76) 宮良政彦, 高島いける, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電分光法による Poly(ethylene glycol) 水溶液の不凍水の分子ダイナミクス, *東海大学紀要 理学部* **51**, 39-50 (2016).
- 77) 喜多理王, ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析、文部科学省新学術領域「ゆらぎと構造の協奏」非平衡系における普遍法則の確立 H27 年度研究成果報告書、64-65 (2016).
- 78) 榎谷和義, 解説「C 型形状圧電アクチュエータを用いたユニットモデルの開発」, *超音波テクノ*,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

28, 91-98 (2016).

- 79) 樋谷和義, 解説「溝付加による中空管マイクロポンプ用アクチュエータ性能向上」, *超音波テクノ*, **28**, 54-64 (2016).
- 80) 樋谷和義, 解説「痛み治療に関わるドラッグデリバリーシステム ナノテクノロジーから生まれる未来の注射針の開発」, *麻酔*, **64**, 1166-1174 (2015).
- 81) Y. Okamura, Y. Nagase, S. Takeoka. “Patchwork coating of fragmented ultra-thin films and their biomedical applications in burn therapy and antithrombotic coating”, *Materials* **8**, 7604-7614 (2015).
- 82) 岡村 陽介, 長瀬 裕, “裁断化高分子超薄膜の創製と水性表面改質材としてのパッチワークコーティング”, *塗装工学* **50** (9), 310-315 (2015).
- 83) 岡村 陽介. 生分解性高分子からなる超薄膜の医用展開. *化学工業* **67** (3), 48-54 (2016).
- 84) 岡村 陽介, 石原 一彦監修, “高分子超薄膜を用いた未活性浮遊細菌固定技術“ナノラッピング”の確立と機能解明”, *文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型) ナノメディシン分子科学 平成27年度研究成果報告書*, 64-67 (2016).
- 85) 桑畑周司, 山口健志, 小島寿夫, 榎山一哉, “大気圧プラズマジェット照射によるリン脂質の分解”, *表面科学* **36**, 257-262 (2015).
- 86) T.J. Kim, Y.H. Lee, D.H. Seo, Jh. Park, H. Kim, K. Kabayama, J. Opitz, K. Lee, “Effect of Oenothera Odorata Root Extract on Microgravity and Disuse-Induced Muscle Atrophy”, *evidence-Based Complementary and Alternative Medicine* **130513** (2015).
- 87) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “マイクロ流体デバイス技術による Organ/Body-on-a-chip の実現に向けた取り組み”, *月刊「細胞」ニュー・サイエンス社*, **48**, 148-151 (2016).
- 88) S. Ono, A. Otomo, W. Onodera, K. Sato, S. Mitsui, M. Fukuda, S. Hadano, “The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2 in recycling endosomes”, *ALS/FTD* **16**, Supplement 1, 182 (2015).
- 89) K. Imakawa, S Nakagawa, and T. Miyazawa, “Baton pass hypothesis: Successive incorporation of unconserved endogenous retroviral genes for placentation during mammalian evolution”, *Genes to Cells* **20**, 771-788 (2015).
- 90) 宮沢孝幸, 中川草, “レトロウイルスの起源と進化”, *実験医学増刊* **33**, 117-126 (2015).
- 91) 坂口翔一, 小出りえ, 中川草, 宮沢孝幸, “猫モルビリウイルス研究の最前線”, *Felis* **07**, 110-116 (2015).

2014年度(論文・紀要等) *4

- 92) W. Sirithep, K. Morita, A. Iwano, T. Komachi, Y. Okamura, Y. Nagase, “Syntheses and properties of elastic copoly(ester-urethane)s containing a phospholipid moiety and the fabrication of nanosheets”, *Journal of Biomaterials Science, Polymer Edition* **25**, 1540-1557 (2014).
- 93) A. Iwano, K. Morita, W. Sirithep, Y. Okamura, Y. Nagase, “Synthesis of biocompatible elastic polyurethane containing phospholipid moiety” *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **39**, 411-414 (2014).
- 94) Y. Okamura, Y. Nagase, “Fabrication of bio-friendly polymer nanosheets for biomedical applications”, *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **39**, 379-384 (2014).
- 95) 岡村陽介, “高分子超薄膜の不思議 ～新規医用材料への挑戦～”, *化学と工業* **67**, 705-706 (2014).
- 96) Y. Nagase, Y. Okamura, “Synthesis of new biocompatible polymers and fabrication of nanosheets”,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

Biomedical Engineering, published by Intech **1**, 3-20 (2015).

- 97) Y. Uetsuji, T. Hata, H. Kuramae, K. Tsuchiya, “Homogenization modeling of domain switching in ferroelectric materials”, *ACTA MECHANICA* **225**, 2969-2986 (2014).
- 98) 植谷和義, 梶原景正, 木村穰, 「痛みの定量化に基づく新規低侵襲針の開発」, *臨床麻酔* **38**, 8, 通巻 461 号(2014).
- 99) K. Tsuchiya, “The Painless Injection Tube: From Bio-mimetic Technology to Medical Engineering”, *Thought-Evoking Approaches in Engineering Problems*, Springer, 71-94 (2014).
- 100) 植谷和義, 無痛針を有する糖尿病センサの開発, *バイオセンサの先端科学技術と新製品への応用開発*, 技術情報協会, 272-279 (2014).
- 101) K. Maeda, N. Shinyashiki, S. Wiegand, S. Yagihara, R. Kita, “How does thermodiffusion of aqueous solutions depend on concentration and hydrophobicity?”, *European Physical Journal E* **37**, 94-100 (2014).
- 102) W. Yamamoto, K. Sasaki, R. Kita, S. Yagihara, N. Shinyashiki, “Dielectric study on temperature-concentration superposition of liquid to glass in fructose-water mixtures”, *Journal of Molecular Liquids* **206**, 39-46 (2015).
- 103) K. Sasaki, M. Miyara, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, “Dynamics of water in the partially crystallized gelatin water mixture”, *Journal of Advanced Science* **24**, 41-44 (2014).
- 104) 喜多理王, 田中文彦, “Cプログラミングによる分子シミュレーション”, *高分子物理学特論2 増補版2014年度*, 1-181, (2014).
- 105) 川口翼, 斉藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “誘電分光法と PFG-SE NMR 法を用いた豆腐ゲルの水構造ダイナミクス”, *東海大学理学部紀要* **50**, 111-119 (2015) .
- 106) 喜多理王, 佐野雅己監修, “ゆらぎと構造の協奏-非平衡系における普遍法則の確立-“, *文部科学省科研費 新学術領域研究報告書2502*, (2015).
- 107) H. Nakayama, H. Kimura, T. Fujii, Y. Sakai, “Image-based evaluations of distribution and cytotoxicity of Irinotecan (CPT-11) in a multi-compartment micro-cell coculture device”, *J. Biosci. Bioeng.* **117**, 756–762, (2014).
- 108) M. Shinohara, H. Kimura, K. Montagne, K. Komori, T. Fujii, Y. Sakai, “Combination of microwell structures and direct oxygenation enables efficient and size-regulated aggregate formation of an insulin-secreting pancreatic beta-cell line”, *Biotechnol. Prog.* **30**, 178-187 (2014).
- 109) P.V. Hauser, M. Nishikawa, H. Kimura, T. Fujii, N. Yanagawa, “Controlled Tubulogenesis from Dispersed Ureteric Bud-derived Cells Using a Micropatterned Gel”, *Journal of Tissue Engineering and Regenerative Medicine*, DOI: 10.1002/term.1871, (2014).
- 110) H. Tozawa, T. Maekawa, H. Kimura, T. Fujii, “A novel effect of parylene-based surface coating on HepG2 cell function”, *Materials Science and Engineering C*, **46**, 190-194 (2014).
- 111) H. Kimura, T. Ikeda, H. Nakayama, Y. Sakai, T. Fujii, “An On-chip Small Intestine-Liver Model for Pharmacokinetic Studies”, *Journal of Laboratory Automations*, **20**, 265-273 (2015).
- 112) H. Hashimoto, Y. Sunami, H. Fujita, “Effect of Static Electricity on Static Friction Force between Plastic Film and Steel Roller”, *IMEchE Journal of Engineering Tribology* **228**, 1008-1014 (2014) .
- 113) M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Study on Angular Displacement Characteristics on Topological Optimum Design of Hydrodynamic Thrust Air Bearing”, *IMEchE Journal of Engineering Tribology* **228**, 997-1007 (2014).
- 114) M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Vibration Response Characteristics against the Radial and

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

Axial Shocks on Small Size Hard Disk Drive Spindle Supported by Oil Film Bearings”, *Journal of Mechanics Engineering and Automation* **4**, 547-554 (2014).

- 115) 落合成行, 成瀬祐太, 砂見雄太, 橋本巨, “ジャーナル油膜軸受の安定性に及ぼす供給油量の影響とそのヒステリシス特性”, *トライボロジスト* **59**, 437-444 (2014).
- 116) 砂見雄太, “トライボロジストとしての過去・現在・未来”, *トライボロジスト* **60**, 126-131, (2015).
- 117) K. Suyama, M. Watanabe, K. Sakabe, A. Otomo, Y. Okada, H. Terayama, T. Imai, J. Mochida, “GRP78 suppresses lipid peroxidation and promotes cellular antioxidant levels in glial cells following hydrogen peroxide exposure”, *PLoS One*. e86951 (2014).
- 118) SH. Son, S. Daikoku, A. Ohtake, K. Suzuki, K. Kabayama, Y. Ito, O. Kanie, “Syntheses of Lactosyl Ceramide Analogues Carrying Novel Bifunctional BODIPY Dyes Directed towards the Differential Analysis of Multiplexed Glycosphingolipids by MS/MS using iTRAQ”, *Chem. Commun.* **50**, 3010-3013 (2014).
- 119) H. Kuwahata, T. Yamaguchi, H. Kojima, K. Kabayama, “Atmospheric-Pressure Plasma Jet Irradiation onto Main Components of the Cell Wall and Membrane of *Escherichia Coli*.”, *e-Journal of Surface Science and Nanotechnology* **12**, 400-403 (2014).
- 120) WJ. Kim, HS. Kim, J. Opitz, K. Kabayama, TJ Kim, “Effect of Cymbidium Root Extracts on Oxidative Stress-induced Myoblasts Damage”, *Journal of Life Science* **24**, 1019-1024 (2014).
- 121) S. Sakaguchi, S. Nakagawa, R. Yoshikawa, C. Kuwahara, H. Hagiwara, K. Asai, K. Kawakami, Y. Yamamoto, M. Ogawa, and T. Miyazawa, “Genetic diversity of feline morbilliviruses isolated in Japan”, *Journal of General Virology* **95**, 1464-1468 (2014).
- 122) R. Yoshikawa, S. Nakagawa, M. Okamura, T. Miyazawa, “Construction of an infectious clone of simian foamy virus of Japanese macaque (SFVjm) and phylogenetic analyses of SFVjm isolates”, *Gene* **548**, 149-154 (2014).
- 123) S. Shimode, S. Nakagawa, T. Miyazawa, “Multiple invasions of infectious retrovirus in cat genomes”, *Scientific Reports* **5**, 8164 (2015).

<図書>

2016年度(図書)*4

- 1) 喜多理王, “第3章 温度勾配がある系におけるレーザ干渉法を用いた分子拡散測定”, *第28回 散乱研究会テキスト*, 大塚電子株式会社, 3-1-3-16 (2016).
- 2) 岡村陽介, 長瀬 裕, “第4章 生体親和性高分子からなる超薄膜の設計と臓器閉鎖材への応用”, *手術用シーラント材・癒着防止剤の利便性向上を目指した製品開発*, 技術情報協会, 296-299 (2016).
- 3) 岡村陽介, “第6章 裁断化超薄膜の調製法と水性表面改質材への応用 ~熱傷治療・血液適合界面の提供~”, *生体適合性高分子材料の最前線 -医療用バイオマテリアルの研究開発-*, シーエムシー出版, 237-245 (2017).
- 4) 中川草, UJA (海外日本人研究者ネットワーク) 編, *カガクシャ・ネット編集協力, 研究留学のすゝめ!*, 羊土社 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2015年度(図書)*4

- 5) R. Kita and T. Dobashi, Eds. Nano/Micro Science and Technology in Biorheology: Principle, Methods, and Applications, Springer, Tokyo, (2015).
- 6) K. Tsuchiya, The Painless Injection Tube: From Bio-mimetic Technology to Medical Engineering. In *Yoshimo Ito Ed., Thought-Evoking Approaches in Engineering Problems*. pp. 71- 94. Springer, Switzerland (2014).
- 7) Y. Nagase, Y. Okamura. Synthesis of new biocompatible polymers and fabrication of nanosheets. *Advances in Bioengineering, 2nd ed.*, Andrea Serra, P.A., Eds. InTech: Rijeka, Croatia, 1, pp.3-20 (2015) (分担執筆).

2014年度(図書)*4

- 8) K. Kabayama, H. Kojima, Y. Suzuki, Glycolipid Raft, *Glycoscience: Biology and Medicine*. Springer (2014).

<学会発表>

2016年度(招待講演)*4

- 1) 喜多理王, “「事業概略説明」および「知る／高分子の分子物性解析、レオロジー解析」”, 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター 平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 中間報告会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 2) 喜多理王, 園田晴久, “東海大学イメージング研究センターにおける産学連携について”, 第5回 SAS技術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月16日.
- 3) R. Kita, “Thermal diffusion of aqueous solutions of polymers”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 4) 喜多理王, “温度勾配がある系におけるレーザ干渉法を用いた分子拡散測定”, 第28回散乱研究会(大塚電子株式会社), ヒューリック浅草橋ビル(台東区), 2016年11月25日.
- 5) 喜多理王, “東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターの取り組みおよび非平衡系の高分子溶液物性”, WEBハンドリング技術研究会 11月度特別合宿勉強会, 東海大学山中湖セミナーハウス(山中湖村), 2016年11月18-19日.
- 6) 喜多理王, “分子溶液の温度勾配下における輸送現象”, 第28回液体の化学 夏の学校, 大学セミナーハウス(八王子市), 2016年8月29-31日.
- 7) K. Tsuchiya, “Development of mobile hospital with painless micro needles”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 8) 樋谷和義, “バイオミメティクスとナノテクノロジー”, 痛みの数値化法に基づく新しい機能性注射針の開発, 2016 ナノ理工学セミナー, 大阪大学豊中キャンパス(豊中市), 2016年10月25日.
- 9) 樋谷和義, “蚊からうまれた無痛針のお話”, ウェブハンドリング技術研究会 10月度特別合宿勉強会, 東海大学山中湖セミナーハウス(山中湖村), 2016年10月14日.
- 10) 樋谷和義, “蚊からうまれた無痛針のお話”, 平成28年度茨城県立図書館共催放送大学ライブラリー講演会, 茨城県立図書館(水戸市), 2016年8月27日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 11) Ganesh Kumar Mani, “Micro needles & Micro fluidics based sensors: State of art and future prospects”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 12) Ganesh Kumar Mani, “Chemical Sensors for Food Quality & Bio-Medical Applications”, International Conference on Materials Research and Applications (ICMRA 2016), CMR Technical Campus, Hyderabad, India, March 11-13, 2016.
- 13) Ganesh Kumar Mani, “Chemical Sensors for Food Quality & Bio-Medical Applications”, International Conference on Recent Trends in Engineering and Material Sciences(ICEMS-2016), Jaipur National University, Jaipur, India, March 17-19, 2016.
- 14) Ganesh Kumar Mani, “Chemical Sensors”. Graduate School of Engineering, Fukuoka Institute of Technology, December 20, 2016.
- 15) 岡村陽介, “面をもつナノ材料(シート・ディスク)の設計と医用展開”, 東京大学第 1 回バイオマテリアル若手セミナー, 東京大学本郷キャンパス (文京区), 2016 年 7 月 20 日.
- 16) Y. Okamura, Y. Nagase, “Fabrication of freestanding bio-friendly nanosheets and their biomedical applications”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 17) Y. Nagase, Y. Okamura, “Surface modification by nanosheets-coating composed of novel functional polymers”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 18) 岡村陽介, “受賞講演: 生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016 年 11 月 21 日.
- 19) 岡村陽介, 砂見雄太, 喜多理王, “厚み 100 nm 以下の高分子超薄膜の不思議 ～調製法・物性から医用展開まで～”, 第 59 回プラスチックフィルム研究会講座, 東京工業大学大岡山キャンパス (目黒区), 2016 年 12 月 2 日.
- 20) 岡村陽介, “高分子ナノシートの設計と貼るナノ材料としての医用応用”, 日本機械学会情報・知能・精密機器部門, 日本機会学会本部 (新宿区), 2017 年 1 月 20 日.
- 21) 岡村陽介, “高分子ナノシートの創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本機会学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 15 日.
- 22) H. Kimura, “Microfluidic Spatiotemporal Control Technology for Organ-on-a-Chip”, Organ-on-a-chip World Congress 2016, Boston, MA, USA, July 7-8.
- 23) 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用した Organ-on-a-Chip の試み”, 川島カンファレンス (各務原市), 内藤記念くすり博物館, 2016 年 10 月 22-23 日.
- 24) 木村啓志, “Organ/Body-on-a-Chip 実現に向けた試み”, CBI 学会 2016 年大会, タワーホール船越 (江戸川区), 2016 年 10 月 25-27 日.
- 25) 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用した in vitro モデル～医工連携の試み～”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原校舎 (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 26) Y. Sunami, “Web handling technology for thin plastic films”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 27) 砂見雄太, “ロール・ツー・ロールを駆使した高分子ナノシートの作製”, 日本機械学会 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会(3)第 2 回事例報告会, 日本機械学会 (新宿区), 2017 年 1 月 20 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 28) 中川 草, “大規模配列解析が明らかにする哺乳類ゲノムに内在化したウイルス由来の配列の機能獲得と進化”, 琉球大学ゲノミクス研究セミナー, 琉球大学医学部 (沖縄), 2017年1月6日.
- 29) S. Nakagawa, “Dynamic evolution of genes derived from endogenous viral elements in mammalian species”, Okinawa Institute of Science and Technology Seminar, Onna, Okinawa, January 5, 2017.
- 30) 中川 草, “大規模配列解析が明らかにする哺乳類ゲノムに内在化したウイルス由来の配列の機能獲得と進化”, 慶應 Bioinformatics Community・分子生物学教室共催セミナー, 慶應義塾大学信濃町キャンパス (東京), 2016年10月27日.
- 31) 中川 草, “私のキャリア開発～アカデミックポディションを取るために～”, 東京医科歯科大学生命理工学系 OB/OG キャリアセミナー2, 東京医科歯科大学 (東京), 2016年7月23日.
- 32) S. Nakagawa, “gEVE, genome-scale endogenous viral element database, and its applications”, 1st Korea-Japan International Symposium for Transposable Elements, Pusan National University, Pusan, Korea, June 10, 2016.
- 33) 樺山一哉, “ケミカルバイオロジーによる細胞膜糖鎖関連分子の機能解析”, 難治性疾患治療開発のための革新的イメージ脂質生物学の確立 平成 27 年度研究成果発表会特別講演, 私立大学戦略的研究基礎成形事業「脂質ワールドの臨床応用を目指す研究拠点形成」 (金沢), 2016年5月23日.
- 34) 樺山一哉, “イメージング技術と質量分析技術を用いた糖鎖関連分子の機能解析に向けて”, 第7回グライコバイオロジクス研究会, 大阪大学銀杏会館 (大阪), 2016年10月25日.
- 35) 樺山一哉, “Meet the EXPERT: プレミアムハンズオントレーニング”, タイムラプスから始めるライブセルイメージング ハンズオントレーニング講師, サーモフィッシャーサイエンティフィック (田町), 2016年12月20日.
- 36) 樺山一哉, “ α 線内用療法を志向した抗体の細胞内動態解析”, 和光純薬 社内セミナー, 和光純薬本社 (淀屋橋), 2017年3月14日.

2015年度 (招待講演) *4

- 37) 喜多理王, マイクロ・ナノ研究開発センターにおける先行事例紹介, 異分野融合研究プログラム “研究の峰” オープン・フォーラム, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2015年6月17日.
- 38) 喜多理王, 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」, 医療機器産業参入セミナー, KSP ホール (川崎市), 2015年7月2日.
- 39) 喜多理王, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会の取り組みについて, 東海大学環境・エネルギー研究会 第1回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016年3月31日.
- 40) 樋谷和義, マイクロ加工研究会主催第五十二回: マイクロ加工懇談会, 「痛みの数値化法に基づく新しい注射針と極微小領域センサの開発」, 理研板橋連携研究センター, 2015年9月3日
- 41) 樋谷和義, 公益財団法人 横浜企業経営支援財団横浜医療機器ビジネス研究会 第2回医療ニーズセミナー「痛みの客観的評価法に基づく新しい注射針と携帯型健康監視システムの開発」, 公益財団法人 横浜企業経営支援財団 2015年8月31日
- 42) 岡村 陽介, 生分解性高分子からなる超薄膜(ナノシート)の創製と新規医用材料への展開. 大阪大学化学・高分子化学専攻講演会, 大阪大学豊中キャンパス (豊中市), 2015年4月21日.
- 43) 岡村 陽介, 生分解性超薄膜(ナノシート)の創製と新規医用材料への応用展開. 第19回 NMMS セミナー, 東京大学本郷キャンパス (文京区), 2015年5月12日.
- 44) 岡村 陽介, ナノ厚に加工した高分子超薄膜の不思議 ～新規医用材料への挑戦～. 日本接着学会粘着研究会5月度例会, 東京大学弥生キャンパス (文京区), 2015年5月15日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 45) 岡村 陽介. 高分子ナノ・マイクロディスク ～新規製造法の提案と医療分野への挑戦～. イノベーションジャパン 2015 -大学見本市, 東京ビックサイト (江東区), 2015年8月27-28日.
- 46) 岡村 陽介. 高分子超薄膜の開発とユニークな特性を利用した医療領域への応用展開. 第351回ゴム技術フォーラム月例会, 日本ゴム協会東部ビル (港区), 2015年9月10日.
- 47) 岡村 陽介. 面をもつ生体適合性ナノ材料の創製とユニークな特性 ～新規医用材料への挑戦～. 東海医学会講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015年10月29日.
- 48) 岡村 陽介. マテリアルの厚みで組織接着性を制御する ～高分子超薄膜の創製と医用展開～. 日本接着学会生体材料接着研究会, 東京医科歯科大学 (文京区), 2016年2月1日.
- 49) 樺山 一哉. 細胞膜分子イメージングの新たな試み, 金沢医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業中間成果発表会特別講演, 金沢医科大学 (2015年4月14日)
- 50) 樺山 一哉. 細胞膜分子イメージングの医用応用にむけて, 東海大医学会例会, 伊勢原 (2015年5月27日)
- 51) 樺山 一哉. スフィンゴミエリン合成酵素欠損細胞を用いた細胞膜分子の機能解析, ERATO 村田脂質活性構造プロジェクト 夏のセミナー, 滋賀 (2015年8月26日)
- 52) 樺山 一哉. 脂質ラフトの構造および機能解明における新規アプローチ 細胞機能科学セミナー, 札幌 (2015年10月30日)
- 53) 樺山 一哉. 顕微鏡と質量分析を用いた糖脂質の機能および構造解析 第18回生命化学研究会, 長崎 (2016年1月8日～9日)
- 54) 樺山 一哉. ライブセルイメージングの活用 第87回表面科学研究会 平成27年度中部表面科学シンポジウム, 名古屋 (2016年1月23日)
- 55) 樺山 一哉. 糖脂質の機能を『知る』『観る』『使う』ために 蛋白研セミナー, 吹田 (2016年3月3日～4日)
- 56) H. Kimura, "Microfluidic Spatial Control Technologies for Organ/Body-on-a-chip", Organ-on-a-chip World Congress, Boston, MA, USA, July 8-9, 2015
- 57) H. Kimura, "Microfluidic Environmental Control Technologies for Organ-on-a-chip", Lab-on-a-Chip Asia, Singapore, Nov.19-20, 2015
- 58) 木村啓志, 大友麻子, 榎谷和義 “『高分子超薄膜から創成する次世代医用技術』: 試すチーム”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, 東海大学清水校舎, 2016年2月19-20日
- 59) 中川草, NGS を活用して宿主で機能するウイルス由来の遺伝子を探索する、NGS 現場の会 第四回研究会、筑波 (つくば国際会議場)、7/1-3, 2015

2014年度 (招待講演) *4

- 60) 岡村 陽介, ユニークな特性を発現するナノ構造体と医用応用～医工連携体制における共同研究～. 東海大学総合医学研究所第10回研修会, 山水楼 (湯河原), 2014年10月.
- 61) 岡村 陽介, ユニークな特性を発現する高分子超薄膜の開発と医用応用. 2014年度 SAS 技術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014年11月.
- 62) 岡村 陽介, 止血能を発現するナノ粒子(人工血小板)の設計と特徴. (一社)日本粉体工業技術協会 2014年度第2回造粒分科会 技術討論会, ライオン(株)伊豆高原研修センター (伊豆高原), 2015年3月.
- 63) K. Tsuchiya, MAPT2015, Development of functional microtube by thin film process, International Conference on Materials Processing Technology 2015, January 29-30, 2015, Bangkok, Thailand.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 64) 樋谷和義, 株式会社 電子ジャーナル, 無痛針を用いた糖尿病センサ★徹底解説, Electronic Journal 第 2494 回 Technical Seminar, 2014 年 10 月 21 日, 連合会館(東京・御茶ノ水).
- 65) 樋谷和義, 株式会社大塚製薬工場 ナノテクノロジーが拓く近未来の医療, 第 12 回 周術期体液・代謝・侵襲研究会, 2014 年 08 月 02 日 品川プリンスホテル アネックスタワー5 階「プリンスホール」.
- 66) 喜多理王, 水溶性高分子の温度勾配下における熱物質拡散現象, 14-1 高分子と水・分離に関する研究会－2014 年度界面動電現象研究会, 筑波大学東京キャンパス文京校舎 (文京区), 2015 年 3 月 6 日.
- 67) 喜多理王, 温度勾配による濃度勾配形成現象の測定と解析, 北海道大学第 364 回高分子談話会, 北海道大学 (札幌市), 2014 年 9 月 11 日.
- 68) 喜多理王, 高分子溶液における温度勾配による濃度勾配形成現象の測定と解析, 群馬大学理工学府公開セミナー (ファイブバイオ工学セミナー), 群馬大学 (桐生市), 2014 年 8 月 15 日.
- 69) 喜多理王, ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析, ゆらぎと構造の協奏 News Letter Vol. 3, 8 (2014).
- 70) 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いたバイオ環境操作”, 表面技術協会関東支部第 88 回講演会「バイオインターフェイスとしてのマテリアル・デバイス」, 東京医科歯科大学 湯島キャンパス, 2014 年 10 月 24 日
- 71) 樺山一哉, 糖質科学における自我作古, 第 33 回糖質学会年会ワークショップ『糖質科学の横展開』・名古屋 8 月 10 日 (2014). *ワークショップ世話人.
- 72) 樺山一哉, 蛍光顕微鏡と質量分析装置から探る脂質ラフトの構造と機能, ERATO 村田脂質活性構造プロジェクト 夏のセミナー・淡路 8 月 29 日 (2014).
- 73) 樺山一哉, ライブセルイメージングをいろんな所で活用するために, ニコンサイエンスカフェ・みなとみらい 11 月 26 日 (2014) .
- 74) 樺山一哉, タイムラプスから始めるライブセルイメージング, ライフテクノロジーズジャパン プレミアムハンズオントレーニング・田町, 12 月 16 日 (2014).
- 75) 樺山一哉, 糖鎖関連分子を見る ～蛍光顕微鏡を駆使した解析法～, 神奈川科学技術アカデミー (KAST) 教育講座「糖鎖科学・糖鎖工学への招待コース」, 川崎 1 月 22 日 (2015).
- 76) 中川草, 博士の魅力シリーズ: 私の海外研究生活体験談と海外日本人研究者ネットワーク (UJA) の紹介, 東京医科歯科大学大学院 生命理工学系専攻「疾患予防科学コース」ミニシンポジウム, 東京医科歯科大学 (千代田区), 2014 年 7 月.
- 77) 中川草, ウイルス研究のためのバイオインフォマティクス - 分子系統解析から NGS データ解析まで, 京都大学ウイルス研究所生物情報解析研修会, ラフォーレ琵琶湖 (滋賀), 2015 年 3 月.

2016 年度 (国際会議) *4

- 1) S. Yagihara, T. Saito, K. Shoji, R. Kita, N. Shinyashiki, and M. Fukuzaki, “Characterization of Open-End Coaxial Electrodes for Broadband Dielectric Spectroscopy Measurements as Non-Destructive Test of Various Molecular Complex Systems”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 2) K. Shoji, T. Saito, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, T. Ouzono, S. Nishimura, M. Hayashi, and H. Tanaka, “Study of Molecular Dynamics and Aggregation Structuring with Water for

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

Edible Oil by Dielectric Spectroscopy”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.

- 3) Y. Hori, T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, S. Sudo, and Y. Suzuki, “Anisotropic Diffusion and Relaxation of Water Molecules in Wood Observed by PFG-NMR”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 4) T. Saito, H. Asano, H. Saito, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Evaluate the Effects of Blood in the Biological Tissue Measured by Non-Invasive Dielectric Spectroscopy”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 5) T. Yasuda, Y. Matsui, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric Relaxation Time of Ice-Ih in Partially Crystallized polymer Aqueous Mixtures”, The 11 th SPSJ International Polymer Conferende (IPC2016), Fukuoka International Congress Center, Fukuoka, Dec. 13-16, 2016.
- 6) M. Takatsuka, T. Maeda, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Glass transition of water and polymer in poly (vinyl methyl ether) –water mixtures”, The 11 th SPSJ International Polymer Conferende (IPC2016), Fukuoka International Congress Center, Fukuoka, Dec. 13-16, 2016.
- 7) R. Kita, M. Yamamoto, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and F. Tanaka, “Thermodiffusion of Aqueous and Non-aqueous Solutions of Poly(isopropylacrylamide)”, The 11 th Asian Theromphysical Properties Conference, Pasifico YOKOHAMA, Yokohama, Oct. 2- 6, 2016.
- 8) K. Sasaki, T. Yasuda, Y. Matsui, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric relaxation time of ice Ih in partially crystallized aqueous polymer mixtures”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 2016.
- 9) H. Saito, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihar, M. Fukuzaki, and M. Tokita, “Dynamic behaviors of aqueous solutions restrected with the volume phase transition of poly(acryl amide) gels”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 2016.
- 10) M. Miyara, I. Takashima, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric study of water in partially crystallized poly (ethylene glycol)-water mixtures”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 12, 2016.
- 11) N. Shinyashiki, K. Sasaki, R. Kita, and S. Yagihara, “Dynamics of water, solute, and ice in partially crystallized aqueous solutions studied by broadband dielectric spectroscopy”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 2016.
- 12) K. Eguchi, D. Niether, S. Wiegand, and R. Kita, “Thermophoresis of cyclic and linear oligosaccharides in water”, 4th International Soft Matter Conference, Grenoble, France, Sep. 13, 2016.
- 13) T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara and M. Fukuzaki, “Observation and Complementary Analysis for Water Dynamics of Tofu Gel using PFG-NMR and Dielectric Spectroscopy”, 11th International Conference on Electromagnetic Wave Interaction with Water and Moist Substanc, Italy, May 2016.
- 14) S. Yagihara, F. Abe, N. Nishi, H. Saito, M. Asano, S. Watanabe, R. Kita, N. Shinyashiki, M. Fukuzaki, S. Sudo, and Y. Suzuki, “Dielectric Study on Dynamics of Water Molecules and Ions Restricted in Cement and Wood Materials”, 11th International Conference on Electromagnetic Wave Interaction with Water and Moist Substanc, Italy, May 2016.
- 15) K. Eguchi, N. Shinyashiki, Shin Yagihara, and R. Kita, “Thermal diffusion of cyclodextrin in water and in aprotic polar solvent”, 12th International Meeting on Thermodiffusion, Madrid, Spain, May 2016.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 16) K. Nakayama, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Thermophoretic Forces Measured by Single Particle Tracking”, 12th International Meeting on Thermodiffusion, Madrid, Spain, May 2016.
- 17) M. Yamamoto and R. Kita, “Development of Concentration Gradient under a Large Temperature Gradient for Aqueous Solution of PNIPAM”, 12th International Meeting on Thermodiffusion, Madrid, Spain, May 2016.
- 18) Ganesh Kumar Mani, Yutaka Yasoda, Hiroshi Kimura and Kazuyoshi Tsuchiya, “Ag/AgIO₃ : A Novel and Promising Electrode Material for Thin Film Type Microfluidic pH Sensor”, The 16th International Meeting on Chemical Sensors, Jeju Korea, July 10, 2016.
- 19) Ganesh Kumar Mani, Prabakaran Sankar, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, Madeshwari Ezhilan, Pathasarathy Srinivasan, Dhivya Ponnusamy, Kazuyoshi Tsuchiya and John Bosco Balaguru Rayappan, “ZnO Nanoarchitectures: Ultrahigh Sensitive Room Temperature Sensors for Meat Quality Discrimination”, The 16th International Meeting on Chemical Sensors, Jeju Korea, July 10, 2016.
- 20) Yutaka Yasoda, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, “Piezoelectricity Improvement of BaTiO₃ Thin Film by Additive Element Search Method Using First-Principles Calculation”, 2016 International Conference on Precision Engineering (ICPE), Hamamatsu, November 14-16, 2016.
- 21) Ganesh Kumar Mani, Yutaka Yasoda, Gaku Tsuruzoe, Fumio Eura and Kazuyoshi Tsuchiya, “A Novel Electrolyte Free Solid State pH Sensor for Bio-MEMS Applications”, 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS), Nagoya, November 28-30, 2016.
- 22) Gaku Tsuruzoe, and Kazuyoshi Tsuchiya, “Development of the pH Measurement Sensor to be Mounted on the Oral Measurement Device”, 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS), Nagoya, November 28-30, 2016.
- 23) Y. Okamura, T. Komachi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, S. Takeoka, Y. Nagase, “Fabrication of biodegradable multi-layered nanosheets to reinforce the bursting strength and maintain high adhesiveness for a wound dressing in partial hepatectomy”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 19, 2016.
- 24) Y. Nagase, Y. Okamura, K. Asao, A. Iwano, M. Ogino, “Preparation of nanosheets composed of phosphorylcholine-containing polymers and the application to biocompatible coating materials”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 18, 2016.
- 25) M. Ogino, K. Asao, H. Oka, R. Matsunaga, Y. Okamura, Y. Nagase, “Syntheses of biocompatible polyimide and poly(amide-imide) containing phosphorylcholine moiety and the coating ability of the nanosheets”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 18, 2016.
- 26) Y. Okamura, Y. Nagase, “Fabrication of freestanding bio-friendly nanosheets and their biomedical applications”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 27) Y. Nagase, Y. Okamura, “Surface modification by nanosheets-coating composed of novel functional polymers”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 28) B. Suleimenova, T. Oda, C. Umeda, Y. Okamura, Y. Nagase, “Syntheses of aromatic polymers containing imidazolium group and the application to gas separation membrane”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 14, 2016.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 29) R. Matsunaga, H. Oka, A. Iwano, Y. Okamura, Y. Nagase, “Fragmented biocompatible polymer ultra-thin film and the application to medical device”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 14, 2016.
- 30) H. Oka, M. Ogino, R. Matsunaga, Y. Okamura, Y. Nagase, “Synthesis of biocompatible polyimide containing phosphorylcholine and the effect of spacer structures on hemocompatibility of polymers”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 31) T. Suzuki, K. Ando, Y. Okamura, Y. Nagase, “Gas Permeability of Composite Membranes Consisting Highly Permeable PDMS Graft Copolyimide Coated with Nanosheets of PEO Graft Copolyamide”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 32) P. Charatsrisakun, K. Ando, Y. Okamura, Y. Nagase, “Surface modification on PDMS graft copolyimide membrane by using nanosheets composed of poly(ethylene imine) for CO₂ separation”, The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016), Fukuoka/Japan, December 15, 2016.
- 33) B. Suleimenova, T. Oda, C. Umeda, Y. Okamura, Y. Nagase, “Surface modification of PDMS graft copolyimide membrane with aromatic polymers containing imidazolium group to improve gas separation property”, The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016), Fukuoka/Japan, December 15, 2016.
- 34) H. Oka, M. Ogino, R. Matsunaga, Y. Okamura, Y. Nagase, “Effect of spacer structures on biocompatibility of polyimides containing phosphorylcholine group”, The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016), Fukuoka/Japan, December 14, 2016.
- 35) S. Yokoyama, J. Wada, T. Kushida, R. Araki, A. Otomo, S. Hadano and H. Kimura, “Development of a Novel Device with High-Throughput Axonal Transport Quantification”, Micro TAS 2016, 932-933, Ireland, Oct. 9-13, 2016.
- 36) S. Deguchi, S. Yokoyama, T. S. Matsui and T. Ohnishi, “New Traction Force Microscopy Suggests a Mechanism of Local Geometry Sensing by Individual Cell Adhesions”, International Conference on Flow Dynamics 2016, Japan, Oct. 10-12, 2016.
- 37) S. Deguchi, S. Yokoyama, T. S. Matsui and T. Ohnishi, “Local Geometry Sensing by Individual Focal Adhesions”, 2017 Cellular and Molecular Bioengineering Annual Conference, Hapuna Beach Prince Hotel, USA, Jan. 3-7, 2017.
- 38) K. Shinha, M. Horayama, T. Fujii and H. Kimura, “Development of a Microfluidic Probe Integrated Device toward Cell-Based Assays”, Micro TAS 2016, 932-933, Ireland, Oct. 9-13, 2016.
- 39) K. Shinha, M. Horayama, T. Fujii and H. Kimura, “Development of a Microfluidic Probe Integrated Device for High Resolution Spatial Chemical Stimulation Control”, 29th International Microprocesses and Nanotechnology Conference, Japan, Nov. 8-11, 2016.
- 40) T. Ono, T. Fujii, Y. Sakai and H. Kimura, “Development of Organs-on-a-chip with Metabolism Model”, 27th 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human science (MHS2016), 76-77, Japan, Nov. 28-30, 2016.
- 41) Y. S. Yunos, M.D. Ibrahim, N. Watanabe, N. A. A. Mohtadzar, S. H. H Semait, Y. Sunami, “Integration of Polygonal Inner Channel of Microneedle with Micropump for Improved Blood Deliveries”, The Malaysia Technology Expo 2017, MTE 2017, Malaysia, Feb. 2017.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 42) Y. Kai, H. Hashimoto, Y. Okamura, Y. Sunami, “Fabrication of Poly (L-lactic acid) Nanosheets Using Micro Gravure Printing”, The International Conference on Flexible and Printed Electronics 2016 (ICFPE2016), Yamagata, Sep. 6, 2016.
- 43) Y. S. Yunos, M.D. Ibrahim, A. R. H. Rigit, N. A. A. Mohtadzar, S. H. H Semait, Y. Sunami, “Micro-needle with Modified Inner Structure Integrated with Micropump for Improved Blood Deliveries”, The Innovation Technology Expo 2016, InTEX 2016, Malaysia, May 2016.
- 44) N. Marusman, M.D. Ibrahim, Y. Sunami, “Modified Spiral Bearings with Seals Effects for High Precision Rotating Machineries”, The Innovation Technology Expo 2016, InTEX 2016, Malaysia, May 2016.
- 45) N. Marusman, M.D. Ibrahim, Y. Sunami, M. Rahmat, W. L. Kwang, Y. S. Yunos, “Improved Stiffness Of Modified Spiral Fluid Dynamic Bearing Design For High Precision Engineering Equipment”, The International Engineering Invention and Innovation Exhibition 2016, i-ENVEX 2016, Malaysia, Apr. 2016.
- 46) S. Hadano, S. Mitsui, A. Otomo, K. Sato, S. Ono, X. Chen, M. Aoki, E. Warabi, M. Yamamoto, T. Ishii, T. Yanagawa, H.F. Shang, F. Yoshii, “Loss of Sqstm1/p62 but not Nfe2l2/Nrf2 exacerbates motor neuron degeneration in a mutant SOD1-expressing mouse ALS model”, 15th AOCN, AOCN-0118, Malaysia, Aug 18-21, 2016.
- 47) S. Yokoyama, J. Wada, T. Kushida, R. Araki, T. Ishida, A. Otomo, S. Hadano, H. Kimura, “Development of a novel device with high throughput axonal transport quantification”, MicroTAS 2016, M013a, Ireland, Oct 10-13, 2016.
- 48) K. Sato, K. Suzuki-Utsunomiya, Y. Hiratsuka, S. Ono, A. Otomo, S. Hadano “Alteration of oligomeric states and subcellular localization of ALS2 mutants underlie the pathogenesis of ALS2-linked motor neuron diseases”, 27th ALS/MND international meeting, P56, Ireland, Dec 7-9, 2016.
- 49) S. Mitsui, A. Otomo, M. Nozaki, S. Ono, K. Sato, R. Shirakawa, H. Adachi, M. Aoki, G. Sobue, H.-F. Shang and S. Hadano “Systemic overexpression of sqstm1 accelerates age of disease onset and reduces survival in SOD1H46R mice”, 27th ALS/MND international meeting, C115, Ireland, Dec 7-9, 2016.
- 50) A. Otomo, R. Araki, T. Ishida, R. Shirakawa, S. Mitsui, K. Sato, S. Ono, S. Yokoyama, H. Kimura, S. Hadano, “Analysis of axonal transport in cultured neurons derived from an ALS mouse model by using the microfluidic cell culture system”, 27th ALS/MND international meeting, BW21, Ireland, Dec 7-9, 2016.
- 51) S. Nakagawa, and M.U. Takahashi, “Transcriptome analysis to identify expressed sequences derived from endogenous viral elements”, 28th International Workshop on Retroviral Pathogenesis, New Orleans, USA, Dec 5-9, 2016.
- 52) S. Nakagawa, and M.U. Takahashi, “gEVE: a genome-based endogenous viral element database provides open reading frame sequences derived from viruses in 20 mammalian genomes”, International Congress on Transposable Elements (ICTE) 2016, San Malo (Saint-Malo’s Convention Center), France, Apr 16-19, 2016.
- 53) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, H. Shomura, “Functional analysis of glycolipid and glycoprotein using synthetic glycans”, Frontiers in Sialic Acid Research Conference, Bad Lauterberg (Germany), April 23-25, 2016.
- 54) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, T. Yamaji, K. Hanada, K. Fukase, “Functional evaluation of membrane glycolipids using synthetic glycans”, the 1st Korea-Japan Lipid Biology symposium, Jeju (Korea), May 11-13, 2016.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 55) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, T. Yamaji, K. Hanada, K. Fukase, “Functional evaluation of membrane glycolipids using synthetic glycans”, GlycoT2016, Tronto (Canada), June 19-21, 2016.
- 56) K. Kabayama, S. Miyake, T. Yamaji, K. Hanada, Y. Manabe, K. Fukase, “Functional evaluation of membrane glycolipids using HaloTag system”, ICS28, New Orleans (USA), July 17-21, 2016.
- 57) K. Kabayama, K. Yokoyama, Y. Arai, Q. Feng, Y. Kawahara, A. Shimoyama, S. Inuki, Y. Fujimoto, K. Fukase, “Intracellular trafficking analysis of innate immunity ligands”, IEIIS2016, Hamburg (Germany), September 22-24, 2016.
- 58) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, H. Shomura, T. Yamaji, K. Hanada, K. Fukase, “Functional analysis of glycolipid and glycoprotein using synthetic glycans”, Sialoglyco2016, Santa Barbara (USA), November 14-17, 2016.
- 59) Y. Suzuki, K. Noda, J. Aisu, S. Hara, K. Kabayama, H. Ikake, S. Shimizu, Y. Kushi, “Glycolipid purification using ionic liquid”, 7th International Conference on Science and Engineering (ICSE), Yangon (Myanmar), December 10-11, 2016.

2015 年度 (国際会議) *4

- 60) R. Kita, Thermodiffusion of Poly(N-isopropylacrylamide) Solutions, International Symposium on Fluctuation and Structure out of Equilibrium 2015 (SFS2016), Kyoto, August 22, 2015.
- 61) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, Dynamics of supercooled water in partially crystallized gelatin-water mixture studied by broadband dielectric spectroscopy, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, Waikiki/USA, Dec 19, 2015.
- 62) R. Kita, Effect of solvation for the Ludwig-Soret effect of poly(N-isopropylacrylamide) studied in various solvents, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, Waikiki/USA, Dec 16, 2015.
- 63) Y. Ohnishi, T. Nagashima, R. Kita, K. Tsuchiya, A. Iwamori, ”Optical characteristics of polytetrafluoroethylene thin film prepared by a vacuum evaporation”, The 5th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies, Niigata June 2016.
- 64) Hideaki KIMOTO and Kazuyoshi TSUCHIYA, Development of The Local Deposition Techniques for The Purpose of Creation Micro Painless Needle Having Polygonal Cross Section, International Conference on Materials Processing Technology 2016, Tokyo/Japan, 28-29 March 2016
- 65) Hideaki KIMOTO and Kazuyoshi TSUCHIYA, Search for Local Sputtering for the Purpose of Creation of Ultra Fine Painless Needle with Polygonal Cross Section, ICFMA International conference on Functional Materials and Applications 2015, p.25.28, Ritsumeikan University, (Best Paper Award),27-29 November 2015
- 66) Kento Kawata, Yosuke Okamura, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, Surface modification of injection needle inside surface of a pipe by polymer macromolecule super-thin film, International Conference on Materials Processing Technology 2016, Tokyo/Japan, 28-29 March 2016
- 67) Hideaki Kimoto, Kazuyoshi Tsuchiya, Stiff consideration of a micro painless needle with polygon section, IEEE, 2015 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) P.231-234, Nagoya University, 23-25 November 2015.
- 68) Yosuke Okamura, Takuya Komachi, Ami Masuda, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Fabrication of bio-friendly nanosheets for biomedical applications. The 5th Asian Biomaterials Congress, Taipei/Taiwan, May 8, 2015.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 69) Yosuke Okamura, Ami Masuda, Riku Saito, Hong Zhang. Water-repellent ultra-thin films to protect from drying and blurring for tissue imaging. 3rd International Symposium on Nanomedicine Molecular Science, Tokyo/Japan, Nov. 25, 2015.
- 70) Yosuke Okamura, Ami Masuda, Kazuki Okuyama, Ai Kotani, Yu Nagase. Fabrication of water-repellent nanosheets to provide abilities of water retentivity and fixation for tissue imaging. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 15, 2015.
- 71) Takuya Komachi, Hideaki Sumiyoshi, Yutaka Inagaki, Shinji Takeoka, Yu Nagase, Yosuke Okamura. Development of biodegradable multi-layered nanosheets as a wound dressing in partial hepatectomy. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 72) Daiki Sogabe, Yu Nagase, Yosuke Okamura. Fabrication of disk-shaped particles induced by hot-press process and their two-dimensional interactions for biomedical applications. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 73) Kazuya Kabayama, Hisao Kojima, Yusuke Suzuki, and Masahiro Ito. Structural Characterization of Neutral Glycosphingolipids from 3T3-L1 Adipocytes. The 56th ICBL, Argentina, Sep. 22-26 (2015).
- 74) Kazuya Kabayama, Shuto Miyake, Siyu Chen, Yoshiyuki Manabe, and Koichi Fukase. Functional evaluation of membrane glycolipids using synthetic glycans. ICCEOCA-10 / ARN-CEOCA-1, Taiwan, Nov. 2-5 (2015).
- 75) Kazuya Kabayama, Hisao Kojima, Yusuke Suzuki, and Masahiro Ito. Structural Characterization of Neutral Glycosphingolipids from 3T3-L1 Adipocytes. The 7th ACGG, Matsushima, Nov. 12-15 (2015).
- 76) Shuta Takano, Hideaki Sumiyoshi, Yutaka Inagaki, Hiroshi Kimura, Yosuke Okamura. Spray-nanocoating of fragmented biodegradable nanosheets for biomedical applications. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 77) Atsushi Nakagawa, Yosuke Okamura. Fabrication of biodegradable spherical particles and fibers by SPG membrane emulsification technique. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 78) Yu Nagase, Yosuke Okamura, Kohei Asao, Atsushi Iwano. Preparation of polymer nanosheets containing phosphorylcholine group and the application to coating biomaterials. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 79) Atsushi Iwano, Kohei Morita, Kohei Asao, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Synthesis of biocompatible polyurethane and fabrication of nanosheet as a coating agent. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 80) Motofumi Tezuka, Atsushi Iwano, Kohei Morita, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Synthesis of biocompatibility of polyurethane containing phosphorylcholine and alkyl groups. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 81) Mari Ogino, Kohei Asao, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Synthesis of biocompatible polyamide containing PC groups and fabrication of nanosheet as a coating agent. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 82) Tatsuma Oda, Kosuke Taira, Masayuki Watanabe, Shinichi Koguchi, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Improvement of separation property of PDMS graft polyimide membrane by nanosheet coating of polymers containing imidazolium group. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 17, 2015.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 83) Kana Ando, Akira Abeta, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Gas separation properties of composite membrane based on PDMS graft copolyimide coated with nanosheet PEO graft copolyamide. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 17, 2015.
- 84) Yosuke Okamura, Ami Masuda, Riku Saito, Hong Zhang. Nano-wrapping of water-repellent nanosheets for tissue imaging. The 7th Taiwan-Japan Symposium on Nanomedicine, Kyoto/Japan, Jan. 21, 2016.
- 85) M. Nukaga, S.H. Kim, K. Yahata, T. Fujii, O. Kaneko, H. Kimura, “On-chip Deformability Measurement of Malaria Parasite-Infected Red Blood Cells by Dielectrophoretic Force”, μ TAS2015, pp.484-486, Korea, Oct 25-29, 2015.
- 86) Suzuka Ono, Asako Otomo, Wakana Onodera, Kai Sato, Shun Mitsui, Mitsunori Fukuda, Shinji Hadano, The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2 in recycling endosomes. 2015 (26th International Symposium on ALS/MND), Orland/USA, 11 – 13 December, 2015.
- 87) Yuta Sunami and Hiromu Hashimoto, Friction Characteristics between Thin Plastics Film and Steel Roller”, Thirteenth Interntional Conference on Web Handling 2015 (IWEB2015), Oklahoma/USA, June 9, 2015.
- 88) Kazuyoshi Yoshida, Hiromu Hashimoto, Shinji Hikita, Shogo Matsumoto, Yuko Kobayashi, Yoshimitsu Goto, Yuta Sunami, The Future of Flexible Sheet Media Handilng Technology, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 89) Kei Harada, Masayuki Ochiai, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, Development of Air Spindle Motor for Hard Disk Drives, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 90) Hiromu Hashimoto and Yuta Sunami, Internal Stress Analysis of Wound Roll Considering Thermal-Viscoelastic Property and Experimental Verification, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 91) Hiromu Hashimoto and Yuta Sunami, Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermal-Viscoelastic Property, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 92) Yuta Sunami and Hiromu Hashimoto, Measurement of Internal Stress Distribution of Wound Roll in Axial Direction, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 93) Yuta Sunami and Hiromu Hashimoto, Tribological Characteristics between Thin Plastic Film and Steel Roller, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 94) Yuta Sunami, Yasushi Fujiwara, Hiromu Hashimoto, Tribological Characteristics between Plastic Film and Steel Roller, International Tribology Conference, Tokyo 2015 (ITC2015), Tokyo/Japan, September 16, 2015.
- 95) Yusuke Kotobuki, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, Preventing Method of Web Defects during Transportation by Image Recognition Technique, International Tribology Conference, Tokyo 2015 (ITC2015), Tokyo/Japan, September 16, 2015.
- 96) Daisuke Suzuki, Masayuki Ochiai, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, Experimental Verification of Sealing Characteristics on Grooved Dry Gas Seals with Visualization of Gas Flow, International Tribology Conference, Tokyo 2015 (ITC2015), Tokyo/Japan, September 16, 2015.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 97) So Nakagawa, Mammalian endogenous viral element database、SMBE 2015, Vienna, Austria Jul 12-16, 2015
- 98) Sayumi Shimode, So Nakagawa, Takayumi Miyazawa、Identification of endogenous retrovirus in the fixation process to cat genomes、SMBE 2015, Vienna, Austria Jul 12-16, 2015.
- 99) So Nakagawa, Mahoko U Takahashi, Tadashi Imanishi、Comprehensive identification of endogenous viral elements in 20 mammalian genomes、The 11th International Workshop on Advanced Genomics, Tokyo, May 20-22, 2015.

2014 年度 (国際会議) *4

- 100) Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Development of Fragmented Nanosheets and Patchwork Coating as Aqueous Surface Modifiers for Biomedical Applications. COLL-139. 248th American Chemical Society National Meeting, Moscone Center/San Fransisco, Aug. 2014.
- 101) Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Development of Size-controlled Biodegradable Polymer Nanosheets and Their Biomedical Applications. B1-O26-004, YS-007. International Union of Materials Research Societies -International Conference in Asia 2014 (IUMRS-ICA2014), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 2015.
- 102) Fabrication conditions of a the micro painless needle Having polygonal cross section sputtering method, Hideaki Kimoto, Tomoya Syudou, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, International Conference on Materials Processing Technology 2014, International Conference on Materials Processing Technology 2015, Abstract book, P.58-62, 29-30 January 2015.
- 103) Observation of the Permeation on the Subcutaneous during the Administration of Drug and Development of a Needle, Kento Kawata, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, International Conference on Materials Processing Technology 2014, International Conference on Materials Processing Technology 2015, Abstract book, P.52-57, 29-30 January 2015.
- 104) Growth Prediction Method for New Biocompatible Piezoelectric Thin Films, Yutaka Yasoda, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, IEEE, Proceedings Conference on Optoelectronic and Microelectronic Materials & Devices (COMMAD) 2014, P. 136-137, 14-17 December 2014, The University of Western Australia, Perth, Australia.
- 105) EVALUATION OF ADDITIVE ELEMENT FOR BARIUM TITANATE BY USING FIRST-PRINCIPLES CALCULATION, Yutaka Yasoda, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022241-1 - 1570022241-4(2014).
- 106) DEFORMATIONAL CONTROL BY MULTIPLEX GEOMETRY OF C SHAPED PZTS, Takashi Torigata, Kazuyoshi Tsuchiya, Yasutomo Uetsuji, MJJIS Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022235-1 - 1570022235-4(2014).
- 107) DEPOSITION OF INTERLAYER FOR PAINLESS MICRO NEEDLE AND STRESS ANALYSIS, Katsuhiko Fukaya, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022239-1 - 1570022239-4(2014).
- 108) DEVELOPMENT OF MICRO PH SENSOR USING SPUTTERING METHOD, Daiki Kaneko, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, P.1570022233-1 - 1570022233-4(2014).
- 109) BIOCOMPATIBILITY EVALUATION OF CARBON NANOTUBES BASED ON CHIRALITY,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Sachiko Iimori, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570024667-1 - 1570024667-4(2014).
- 110) PREDICTION OF ACTION OF VARIATION OF THIN FILM BY A LATTICE MISMATCH SIMULATION, K. Ito, K. Tsuchiya and Y. Uetsuji, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022237-1 - 1570022237-4(2014).
- 111) Evaluation of Additive Element in B site to Improve BaTiO₃ Piezoelectricity by Using First-principles Calculation, Y. Yasoda, Y. Uetsuji and K. Tsuchiya, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.297-298(2014).
- 112) Development of the c shaped piezoelectric actuator for the blood circulation assistance mechanism, T. Torigata and K. Tsuchiya and Y. Uetsuji, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.233-234(2014).
- 113) THE PERFORMANCE ASSESSMENT OF THE TRENCH ADDITION TYPE PZT ACTUATOR USING A HOLLOW TUBE MICRO PUMP, H. SUZUKI, K. TSUCHIYA and Y. UETSUJI, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.237-238(2014).
- 114) Prediction of the crystal growth by a simulation K. Ito, K. Tsuchiya and Y. Uetsuji, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.309-310(2014).
- 115) Observation of the Permeation on the Subcutaneous during the Administration of Drug and Development of a Needle, Kento Kawata, Kazuyoshi Tsuchiya, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, IEEE, 2014 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) P.36-39(2014).
- 116) Selection of the Best Shape for A Micro Painless Needle Hideaki Kimoto, Takehiko Inoue, Kazuyoshi Tsuchiya, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, IEEE, 2014 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) P.40-43(2014).
- 117) Observation of the Permeation on the Subcutaneous Pigment the Administration of Drug, Kento Kawata, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014).
- 118) Development of the Micro Region pH Sensor Applying Ag/AgIO₃ Electrode Method , Daiki KANEKO and Kazuyoshi TSUCHIYA, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014)
- 119) The Performance Evaluation of the Slot Addition Type PZT Actuator in a Hollow Tube Micro Pump, Hiromasa SUZUKI, Yasutomo UETSUJI and Kazuyoshi TSUCHIYA, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014).
- 120) Best Creation of a Conditions Micro Painless Needle Having Polygonal Cross Section, Hideaki Kimoto, Tomoya Syudou, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura and Kazuyoshi Tsuchiya, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014).
- 121) Kousaku Maeda, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Thermal Diffusion Behavior of Aqueous Solutions of Ethylene Glycol Oligomers, Crown Ethers, and Glycerol, 11th International Meeting on Thermodiffusion (IMT11), Bayonne/France, June 5, 2014.
- 122) Yohei Nakayama, Rio Kita, Masaki Sano, Ludwig-Soret effect of colloidal particles in polymer solution, 11th International Meeting on Thermodiffusion (IMT11), Bayonne/France, June 5, 2014.
- 123) Kousaku Maeda, Haruka Shinohara, Yuki Kishikawa, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Temperature and Molecular Weight Effects for Thermal Diffusion of Aqueous Solutions of Saccharides, 11th International Meeting on Thermodiffusion (IMT11), Bayonne/France, June 5, 2014.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 124) Tsubasa Kawaguchi, Shunsuke Sato, Ayaka Kurose, Yuko Tanaka, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Minoru Fukuzaki, Molecular Dynamics of Tofu Analyzed by PFG-SE NMR and Broadband Dielectric Spectroscopy, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 125) Shin Yagihara, Shunsuke Sato, Fumio Abe, Tsubasa Kawaguchi, Yuko Maruyama, Yasuhiro Kishi, Hayato Kamata, Seiei Watanabe, Yasuyuki Hosoi, Megumi Asano, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Minoru Fukuzaki, Koji Asami, Nondestructive Measurements of Aqueous Materials by Broadband Dielectric Spectroscopy with Open-Ended Probes, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 126) Tsubasa Kawaguchi, Yasuyuki Hosoi, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Minoru Fukuzaki, Diffusion of Water in Liposome/Water Dispersion by PFG-SE NMR, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 127) Shin Yagihara, Yuko Maruyama, Hironobu Saito, Yosuke Miyamoto, Tsubasa Kawaguchi, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Minoru Fukuzaki, New Analytical Method of Water Structures by Fractal Concept, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 128) T. Hiraiwa, T. Kimura, Y. Takenaka, R. Tanamoto, H. Ota, H. Kimura, Y. Taguchi, N. Miki, Y. Matsumoto, K. Oka, A. Funahashi, and N. Hiroi, "Fabrication Method To A High Resolution Control In The Space Of Cell Culturing Environment With Microfluidic System", MEMS2014, pp.264-267, San Francisco, USA, Jan 26-30, 2014.
- 129) M. Horayama, T. Ohkubo, K. Arai, K. Kabayama, T. Fujii, H. Kimura, "Pinpoint Chemical Stimulation Control By An Integrated Microfluidic Probe For Cell- Based Assays", μ TAS2014, pp.1482-1484, USA, Oct 26-31, 2014.
- 130) T. Ohkubo, H. Kinoshita, T. Maekawa, H. Kimura, S. Kuroda, T. Fujii, "Microfluidic Cell Culture System For Dynamic Cell Signaling Study", μ TAS2014, pp.558-560, USA, Oct 26-31, 2014.
- 131) H. Kimura, S. Senda, T. Yoshimura, Y. Sato, T. Fujimori, T. Fujii, "A High-Throughput Antibody Screening Platform Toward Embryology", μ TAS2014, pp.536-538, USA, Oct 26-31, 2014.
- 132) M. Horayama, T. Ohkubo, K. Arai, K. Kabayama, T. Fujii, H. Kimura, "Pinpoint Chemical Stimulation at a Single-cell Scale by Microfluidic Technology", Micro-Nano Mechatronics and Human Science 2014, pp.109-110, Japan, Nov 9-12, 2014.
- 133) R. Yazaki, S. Shimasaki, K. Tsuchiya, T. Fujii, H. Kimura, "Evaluation of Enzyme Immobilization Methods on Microglucose Sensors Integrated to a Microfluidic Device", Micro-Nano Mechatronics and Human Science 2014, pp.107-108, Nagoya, Japan, Nov 9-12, 2014.
- 134) M. Horayama, T. Ohkubo, K. Arai, K. Kabayama, T. Fujii, H. Kimura, "Pinpoint Chemical Stimulation Control by an Integrated Microfluidic Probe for Cell-based Assay", μ TAS2014, pp.558-560, USA, Oct 26-31, 2014.
- 135) Yuta Sunami, Yasushi Fujiwara, Yusuke Kotobuki, Hiromu Hashimoto, "Experimental Study on Friction Characteristics Between Plastic Film and Steel Roller", Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 160-163, (2014)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 136) Masayuki Ochiai, Hayato Sasaki, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Topological Optimization of Dry Gas Seals for Improving Seal Characteristics”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 196-202, (2014).
- 137) Hisayoshi Naka, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Development of the Artificial Wing Suitable for Flapping Micro Air Vehicle Based on Dragonfly Wing”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 78-83, (2014) .
- 138) Yutaro Kawamura, Hisayoshi Naka, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Effects of Micro Spike Structure on Flow Around Plate”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 96-100, (2014).
- 139) Masayuki Ochiai, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Topological Optimization of Dry Gas Seals for Improving Seal Characteristics”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 196-200, (2014)
- 140) PAN, L., OTOMO, A., KOIKE, M., UCHIYAMA, Y., AOKI, M., ABE., K., ISHII, T., YANAGAWA, T., SHANG, H.F., YOSHII, F., HADANO, S., 62/SQSTM1 DEFICIENCY ACCELERATES MOTOR NEURON DEGENERATION IN SOD1H46R TRANSGENIC MICE 5 - 7 December 2014, Belgium, Oral presentation
- 141) Hae-Sim Cha, Ji-Hyung Park, Dong-Hyun Seo, Han-Sung Kim, Kazuya Kabayama, Tack-Joong Kim, Preventive Effect And Mechanism of the Mirae406 against Muscle Atrophy Induced by 3D-Clinostat in C2C12 Myoblasts, 10th Asian Microgravity Symposium, Korea, Oct 28-31 (2014)
- 142) Kenta Arai, Hiroshi Kimura, Kazuya Kabayama, Osamu Kanie, A study toward understanding cellular dynamics of glycosphingolipid based on chemical engineering approach, SFG & JSCR 2014 Joint Annual Meeting, Hawaii, Nov 16-19 (2014)
- 143) Yusuke Suzuki, Kazuya Kabayama, Yasunori Kushi, Rapid glycoconjugate purification with organic solvent, “エネルギー・環境及び人間工学”に関する第二回国際学術会議 ミャンマー Dec 30 (2014).
- 144) Nakagawa, S. RNA-seq analysis of endogenous retroviral elements in bovine conceptuses during the period of placentation. ASHG2014, CA, USA, Oct. 2014.
- 145) Shimode, S., Nakagawa S., Miyazawa T Serological survey and characterization of feline morbillivirus in Japan. IFRRS & ISCAID 2014, ON, Canada, Oct. 2014.
- 146) Nakagawa, S. TRANSCRIPTOME ANALYSIS OF ERV-DERIVED GENES IN BOVINE CONCEPTUSES DURING THE PERIOD OF PLACENTATION. Workshop on Endogenous Retroviruses, VA, USA, Aug. 2014.

2016年度(学会発表) *4

- 1) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による Poly (vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子のガラス転移 3”, 日本物理学会第 72 回年次大会, 大阪大学 (豊中市), 2017 年 3 月 17 日~20 日.
- 2) 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による氷結した Poly(ethylene imine)水溶液の分子ダイナミクス”, 日本物理学会第 72 回年次大会, 大阪大学 (豊中市), 2017 年 3 月 17 日~20 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 3) 塚越繁之, 江口和也, 中山耕史郎, 横山奨, 喜多理王, 木村啓志, “温度勾配環境がメダカ卵に及ぼす発生影響の調査のためのマイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 4) 荒井詩穂, 江口和也, 中山耕史郎, 諸星和, 木村啓志, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “熱泳動現象を利用した軽水と重水の分離”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 5) 中山耕史郎, 甲斐仁智, 高野秀太, Isala Dueramae, 砂見雄太, 岡村陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “裁断化超薄膜分散液の流動特性の解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 6) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ルードヴィッヒ・ソレー効果を利用した水分子同位体分離システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 7) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “熱測定によるポリビニルメチルエーテルのエイジングキネティクス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 8) 江口和也, 川口翼, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, D. Niether, J. Hovancova, S. Wiegand, “シクロデキストリンとアスピリンの包接錯体におけるルードヴィッヒ・ソレー効果”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 9) 土井駿, 中山耕史郎, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, 中川草, 笹川昇, “水素結合がλ-DNAのソレー効果に及ぼす影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第8回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2017年2月25日.
- 10) 川口翼, 高村優, 堀雄貴, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “液体分子の回転・並進拡散の相補的解析による動的構造の特徴づけ”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.
- 11) 齋藤徹哉, 浅野晴香, 木川理子, 清水健太, 斉藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光法を用いたヒト皮膚中の水構造解析”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.
- 12) 斉藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “広帯域誘電分光法を用いた吸水性高分子フィルム中の水分子ダイナミクスとイオン吸着効果”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.
- 13) 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “部分的に氷結した Poly(ethylene imine)水溶液の高分子と氷および水の誘電緩和”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.
- 14) 前田巧, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光法を用いた Poly(vinyl methyl ether)水溶液の液体構造”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.
- 15) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “液体からガラス状態における Poly(vinyl methyl ether)水溶液の水と高分子の誘電緩和”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.
- 16) 佐々木海渡, 安田隆人, 松井ゆりか, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “高分子水溶液中の氷の誘電緩和時間”, 第54回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016年12月8日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 17) 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “Poly(ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における水と高分子のダイナミクス”, 氷、水、クラスレートの物理化学に関する研究集会, 北海道, 2016年12月5日.
- 18) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “広帯域誘電分光法による細孔中の過冷却水の分子ダイナミクス”, 氷、水、クラスレートの物理化学に関する研究集会, 北海道, 2016年12月5日.
- 19) 井上紫央里, 松井ゆりか, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における分子ダイナミクス”, '16 SAS Symposium, 神奈川, 2016年11月24日
- 20) 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “リポソーム/水分散液における水分子のダイナミクス解析”, 第55回NMR討論会, 広島, 2016年11月.
- 21) 青山剛志, 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 伊藤敦, 浅見耕史, “細胞分散系のPFG-NMRと誘電分光法による膜損傷に伴う水とイオンの運動性の変化”, 第55回NMR討論会, 広島, 2016年11月.
- 22) 堀雄貴, 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “さまざまな低分子液体のPFG-NMR法と誘電分光法における並進および回転拡散の評価”, 第55回NMR討論会, 広島, 2016年11月.
- 23) 江口和也, 川口翼, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, D. Niether, J. Hovancova and S. Wiegand, “シクロデキストリンとアスピリンの包接錯体における熱拡散現象”, 第12回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川), 2016年10月.
- 24) 荒井詩穂, 江口和也, 中山耕史朗, 木村啓志, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “熱拡散現象を利用した水と水同位体の分離法開発”, 第12回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川), 2016年10月.
- 25) 江口和也, 川口翼, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, D. Niether, J. Hovancova and S. Wiegand, “シクロデキストリンとアスピリンの包接錯体における熱泳動”, 第3回FCCAシンポジウム FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2016, 神奈川, 2016年10月.
- 26) 木村紗英, 安田隆人, 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “フルクトース水溶液における氷の誘電緩和”, 第3回FCCAシンポジウム FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2016, 神奈川, 2016年10月22日.
- 27) 齋藤徹哉, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “流動する電解質水溶液の誘電測定電極表面におけるイオン挙動評価”, 第65回高分子討論会, 神奈川, 2016年9月.
- 28) 庄司幸平, 齋藤徹哉, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 大園拓哉, 西村聡, 林正史, 田中久雄, “誘電分光法を用いた食用油およびW/Oエマルションの調理によるaging processの評価”, 第65回高分子討論会, 神奈川, 2016年9月.
- 29) 堀雄貴, 川口翼, 齋藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 須藤誠一, 鈴木養樹, “PFG-NMRによる木材中における水分子の拡散異方性の研究”, 第65回高分子討論会, 神奈川, 2016年9月.
- 30) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法によるPoly(vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子のガラス転移 2”, 物理学会2016年秋季大会, 石川, 2016年9月13日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 31) 井上紫央里, 松井ゆりか, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による Poly(ethylene imine)水溶液のガラス転移”, 物理学会 2016 年秋季大会, 石川, 2016 年 9 月 13 日.
- 32) 荒井詩穂, 江口和也, 中山耕史朗, 木村啓志, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “ルートヴィッヒ・ソレー効果による水と水同位体の分離効率の研究”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 33) 江口和也, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “極性溶媒中におけるシクロデキストリンのルートヴィッヒ・ソレー効果”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 34) 中山耕史朗, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “一粒子追跡法による水中でのナノ粒子の熱泳動力測定”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 35) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “ナノ細孔中の過冷却水の分子ダイナミクスII”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 36) 井上紫央里, 松井ゆりか, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(ethylene imine)水溶液のガラス転移と分子運動”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 37) 前田巧, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(vinyl methyl ether)水溶液を用いた高分子と水の誘電緩和現象”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 38) 安田隆人, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “部分的に氷結したゼラチン水溶液における氷の誘電緩和”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 39) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子の誘電緩和とガラス転移”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 40) I. Dueramae, K. Sasaki, R. Kita, “Dielectric Relaxation Process of Dextran Thin Films”, マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第 7 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 41) 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “PFG-NMR 法による食品ゲル中での水の拡散挙動解析”, 第 39 回日本バイオレオロジー学会年会, 東京, 2016 年 6 月 19 日.
- 42) 高村優, 宮本陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “分子動力学法による高分子溶液中の水素結合ネットワークの解析”, 第 39 回日本バイオレオロジー学会年会, 東京, 2016 年 6 月.
- 43) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita, “Solution Properties of Acetylated Dextran Studied by Light Scattering and Optical Beam Deflection Method”, 第 39 回日本バイオレオロジー学会年会, 東京, 2016 年 6 月 19 日.
- 44) 狩谷翔, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “圧電材料を用いたスマートフォン用タッチパネルディスプレイの触感付与機構の開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3 月 16 日, 2017.
- 45) 土肥颯一, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “FEM による生体細胞へのマイクロニードル穿刺解析とその形状の最適化”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3 月 16 日, 2017.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 46) 齋藤飛鳥, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "マイクロ流体デバイス内血中循環腫瘍細胞用 pH センサの開発", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 47) 鹿住礼, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "磁性微粒子を用いた生体内デバイス用発電手法の開発", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 48) 都田恒成, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, 木村穰, 梶原景正, "マイクロニードル型 pH センサによる脳脊髄液の pH 測定", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 49) 山之内優志, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "FEM による圧電材料を用いた補助人工心臓開発のための最適化手法の確立", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 50) 大島拳斗, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "二電極一体型低侵襲グルコースセンサの開発", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 51) 宮地健太郎, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "スパッタリングによる局所堆積を用いた多角形状断面を有するマイクロ無痛針の開発", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 52) 二川悠汰, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "生体組織における微小領域ヤング率測定方法の検討", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 53) 杉山将紀, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, "有限要素法を用いた中実型 PGA マイクロニードルの最適化設計", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 54) 中島大輔, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "高分子ナノシートを用いた熱中症用パッチ型 pH センサの開発", 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 55) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, "チタン酸バリウム薄膜創製における第一原理計算により探索された B サイト添加元素の影響評価", 精密工学会春季大会学術講演会, 慶應義塾大学矢上キャンパス(横浜市), 3月6日-8日, 2017.
- 56) 水流添岳, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, "マウスピース型デバイスに搭載する pH 測定電極の開発・測定", 精密工学会春季大会学術講演会, 慶應義塾大学矢上キャンパス(横浜市), 3月6日-8日, 2017.
- 57) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, "チタン酸バリウム薄膜中における B サイト添加元素 Nb の影響評価", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017月2月25日.
- 58) 狩谷翔, 榎谷和義, "スマートフォン用タッチパネルディスプレイの触感機構の開発"東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017月2月25日.
- 59) 土肥颯一, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "FEM によるマイクロニードルの生体細胞への穿刺解析及び形状最適化", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017月2月25日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 60) 齋藤飛鳥, Ganesh Kumar Mani, 諸星和, 榎谷和義, "流体デバイスを用いた血中循環腫瘍細胞検出用 pH センサの開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 61) 鹿住礼, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "磁性微粒子を用いた生体内デバイス用発電手法の開発"東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 62) 都田恒成, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, 梶原景正, 木村穰, 岩尾佳代子, "高強度微小領域 pH センサによる生体内 pH の測定", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 63) 山之内優志, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, "圧電材料を用いた補助人工心臓開発のための FEM による最適化手法の確立", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 64) 大島拳斗, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "二電極法を用いた低侵襲針型グルコースセンサの創製", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 65) 宮地健太郎, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "スパッタリング法を用いた多角形状を有するマイクロ無痛針の開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 66) 水流添岳, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "マウスピース型デバイスに搭載する pH 測定用電極の開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 67) 二川悠汰, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "縦波伝搬速度を用いたヤング率測定シミュレーション", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 68) 杉山将紀, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "FEM による PGA 中実型マイクロニードルの設計開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (T_{μne}8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 69) 水流添岳, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, "マウスピース型デバイスに搭載する pH 測定センサの開発, 精密工学会秋季大会学術講演会", 茨城大学水戸キャンパス(水戸市), 9 月 6 日-8 日, 2016.
- 70) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, "第一原理計算を用いた材料設計手法によるチタン酸バリウム薄膜の創製及び評価", 精密工学会秋季大会学術講演会, 茨城大学水戸キャンパス(水戸市), 9 月 6 日-8 日, 2016.
- 71) Ganesh Kumar Mani, 高宮伸太郎, 八十田 穰, 榎谷和義, "Design and Fabrication of Single-Cell pH and Temperature Sensors on Minimally Invasive Microneedles", 精密工学会秋季大会学術講演会, 茨城大学水戸キャンパス(水戸市), 9 月 6 日-8 日, 2016.
- 72) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, " 第一原理計算を用いた材料設計手法による高機能チタン酸バリウム薄膜", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 7 回学術講演会 (T_{μne}7), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016 月 8 月 9 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 73) Ganesh Kumar Mani, Attapon Keatudompon, Nakajima Daisuke, Yutaka Yasoda, Kazuyoshi Tsuchiya, "High sensitive chemiresistive sensor based on free standing ZnO nanosheets", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 74) 鹿住礼, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "磁性微粒子を用いた体内発電手法の確立", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 75) 山之内優志, 榎谷和義, "C型形状PZTアクチュエータによる循環機構の駆動周波数の探索", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 76) 齋藤飛鳥, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "血中循環腫瘍細胞検出用pHセンサの開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 77) 水流添岳, 榎谷和義, "マウスピース型デバイスによる口腔内pH測定", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 78) 高宮伸太郎, 金子大樹, 八十田穰, 佐々木海渡, 榎谷和義, "細胞用多機能センサの実現に向けたpHセンサと温度センサの開発", 日本生体医工学会大会, 富山国際会議場(富山市), 4月26日-28日, 2016.
- 79) 岡春樹, 荻野真里, 松永諒, 岡村陽介, 長瀬裕, "ホスホリルコリン基を有する生体適合性ポリイミドの合成とコーティング剤としての応用", 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月25日.
- 80) 樋口晃司, 岩野篤, 森田浩平, 佐々木海渡, 新屋敷直木, 岡村陽介, 長瀬裕, "ホスホリルコリン基とソフトセグメントを有するポリマーフィルムの物性と生体適合性", 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月25日.
- 81) ジャラットシーサグンピパット, 小田龍馬, 安藤加奈, 岡村陽介, 佐藤克典, 藤枝俊宣, 武岡真司, 長瀬裕, "ポリジメチルシロキサングラフトポリイミドからなるナノシートの性質", 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月25日.
- 82) 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕, "高いCO₂/N₂分離特性を持つポリエチレンオキシドグラフトポリイミド膜の透過性の改善", 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月27日.
- 83) 梅田知宙, 小田龍馬, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕, "イミダゾリウム基含有ポリマー超薄膜と高透過性膜との複合膜の気体分離特性", 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月27日.
- 84) 岡村陽介, 曾我部大輝, 中川篤, 長瀬裕, "血小板様ディスク状粒子の調製と2次元相互作用を活用した接着挙動", 第39回日本バイオレオロジー学会年会, 東海大学校友会館 (千代田区), 2016年6月18日.
- 85) 中川篤, 岡村陽介, "生分解性ディスク状粒子の調製法の確立とユニークな薬剤放出挙動", 第39回日本バイオレオロジー学会年会, 東海大学校友会館 (千代田区), 2016年6月18日.
- 86) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, "裁断化超薄膜からなる粉末スプレーコーティングと新規癒着防止材への応用", 第11回相模ケイ素・材料フォーラム/第61回湘北地区懇話会, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2016年8月1日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 87) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性ディスク状粒子の調製法の確立とユニークな薬剤放出挙動”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 88) 張宏, 岡村陽介, “Fabrication of poly(lactic acid) microdiscs by polymer blend phase separation”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 89) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “裁断化ナノシートの粉末化とスプレーコーティングによる癒着防止能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 90) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “ポリスチレンからなるナノシートの物性評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 91) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質シートの調製法の検討と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 92) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “人工皮膚への応用を指向したコラーゲンナノシートの調製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 93) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子吸脱着能を有するキトサンナノシートの創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 94) 和田諒, 中川篤, 岡村陽介, “機能性ポリスチレンナノファイバーの創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 95) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 岡村陽介, “経鼻吸収剤を指向したフェノバルビタール内包高分子微粒子の作製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 96) 鎗野目健二, 青木拓斗, 齋藤大陸, 増田愛美, 張宏, 岡村陽介, “生体組織ラッピングに用いる撥水性ナノシートの表面改質”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 97) 瀧本駿, 五十嵐敦, 高野秀太, 小町卓也, 岡村陽介, “血液凝固蛋白質を内包した層状ナノシートの調製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 98) 安藤加奈, 鈴木大士, 小田龍馬, 岡村陽介, 長瀬裕, “CO₂分離膜への応用を指向したナノシート複合膜の調製と気体分離特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 99) 荻野真里, 安藤加奈, 鈴木大士, 岡村陽介, 長瀬裕, “柔軟性と生体適合性を併せ持つポリアミドの合成”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 100) 岡村陽介, 曾我部大輝, 石倉賢一, 中川篤, 長瀬裕, “真球微粒子を変形させて得るディスク状粒子の調製法と2次元相互作用の活用”, 第65回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016年9月15日.
- 101) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性高分子からなるディスク状粒子の調製とユニークな薬剤放出特性”, 第65回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016年9月15日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 102) 安藤加奈, 鈴木大士, 岡村陽介, 長瀬裕, “PEO グラフトポリアミドナノシートのコーティングによる高透過性 PDMS グラフトポリイミド膜の CO₂ 分離性の改善”, 第 65 回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016 年 9 月 15 日.
- 103) 松永諒, 岡春樹, 岩野篤, 岡村陽介, 長瀬裕, “生体適合性高分子からなるナノシートを利用した表面改質”, 第 65 回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016 年 9 月 15 日.
- 104) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性高分子からなるディスク状粒子の調製とユニークな薬剤放出特性”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 105) 高野秀太, 木村啓志, 茂呂徹, 石原一彦, 岡村陽介, “薬剤担持ナノシートの調製法の確立と機能評価”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 106) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “シート状構造体に対する貫通孔付与法の確立”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 107) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “人工真皮への応用を目指したコラーゲンナノシートの調製法の確立”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 108) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “層状超薄膜への蛋白質封入技術の確立とその押圧放出特性”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 109) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質高分子超薄膜の創製と浮遊細胞ラッピング ~浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用~”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016 年 11 月 22 日.
- 110) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “裁断化ナノシートの粉末スプレーデバイスの創製と新規癒着防止材としての機能評価”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016 年 11 月 22 日.
- 111) 荻野真里, 岡春樹, 松永諒, 安藤加奈, 鈴木大士, 岡村陽介, 長瀬裕, “医療用デバイスへのコーティングを目指した生体適合性ポリアミドの合成とナノシート化”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016 年 11 月 22 日.
- 112) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “Followability of polymer ultra-thin films on rough and patterned surfaces”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 横浜市情報文化センター (横浜市), 2016 年 12 月 21 日.
- 113) 清田祥生, 小田龍馬, 渡邊真幸, 小野誠司, 小口真一, 岡村陽介, 樋口昌史, 長瀬裕, 伊藤建, “Polymerizable ionic-liquid hybrids with polyoxometalate clusters”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.
- 114) 松永諒, 岡春樹, 岩野篤, 岡村陽介, 長瀬裕, “Fabrication of biocompatible ultra-thin films and the application to surface modification”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.
- 115) 梅田知宙, 小田龍馬, Suleimenova Botakoz, 小林研太, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕, “Surface modification of gas permeable membrane by imidazoliumfunctionalized polymers”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.
- 116) 安藤加奈, 鈴木大士, 梅田知宙, Suleimenova Botakoz, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕, “Syntheses of copolyamides containing imidazolium group and oligo (ethylene oxide) segment and the

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

application to gas separation membranes”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.

- 117) 多田真衣子, 岡村陽介, 中川篤, 山元文晴, 渡邊伸央, 井上茂亮, 猪口貞樹, “ナノ粒子・ナノディスクを用いた経気道的な敗血症治療戦略”, 日本集中治療医学会第 1 回中国四国支部学術集会, サポートホール高松 (高松市), 2017 年 2 月 18 日.
- 118) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性微粒子の形状と薬剤放出挙動の相関”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 119) 張宏, 岡村陽介, “Shear flow and Marangoni instability induced phase separation morphology in polymer thin films”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 120) 高野秀太, 木村啓志, 石原一彦, 茂呂徹, 岡村陽介, “高分子超薄膜による蛋白質ラッピングと骨形成能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 121) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質超薄膜の創製と浮遊細胞イメージングへの展開”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 122) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “コラーゲン超薄膜の創製と人工真皮への応用展開”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 123) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “高分子超薄膜の接着性と微細凹凸界面に対する追従能の相関”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 124) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介, “ディスク状粒子の調製と新規凝集比濁担体への応用”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 125) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “蛋白質封入層状超薄膜の創製と押圧放出特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 126) 坪井亮, 金森審子, 岡村陽介, “ルテイン封入超薄膜の創製と紫外線吸収特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 127) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子吸脱着能を有するキトサン超薄膜の創製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 128) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 岡村陽介, “経鼻吸収剤を指向したフェノバルビタール内包微粒子の創製と放出特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 129) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 根本知己, 岡村陽介, “生体深部 *in vivo* イメージングへの応用を目指した撥水性超薄膜の表面改質”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 130) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介, “血栓クリーナーを指向した生分解性ディスク状粒子の創製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第8回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス(平塚市), 2017年2月25日.
- 131) 和田諒, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子吸脱着能を有するポリスチレンナノファイバーの創製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第8回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス(平塚市), 2017年2月25日.
- 132) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “コラーゲンナノシートの調製法の確立と人工真皮への応用”, 日本化学会第97春季年会, 慶応義塾大学日吉キャンパス(横浜市), 2017年3月16日.
- 133) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “高分子超薄膜の接着性と微細形状表面に対する追従能の相関”, 日本化学会第97春季年会, 慶応義塾大学日吉キャンパス(横浜市), 2017年3月17日.
- 134) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質高分子超薄膜の創製と浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用”, 日本化学会第97春季年会, 慶応義塾大学日吉キャンパス(横浜市), 2017年3月18日.
- 135) 横山奨, 八十田穰, 榎谷和義, 木村啓志, “金超薄膜を用いた細胞トラクションフォース可視化技術の開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会(Tµne7), 東海大学湘南校舎17号館2階ネクサスホール(神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 136) 石田智之, 大友麻子, 横山奨, 串田隆志, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いたALS疾患モデルの解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会(Tµne7), 東海大学湘南校舎17号館2階ネクサスホール(神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 137) 串田隆志, 横山奨, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞動態解析の効率化に向けたアッセイデバイスの開発ー微小スリット作製条件の最適化検討ー”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会(Tµne7), 東海大学湘南校舎17号館2階ネクサスホール(神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 138) 横山奨, 八十田穰, 榎谷和義, 木村啓志, “超薄膜を用いた細胞収縮力の可視化と定量化への試み”, 2016年度日本機械学会年次大会, 九州大学伊都キャンパス(福岡県福岡市), 2016年9月11日~14日.
- 139) 諸星和, 中山耕史朗, 江口和也, 横山奨, 榎谷和義, 喜多理王, 木村啓志, “ロードヴィッヒ・ソレー効果による重水-軽水分離のためのマイクロ流体デバイスの開発”, 2016年度日本機械学会年次大会, 九州大学伊都キャンパス(福岡県福岡市), 2016年9月11日~14日.
- 140) 横山奨, 串田隆志, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞態の効率的定量評価アッセイデバイスの開発”, 2016年度第12回総合医学研究所研修会, p.6, 東海大学伊勢原キャンパス(神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 141) 横山奨, 串田隆志, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロデバイスを用いた軸索輸送現象イメージング”, 第八回「光塾」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス(神奈川県横浜市), 2016年12月17日~18日.
- 142) 小野竜, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “Human-on-a-chip構築に向けた代謝機能デバイスの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第33回研究会(33rd CHEMINAS), 東京大学生産技術研究所「コンベンションホール」(東京都目黒区), 2016年4月25日~26日.
- 143) 榛葉健汰, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第33回研究会(33rd CHEMINAS), 東京大学生産技術研究所「コンベンションホール」(東京都目黒区), 2016年4月25日~26日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 144) 望月雄太, 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “オンチップグルコースセンサの電極形状と電子伝達体の利用に関する検討”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第33回研究会 (33rd CHEMINAS), 東京大学生産技術研究所「コンベンションホール」(東京都目黒区), 2016年4月25日~26日.
- 145) 榛葉健汰, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイス ~液性因子曝露実験によるデバイスの機能評価~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 146) 小野竜, 木村啓志, “マイクロ流路におけるECMコーティング法の確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 147) 望月雄太, 小森喜久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測のためのオンチップグルコースセンサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 148) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ソレ-効果を利用したトリチウム分離システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 149) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “腎臓機能を再現するオンチップ生体モデルの構築 ~再吸収機能評価に関する検討~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 150) 濱裕哉, 伊東大樹, 桑畑周司, 小野竜, 木村啓志, 樺山一哉, “プラズマ照射培地中に発生するNO₃-、NO₂-、H₂O₂濃度の測定”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tµne7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 151) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ルードヴィヒ・ソレ-効果を利用した重水分離システムの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第34回研究会 (34th CHEMINAS), 幕張メッセ国際会議場「コンベンションホール」(千葉県千葉市), 2016年9月6日~7日.
- 152) T. Ishibashi, K. Yamaguchi, S. Shigenobu, Y. Takahashi, K. Shinha, H. Kimura, and K. Matsuno “Transcriptome analysis to identify genes responding to mechanical force in Drosophila embryos”, 12th Japanese Drosophila Research Conference, pxx, Rikkyo University (Tokyo, Japan), Sep. 9-11, 2016.
- 153) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用したマラリア原虫寄生赤血球の変形能評価”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 CHEMINAS 33rd, 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区), 2016年4月25日-26日.
- 154) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用した赤血球の変形能計測デバイス ~電界強度に関する検討~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tµne]第7回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 155) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する受精卵作製・培養マイクロデバイスの開発”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 CHEMINAS 33rd, 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区), 2016年4月25日-26日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 156) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “受胎率向上を目指す体外受精卵作製・培養マイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 157) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “Neurovascular Unit 再現に向けた脳血管モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 158) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを応用した脳血管モデルの構築”, 第12回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 5号館 5階レストランサンデー (神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 159) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用した脳血管モデルの構築”, 第59回日本脳循環代謝学会学術集会, あわぎんホール (徳島県徳島市), 2016年11月11日-12日.
- 160) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリアクターを活用した複合糖質合成システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 161) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリアクターシステムを活用した複合糖質合成”, 第35回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぼーと (高知県高知市), 2016年9月1日-3日.
- 162) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリアクターシステムを活用した酵素的複合糖質合成システムの構築とその応用”, 第12回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 5号館 5階レストランサンデー (神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 163) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリアクターシステムを活用した複合糖質合成”, 日本化学会 第97春季年会(2017), 慶應義塾大学 日吉キャンパス, 2017年3月16日-19日.
- 164) 高橋雄也, 榛葉健太, 石橋朋希, 松野健治, 木村啓志, “ショウジョウバエ胚のライブイメージングに向けたマイクロ流体デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 165) 花上遼介, 笠原大瑚, 住吉秀明, 柳川享世, 中野泰博, 紙谷聡英, 木村啓志, 稲垣豊, “マイクロ流体デバイス内におけるマウス初代培養肝細胞接着法の検討”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会 2016, 東海大学伊勢原キャンパス(神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 166) 鈴木智稀, 望月雄太, 小森善久夫, 植谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態に向けたオンチップグルコースセンサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 167) 石田智之, 荒木良介, 串田隆志, 杉山純也, 大友麻子, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 2016年度第12回総合医学研究所研修会, No.B1, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 168) 石田智之, 荒木良介, 串田隆志, 杉山純也, 大友麻子, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 第 39 回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 11 月 30~ 12 月 2 日.
- 169) 石田智之, 荒木良介, 串田隆志, 杉山純也, 大友麻子, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 170) 串田隆志, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞動態解析の効率化に向けたマイクロデバイスの開発”, ロボティクス・関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017 年 3 月 16 日.
- 171) 横山奨, 串田隆志, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “軸索小胞輸送の定量評価に向けた開放型マイクロデバイスの開発および評価”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 172) 横山奨, 吉田翔太, 岡村陽介, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた血栓クリーナーの定量的機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 173) 串田隆志, 石田智之, 横山奨, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞動態解析の効率化に向けたマイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 174) 榛葉健汰, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスを用いた局所的細胞操作”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 175) 小野竜, 杉浦慎治, 藤井輝夫, 酒井康行, 木村啓志, “生体内パラメータを再現するオンチップ薬物代謝モデルの構築”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 176) 望月雄太, 小森喜久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの長寿命化に関する検討”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 177) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “再吸収機能を再現するオンチップ腎臓モデルの構築”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 178) 榛葉健汰, 藤井輝夫, 木村啓志, “微小空間内の細胞操作に向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 179) 小野竜, 杉浦慎治, 藤井輝夫, 酒井康行, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用したオンチップ薬物代謝モデルの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 180) 望月雄太, 小森喜久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの酵素固定膜に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 181) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ルードヴィヒ・ソレー効果を利用した水分子同位体分離システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 182) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “2細胞共培養系における腎臓モデルデバイス構築に向けた検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 183) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用した赤血球の変形能計測デバイス ~赤血球変形能の定量化検討~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune]第8回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 184) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を応用した細胞引張試験デバイスにおける赤血球変形能の定量化検討”, IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス(東京都文京区), 2017年3月14日-15日.
- 185) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する体外受精卵作製マイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第8回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 186) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する体外受精卵作製マイクロデバイスの開発”, IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス(東京都文京区), 2017年3月14日-15日.
- 187) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を用いた単核球の評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第8回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 188) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリアクターシステムを用いた複合糖質合成の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第8回学術公演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎, 2017年2月25日.
- 189) 高橋雄也, 榛葉健太, 石橋朋希, 松野健治, 木村啓志, “ショウジョウバエ胚の発生メカニズム解明に向けたマイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 190) 高木港, 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “赤血球変形能計測デバイスの計測精度向上に向けた検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 191) 高木港, 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を利用した赤血球変形能計測デバイスの開発”, ロボティクス・関東学生会第56回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017年3月16日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 192) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “尿細管モデルデバイスを用いた腎由来細胞の配向性評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 193) 松本大輔, 田中雄介, 木村啓志, “腎由来細胞を用いた腎機能再現デバイスの開発”, 関東学生会第56回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017年3月16日.
- 194) 塚越繁之, 木村啓志, “温度勾配による発生影響を調査するメダカ卵培養デバイス開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 195) 鈴木智稀, 望月雄太, 小森善久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態オンライン計測に向けたグルコースセンサ集積マイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 196) 鈴木智稀, 望月雄太, 小森善久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “グルコースセンサ集積マイクロ流体デバイスの開発”, ロボティクス・関東学生会第56回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017年3月16日.
- 197) 永井達也, 矢幡一英, 金子修, 額賀正行, 高木港, 木村啓志, “赤血球変形能計測デバイスにおける画像処理ソフトウェアの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第8回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 198) 明戸洋介, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “PIVを用いたドライガスシールの空気流れの可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 199) 小田桐遼, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “スラストフォイル軸受における構造的弾性特性の研究”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 200) 木ノ下雅康, 酒井風馬, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “2つの給油口を有するジャーナル油膜軸受すべり軸受内部の潤滑油流れの色相による可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 201) 前川恭一, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トラクション実験装置における転動体に作用する応力測定方法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 202) 加藤直也, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “HDD用空気軸受スピンドルモータの開発における課題および解決策の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 203) 篠崎玄一, 橋本巨, 砂見雄太, 落合成行, “巻取りロール内部の応力測定を可能とする薄膜圧力センサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 204) 甲斐仁智, 岡村陽介, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, リバースマイクログラビア印刷を用いたナノシートの創製, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 205) 小田桐遼, 砂見雄太, “スラストフォイル気体軸受を構成するフォイルの構造的弾性特性に関する研究”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 206) 横山輝, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “翅の微細構造がトンボの滑空飛行時における翅周りの流れに及ぼす影響”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 207) 甲斐仁智, 砂見雄太, 槌谷和義, “マイクログラビア印刷を用いた高分子超薄膜の大量創製”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 208) 今井貴博, 篠崎玄一, 砂見雄太, 橋本巨, “薄膜ウェブにおける熱粘弾性特性および厚みムラを考慮した巻取りロール内部の応力解析と巻取り条件の最適化”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 209) 倉本文治, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “ジャーナル油膜軸受を用いた流体潤滑下における軸方向から油膜の可視化”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 210) 松下知憲, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “メタルメッシュを用いたスラストフォイル気体軸受の実験的検討”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 211) 柏原侑輝, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “ダイカストの金型形状が湯流れに及ぼす影響”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 212) 池田祐太, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “印刷技術を用いたフレキシブルデバイスの検討”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 213) 田島伸一, 池田祐太, 橋本巨, 砂見雄太, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 214) 甲斐仁智, 岡村陽介, 槌谷和義, 砂見雄太, “表面修飾による高分子著薄膜の高機能化に関する検討”, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 215) 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 216) 横山輝, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 217) 山本周作, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 218) A. Otomo, R. Araki, S. Yokoyama, J. Wada, S. Hadano, H. Kimura, “Analysis of axonal transport in cultured neurons from ALS model mouse by using the microfluidic cell culture system”, 第 39 回日本神経科科学会年会, O1-G-4-4, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 7 月 20 日~22 日 (発表日: 7 月 20 日).
- 219) S. Ono, A. Otomo, M. Fukuda, S. Hadano, “The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2/Alsin in recycling endosomes”, 第 39 回日本神経科科学会年会, O3-G-1-2, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 7 月 20 日~22 日 (発表日: 7 月 23 日).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 220) 松井香奈, 小野寺和歌奈, 大友麻子, 秦野伸二, “ALS2 とその新規結合候補分子 Rab30 の細胞内動態解析及び発現解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第7回学術講演会, P082, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2016年8月9日 (発表日:8月9日) .
- 221) 石田智之, 大友麻子, 横山奨, 串田隆志, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第7回学術講演会, P083, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2016年8月9日 (発表日:8月9日) .
- 222) 石田智之, 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 串田隆志, 杉山純也, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 第39回日本分子生物学会年会, 1P-0852, 2016年11月30日~12月2日 (発表日11月30日) .
- 223) 白川涼平, 濱祐太郎, 大友麻子, シャンホイ-ファン, 秦野伸二, “ALS 患者由来 SQSTM1/p62 変異体の神経細胞における局在と機能の解析”, 第39回日本分子生物学会年会, 1P-0546, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016年11月30日~12月2日 (発表日:11月30日) .
- 224) 佐藤海, 鈴木-宇都宮恭子, 平塚結衣, 三井駿, 小野鈴花, 大友麻子, 秦野伸二, “ALS2 疾患原因変異体の高次構造および細胞内局在の変化は ALS2 関連運動ニューロン疾患の発症要因である”, 第39回日本分子生物学会年会, 2P-0578, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016年11月30日~12月2日 (発表日:12月1日) .
- 225) 松井香奈, 小野寺和歌奈, 大友麻子, 福田光則, 秦野伸二, “新規 ALS2 結合候補分子 Rab30 の発現及び細胞内動態解析”, 第39回日本分子生物学会年会, 2P-0360, 2016年11月30日~12月2日 (発表日:12月1日) .
- 226) 三井駿, 大友麻子, 野崎昌久, 小野鈴花, 佐藤海, 白川涼平, 足立弘明, 青木正志, 祖父江元, シャンホイ-ファン, 秦野伸二, “SQSTM1 の全身性高発現は変異 SOD1 発現 ALS マウスモデルの発症を早める”, 第39回日本分子生物学会年会, 2P-0575, 2016年11月30日~12月2日 (発表日:12月1日) .
- 227) 上田真保子, 三橋里美, 今西規, 中川草, “細胞融合に関わる内在性レトロウイルス由来遺伝子の同定”, 第8回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017年2月25日.
- 228) 中川草, 上田真保子, “哺乳類ゲノムに内在化するウイルス由来の配列の比較トランスクリプトーム解析”, 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月31日-12月2日.
- 229) 上田真保子, 黒崎陽平, 泉泰輔, 中野雄介, Oloniny K. Olamide, 安田二郎, 小柳義夫, 佐藤佳, 中川草, “エボラウイルス糖蛋白質 (GP) の82番目と544番目のアミノ酸変異は感染効率に關与する”第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月31日-12月2日.
- 230) 橋本暁, 吉川禄助, 中川草, 岡本宗裕, 宮沢孝幸, “非病原性霊長類レトロウイルスのエンベロープ遺伝子の進化とアジアのマカク属サル移動経路の解明への応用”, 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016年11月31日-12月2日.
- 231) 森田一輝, 永松健, 中川草, 杉本潤, 川名敬, 大須賀穰, 藤井知行, “合胞体栄養膜細胞分化モデルを用いた内在性レトロウイルスの網羅的発現解析”, 第24回日本胎盤学会学術集会 第34回日本絨毛性疾患研究会, 和歌山, 2016年11月25日-26日.
- 232) 杉本潤, Danny Schust, 中川草, 小田高也, 陣野吉廣, “マウスサプレシン遺伝子の単離・同定”, 第24回日本胎盤学会学術集会 第34回日本絨毛性疾患研究会, 和歌山, 2016年11月25日-26日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 233) 中川草, 上田真保子, “哺乳類ゲノムに内在化するウイルス由来の配列データベース gEVE とその活用方法”日本遺伝学会 第88回大会, 三島, 2016年9月7日-10日.
- 234) 小出りえ, 坂口翔一, 桑原千恵子, 酒井沙知, 中川草, 谷利爵公, 浅井健一, 川上和夫, 宮沢孝幸, “ネコモルビリウイルスの交差中和試験による血清学的比較”, 第159回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016年9月6日-8日.
- 235) 坂口翔一, 大松勉, 田向健一, 杉山和寿, 中川草, Kirill Kryukov, 片山幸枝, 岡田貴志, 土赤忍, 岸本麻衣, 粉川幸樹, 今西規, 宮沢孝幸, 水谷哲也, “ネコパラミクソウイルスの国内初の検出”, 第159回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016年9月6日-8日.
- 236) 坂口翔一, 谷利爵公, 藤村正人, 中川草, 宮沢孝幸, “尿から分離されたネコフォーミーウイルスの性状および遺伝学的解析”, 第159回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016年9月6日-8日.
- 237) 吉川禄助, 坂口翔一, 中川草, 中村紳一朗, 阪脇廣美, 兼子明久, 三浦智行, 鈴木樹理, 岡本宗裕, 宮沢孝幸, “サルレトロウイルス5型感染によるニホンザル血小板減少症”, 第159回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016年9月6日-8日.
- 238) 中川草, 上田真保子, “哺乳類ゲノムに内在化するウイルス由来の比較トランスクリプトーム解析”, 日本進化学会 第18回東京大会、東京（東京工業大学大岡山キャンパス）、2016年8月25日-28日.
- 239) 上田真保子, 黒崎陽平, 泉泰輔, 中野雄介, Oloniniy K. Olamide, 安田二郎, 小柳義夫, 佐藤佳, 中川草, “Functional mutations in spike glycoprotein of Zaire ebolavirus associated with an increase in infection efficiency”, 日本進化学会 第18回東京大会、東京、2016年8月25日-28日.
- 240) 上田真保子, 中川草, “哺乳類ゲノムにおける内在性レトロウイルス由来のプロモーター／エンハンサー配列の同定と比較ゲノム解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会, 神奈川, 2016年8月9日.
- 241) 三宅秀斗, 樺山一哉, 真鍋良幸, 陳思宇, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, “細胞表面における糖鎖機能解明を指向した合成糖鎖の細胞膜提示システムの開発”, 日本ケミカルバイオロジー学会年会（第11回）, 京都テルサ（京都）, 2016年6月15-17日.
- 242) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 岡村陽介, 深瀬浩一, “浮遊細胞のライブセルイメージング解析”, 日本ケミカルバイオロジー学会年会（第11回）, 京都テルサ（京都）, 2016年6月15-17日.
- 243) 樺山一哉, 三宅秀斗, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, “合成糖鎖の細胞膜提示システムによる糖脂質機能の解明”, 第58回日本脂質生化学会, にぎわい交流館 AU（秋田）, 2016年6月9-10日.
- 244) 狩野裕考, 郷慎司, 新田昂大, Lucas Veillon, Anna Cattaneo, Marilena Letizia, 名取良浩, 吉村祐一, 安藤弘宗, 石田秀治, 樺山一哉, 下山敦史, 深瀬浩一, Maria Ciampa, Laura Mauri, Alessandro Prinetti, Sandro Sonnino, 鈴木明身, 井ノ口仁一, “内因性リガンドとしての極長鎖 GM3 ガングリオシドによる慢性炎症惹起機構”, 第58回日本脂質生化学会, にぎわい交流館 AU（秋田）, 2016年6月9-10日.
- 245) 武部智之, 真鍋良幸, 笠原里美, Yang Xiaoxiao, 樺山一哉, 深瀬浩一, “コアフコース機能調節分子の開発とそれを用いた TGF- β シグナル制御と繊維化抑制”, 第51回天然物化学談話会, 湯沢東映ホテル（新潟）, 2016年7月6-8日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 246) 樺山一哉, 波多野佳奈枝, 岡村陽介, 深瀬浩一, “ナノシートを用いた浮遊系細胞のライブイメージング解析”, 第11回スフィンゴテラピィ研究会, ホテルアローレ (石川), 2016年8月14-16日.
- 247) 濱裕哉, 伊東大樹, 桑畑周司, 古見賢吾, 小野竜, 木村啓志, 樺山一哉, “プラズマ照射培地中に発生する NO₃⁻, NO₂⁻, H₂O₂ 濃度の測定”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016年8月9日.
- 248) 新井健太, 蟹江善美, 蟹江治, 樺山一哉, 深瀬浩一, “マイクロ-ナノ空間での糖脂質分子の拡散, 蛍光標識化ラクトシルスフィンゴシンを用いた細胞膜脂質の動態解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016年8月9日.
- 249) 伊東大樹, 濱裕哉, 桑畑周司, 古見賢吾, 小野竜, 木村啓志, 樺山一哉, “プラズマ照射培地による肺癌細胞の死滅”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016年8月9日.
- 250) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 岡村陽介, 深瀬浩一, “浮遊細胞のライブセルイメージング解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016年8月9日.
- 251) 樺山一哉, “バイオケミストリーとケミカルバイオロジーの接点”, 第35回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぼーと (高知), 2016年9月1-3日.
- 252) 三宅秀斗, 初村洋紀, 樺山一哉, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, “HaloTag テクノロジーによる生細胞への糖鎖提示とそれを用いた機能解析”, 第35回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぼーと (高知), 2016年9月1-3日.
- 253) 新井健太, 蟹江善美, 蟹江治, 樺山一哉, 深瀬浩一, “蛍光標識化 lactosyl sphingosine による細胞膜脂質の動態解析”, 第35回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぼーと (高知), 2016年9月1-3日.
- 254) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 第10回バイオ関連シンポジウム, 石川県立音楽堂 (石川), 2016年9月7-9日.
- 255) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 真鍋良幸, 岡村陽介, 深瀬浩一, “ライブセルイメージングによる蛍光標識抗体の動態解析”, 第10回バイオ関連シンポジウム, 石川県立音楽堂 (石川), 2016年9月7-9日.
- 256) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 糖質科学合同セミナー, 東海大学三保研修館 (静岡), 2016年10月15-16日.
- 257) 武部智之, 真鍋良幸, 笠原里美, Yang Xiaoxiao, 樺山一哉, 深瀬浩一, “FUT8 阻害剤の開発と細胞における機能評価”, 糖質科学合同セミナー, 東海大学三保研修館 (静岡), 2016年10月15-16日.
- 258) 新井健太, 岡崎俊朗, 樺山一哉, “スフィンゴミエリン再構成細胞を用いた ICAM1 の機能解析” 糖質科学合同セミナー, 東海大学三保研修館 (静岡), 2016年10月15-16日.
- 259) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 第6回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016年11月14-16日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 260) 溝手啓介, 下山敦史, 松浦良史, 藤居真優, 井ノ口仁一, 樺山一哉, 深瀬浩一, “協奏的に作用する TLR4/MD-2 制御因子の機能”, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016 年 11 月 14-16 日.
- 261) 武部智之, 真鍋良幸, 笠原里美, Yang Xiaoxiao, 樺山一哉, 深瀬浩一, “FUT8 阻害剤の細胞における機能評価”, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016 年 11 月 14-16 日.
- 262) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 真鍋良幸, 深瀬浩一, “蛍光標識を用いた抗体のライブセルイメージング解析” 第 39 回分子生物学会年会, (神奈川), 2016 年 11 月 30 日-12 月 2 日.
- 263) 下山敦史, 溝手啓介, 松浦良史, 藤居真優, 狩野裕考, 樺山一哉, 藤本ゆかり, 井ノ口仁一, 深瀬浩一, “協奏的に作用する TLR4/MD-2 制御因子の機能～免疫調節作用を有する寄生菌由来 LPS 部分構造を中心に～”, 第 22 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会, 鹿児島大学 (鹿児島), 2016 年 12 月 2-3 日.
- 264) 樺山一哉, 波多野佳奈枝, 岡村陽介, 深瀬浩一, “浮遊細胞のライブセルイメージング解析”, 第八回「光塾」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (神奈川), 2016 年 12 月 17-18 日.
- 265) 樺山一哉, “自然免疫リガンドのライブセルイメージング”, 糖鎖免疫 Glyco-immunology 2017, 東京医科歯科大学M&Dタワー (東京), 2017 年 1 月 25-26 日.
- 266) FENG, Qi; KABAYAMA, Kazuya; MANABE, Yoshiyuki; KAMETANI, Yoshie; FUKASE, Koichi, “Comparative study of fully synthetic self-adjuvanting cancer vaccine candidates containing tandem repeats of B cell epitope from HER2”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶應義塾大学 日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16-19 日.
- 267) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 下山敦史, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶應義塾大学 日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16-19 日.
- 268) Tsung-che Chang, Yoshiyuki Manabe, Yukari Fujimoto, Yoshie Kametani, Kazuya Kabayama, Koichi Fukase, “Synthesis and Immunological Evaluation of Self-Adjuvanting N-Modified Clustered Sialyl-Tn Conjugate Vaccine Candidate”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶應義塾大学 日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16-19 日.

2015 年度 (学会発表) *4

- 269) 目黒貴行, 岸広也, 荒井詩穂, 増田貴宏, 中山耕史朗, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, ポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) の分子量分別による GPC 検量線の検討, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 270) 高橋佑太朗, 土井駿, 増田貴宏, 村文哉, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, 光散乱法による様々な高分子の物性解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 271) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, ナノ細孔中の過冷却水の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 272) 深井俊樹, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 田中文彦, 高分子/水/アルコール 3 成分系における曇点曲線から解析する共貧溶性, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 273) 目黒貴行、岸広也、新屋敷直木、八木原晋、喜多理王、ポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)の分子量分別による GPC 検量線の検討、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 274) 内田夏実、前田晃作、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、笹川昇、中川草、水溶性高分子のソレー効果の温度依存性、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 275) 中山耕史朗、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、さまざまな溶媒中におけるポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)の熱拡散現象、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 276) 深井俊樹、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、混合溶媒中におけるポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)の曇点曲線の測定から解析する共貧溶媒性、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 277) 植竹祐太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法によるポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)薄膜のガラス転移温度の解析、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 278) 山本まゆ、深井俊樹、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、PNiPAM 溶液におけるソレー効果の温度差依存性および分子量依存性の解析、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 279) 江口和也、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、糖類におけるルードビッヒソレー効果の温度、分子量、溶媒依存性、第 64 回高分子討論会、東北大学(仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 280) 井上紫央里、佐々木海渡、松井ゆりか、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(ethylene imine)水溶液のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 281) 佐々木海渡、大浜巧、木下皓、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、部分的に氷結したタンパク質水溶液中の水のダイナミクスに関する誘電的研究、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 282) 山本まゆ、深井俊樹、中山耕史朗、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、喜多理王、水溶性の感熱性高分子を用いたソレー効果の温度依存性および分子量依存性、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 283) 江口和也、新屋敷直木、八木原晋、喜多理王、糖水溶液のルードビッヒ・ソレー効果、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 284) 萬代健太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による 1-Propanol 水溶液における不凍溶液相のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 285) 高塚将伸、前田巧、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液の水と高分子のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 286) 前田巧、高塚将伸、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液の高分子と水のダイナミクス、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス(伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.
- 287) 宮良政彦、高島いける、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法によるポリエチレングリコール水溶液の特異な融解現象、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス（伊勢原市）、2015年08月25日。

- 288) 大場有沙、佐々木海渡、松井ゆりか、坂神大幹、小町卓也、張宏、八十田穰、岡村陽介、樋谷和義、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電測定で見る高分子超薄膜のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス（伊勢原市）、2015年08月25日。
- 289) 松井ゆりか、萬代健太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl pyrrolidone)の水溶液と1-propanol溶液の誘電緩和時間、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス（伊勢原市）、2015年08月25日。
- 290) 中山耕史朗、新屋敷直木、八木原晋、喜多理王、温度勾配下におけるコロイドの輸送現象の画像処理を用いた解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス（伊勢原市）、2015年08月25日。
- 291) 喜多理王、単糖、オリゴ糖、多糖類のルードヴィッヒ・ソレー効果、ゆらぎと構造の協奏「非平衡系における普遍法則の確立」第2回公開シンポジウム、東京大学（文京区）、2015年05月01日。
- 292) 佐々木海渡、安田隆人、松井ゆりか、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、部分的に氷結した高分子水溶液中の水 I_h の誘電緩和時間、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学（仙台市）、2016年3月19日～22日。
- 293) 高塚将伸、佐々木海渡、前田巧、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子のガラス転移、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学（仙台市）、2016年3月19日～22日。
- 294) 萬代健太、佐々木海渡、松井ゆりか、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(vinyl pyrrolidone)の水溶液およびアルコール溶液のガラス転移、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学（仙台市）、2016年3月19日～22日。
- 295) 松井 ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷結した Poly(vinyl pyrrolidone)水溶液の水と高分子および氷の誘電緩和、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学（仙台市）、2016年3月19日～22日。
- 296) 井上紫央里、松井ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における誘電緩和、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学（仙台市）、2016年3月19日～22日。
- 297) 宮良政彦、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷結した poly(ethylene glycol)水溶液の凍結と融解現象に関する誘電的研究、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学（仙台市）、2016年3月19日～22日。
- 298) 八木原晋、喜多理王、新屋敷直木、福崎稔、水素結合している水分子の大規模挙動、第25回日本MRS年次大会、横浜情報文化センター（横浜市）、2015年12月8日～10日。
- 299) 田窪洸祐、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、佐藤駿介、川口翼、栗田太作、福崎稔、灰田宗孝、大橋三男、フィリングインに対する前頭葉のNIRS測定、第25回日本MRS年次大会、横浜情報文化センター（横浜市）、2015年12月8日～10日。
- 300) 斉藤宏伸、佐藤駿介、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、望月明、田中賢、広帯域誘電分光法を用いた高分子生体材料中の水構造解析、第25回日本MRS年次大会、横浜情報文化センター（横浜市）、2015年12月8日～10日。
- 301) 清水健太、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、宮地伸英、低分子ヒドロゲル化剤(LA608)一水混合系における分子ダイナミクスの誘電的研究、第25回日本MRS年次大会、横浜情報文化

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

センター（横浜市）、2015年12月8日～10日。

- 302) 川口翼、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、傾斜磁場勾配法を用いた ^{31}P , ^2H -NMR によるリポソーム/水分散系における拡散現象、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター（横浜市）、2015年12月8日～10日。
- 303) 青山剛志、斉藤宏伸、川口翼、清水健太、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、福崎稔、浅見耕司、懸濁液中の細胞構造に起因する誘電緩和過程、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター（横浜市）、2015年12月8日～10日。
- 304) 堀雄基、西堯宏、斉藤宏伸、川口翼、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、須藤誠一、鈴木養樹、広帯域誘電分光法と PFG-NMR 法による木材中の水構造観測と含水率依存性の評価、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 305) 斉藤宏伸、川口翼、庄司幸平、高村優、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、相補的測定手法を用いた低分子水溶液中の協同的分子ダイナミクスの研究、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 306) 青山剛志、川口翼、齋藤徹哉、清水健太、庄司幸平、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、福崎稔、増田治史、敗血症および水素水がマウス臓器の水構造に与える影響、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 307) 松井ゆりか、佐々木海渡、宮良政彦、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl pyrrolidone) 水溶液のガラス転移と誘電緩和時間、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 308) 前田巧、高塚将伸、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl methyl ether) 水溶液における高分子と水の誘電緩和現象、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 309) 高塚将伸、前田巧、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl methyl ether) 水溶液の誘電緩和とガラス転移、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 310) 井上紫央里、松井ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(ethylene imine) 水溶液の液体からガラス状態における誘電緩和、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 311) 萬代健太、松井ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl pyrrolidone) の水およびアルコール溶液におけるガラス転移に関する誘電的研究、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 312) 宮良政彦、高島いける、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷結した Poly(ethylene glycol) 水溶液の融解に関する誘電的研究、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学（目黒区）、2015年12月11日。
- 313) 川口翼、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、PFG-NMR 法によるエマルジョン系の拡散計測、第 54 回 NMR 討論会、千葉工業大学津田沼キャンパス（習志野市）、2015年11月6日～8日。
- 314) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷 Ih の誘電緩和、日本物理学会 2015 年秋季大会、関西大学千里山キャンパス（吹田市）、2015年9月16日～19日。
- 315) 高塚将伸、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether) 水溶液の水と溶質のガラス転移、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所（柏市）、2015年7月30日～8月1日。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 316) 萬代建太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による 1-プロパノール-水系のガラス転移、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所（柏市）、2015年7月30日～8月1日。
- 317) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、部分的に氷結したゼラチン水溶液の α 緩和と不凍水量に関する誘電的研究、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所（柏市）、2015年7月30日～8月1日。
- 318) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、水溶液中の水とアモルファス氷の誘電緩和、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所（柏市）、2015年7月30日～8月1日。
- 319) 大西康貴、長島朋弘、喜多理王、榎谷和義、岩森暁、ポリテトラフルオロエチレン（PTFE）を原材料とした真空蒸着膜の光学特性、日本材料科学会 平成27年度学術講演大会 日本工学院大学（新宿区） 2015年6月5日。
- 320) 川田 健人、梶原 景正、木村 穰、岡村 陽介、榎谷 和義、高分子超薄膜による薬剤投与時の浸透傾向評価、精密工学会、精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2016 春季 Page.309-310、東京理科大学、2016年3月15-17日。
- 321) 木本英明、榎谷和義、スパッタリング法を用いた多角形断面を有する極細無痛針の創製、精密工学会、精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2016 春季 Page.319-320、東京理科大学、2016年3月15-17日。
- 322) 野尻晃成、榎谷和義、RF マグネトロンスパッタリング法を用いた流体デバイス内 pH センサの創製、日本機械学会 関東支部 第55回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016年3月10日。
- 323) 水流添岳、榎谷和義、口腔内 pH 測定用デバイスに搭載する電極の開発、日本機械学会 関東支部 第55回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016年3月10日。
- 324) 海老原崇紀、榎谷和義、PVDF を用いたシート型呼吸センサの開発、日本機械学会 関東支部 第55回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016年3月10日。
- 325) 大塚亮、榎谷和義、アキレス腱組織の微視的強度観察、日本機械学会 関東支部 第55回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016年3月10日。
- 326) 嘉村 優大、榎谷 和義、磁性微粒子を用いた体内発電方式、日本機械学会 関東支部 第55回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016年3月10日。
- 327) 高宮 伸太郎、榎谷 和義、佐々木海渡、細胞用多機能センサに向けた温度センサの開発と評価、日本機械学会 関東支部 第55回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016年3月10日。
- 328) 岡村 陽介、増田 愛美、奥山 一生、保科 貴宏、幸谷 愛、長瀬 裕. 生体組織イメージング用撥水性超薄膜の創製 ～保水・保定を実現するナノラッピング～. 第64回高分子学会年次大会、札幌コンベンションセンター（札幌市）、2015年5月27日。
- 329) 曾我部 大輝、長瀬 裕、岡村 陽介. ディスク状粒子の簡易調製法の確立と2次元相互作用を利用した医用展開. 第64回高分子学会年次大会、札幌コンベンションセンター（札幌市）、2015年5月28日。
- 330) 岩野 篤、森田 浩平、浅尾 幸平、岡村 陽介、長瀬 裕. 生体適合性ポリウレタンの合成とナノシートの作製およびコーティング. 第64回高分子学会年次大会、札幌コンベンションセンター（札幌市）、2015年5月28日。
- 331) 手塚 基文、岩野 篤、森田 浩平、岡村 陽介、長瀬 裕. ホスホリルコリン基とアルキル基

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

を有するポリウレタンの合成と性質. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.

- 332) 荻野 真理, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリアミドイミドの合成とナノシートの作製. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 333) 安藤 加奈, 平 孝介, 小田 龍馬, 岡村 陽介, 長瀬 裕. PDMS グラフトポリイミド膜のナノシートコーティングによる CO₂ 分離性の改善. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 334) 遠藤 雅則, 平山 みさき, 新井 裕喜, 岡村 陽介, 朝倉 哲郎. グリセリンを少量含む絹膜の作製と眼科分野への応用. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 335) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状ナノシートの調製法の確立と肝臓用創傷被覆材への医用応用. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 336) 安藤 加奈, 平 孝介, 小田 龍馬, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 高透過性膜のナノシートコーティングによる二酸化炭素分離特性の改善. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 337) 荻野 真理, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基含有ポリアミド-イミドの合成とナノシート評価. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 338) 手塚 基文, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とアルキル基を側鎖に持つ生体適合性ポリウレタンの合成と性質. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 339) 樋口 晃司, 岩野 篤, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 生体適合性を有するブロック共重合体の合成と性質. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 340) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化ナノシートのスプレーコーティングと新規癒着防止材への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 341) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 2 次元相互作用可能なディスク状粒子の調製と接着挙動. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tμne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 342) 畑中 朋美, 齋藤 享徳, Wesam R. Kadhum, 藤堂 浩明, 杉林 堅次, 小町 卓也, 岡村 陽介, 木村 穰. 生体適合性ナノシートを用いた皮膚適用ステロイド製剤の開発. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 343) 渡邊 真幸, 小田 龍馬, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有ポリメタクリレート合成と物性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tμne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 344) 樋口 晃司, 岩野 篤, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ブロック共重合体の合成と性質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tμne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 345) 堀田 博明, 甲斐 仁智, 橋本 巨, 落合 成行, 岡村 陽介, 砂見 雄太. マイクログラビア方式におけるナノシートの膜厚制御. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 346) 川田建人, 梶原 景正, 木村 穰, 岡村 陽介, 樋谷 和義. 高分子超薄膜による注射針管内面の表面改質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 347) 岡村 陽介. 高分子ナノ・マイクロディスク ~新規製造法の提案と医療分野への挑戦~. イノベーションジャパン 2015 -大学見本市, 東京ビックサイト (江東区), 2015 年 8 月 27-28 日.
- 348) 岡村 陽介. 高分子超薄膜の開発とユニークな特性を利用した医療領域への応用展開. 第 351 回ゴム技術フォーラム月例会, 日本ゴム協会東部ビル (港区), 2015 年 9 月 10 日.
- 349) 曾我部 大輝, 中川 篤, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 真球微粒子の形状変換 ~ディスク状粒子の創製と 2 次元相互作用を活用した応用展開~. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 15 日.
- 350) 小田 龍馬, 渡邊 真幸, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有ポリマーのナノシートコーティングによる PDMS グラフトポリイミド膜の気体分離特性の改善. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 16 日.
- 351) 樋口 晃司, 岩野 篤, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基を有する生体適合性ブロック共重合体の合成と性質. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 16 日.
- 352) 長瀬 裕, 岡村 陽介, 小口 真一, 岩野 篤, 荻野 真理, 小田 龍馬. 機能性高分子からなるナノシートを利用した表面改質. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 17 日.
- 353) 渡邊 真幸, 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基を側鎖に持つメタクリレートポリマーの合成と物性. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 17 日.
- 354) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の調製と臓器止血材への応用. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 14 日.
- 355) 手塚 基文, 樋口 諒, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 擬似細胞膜構造を有するポリウレタン共重合体の合成と生体適合性. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 14 日.
- 356) 岩野 篤, 森田 浩平, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 高度な生体適合性を示すポリウレタンの合成とナノシートコーティング材としての応用. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 14 日.
- 357) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 真球粒子を変形させて得るディスク状粒子の調製と 2 次元相互作用の発現. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 15 日.
- 358) 小田 龍馬, 渡邊 真幸, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ナノシートコーティングによる PDMS グラフトポリイミド膜の気体分離特性の改良. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 15 日.
- 359) 岡村 陽介. 面をもつ生体適合性ナノ材料の創製とユニークな特性 ~新規医用材料への挑戦~. 東海医学会講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 10 月 29 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 360) 岡村 陽介, 曾我部 大輝, 中川 篤, 廣澤 彰英, 長瀬 裕. ディスク状粒子の新規調製法の確立と2次元相互作用を活用したユニークな特性. 第37回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市) 2015年11月9日.
- 361) 岩野 篤, 森田 浩平, 松永 諒, 高野 秀太, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 高度な生体適合性を示すポリウレタンからなるナノシートの作製と表面改質材への応用. 第37回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市) 2015年11月9日.
- 362) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化超薄膜からなるスプレーコーティング法の確立と新規癒着防止材への医用展開. 第37回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市), 2015年11月10日.
- 363) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と肝臓用止血材への医用展開. 第37回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市), 2015年11月10日.
- 364) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と肝臓用創傷被覆材への医用展開. 東海大学総合医学研究所第11回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015年12月5日.
- 365) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化超薄膜からなる粉末スプレーコーティングと新規癒着防止材への応用展開. 東海大学総合医学研究所第11回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015年12月5日.
- 366) 中川 篤, 岡村 陽介. SPG膜乳化法による機能性高分子微粒子の創製. 東海大学総合医学研究所第11回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015年12月5日.
- 367) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. Fabrication of Disk-shaped particles and Their Unique Properties via Two-Dimensional Interactions. 第25回日本MRS年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015年12月9日.
- 368) 手塚 基文, 樋口 諒, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Syntheses of cell membrane-mimic polyurethanes and the biocompatibility. 第25回日本MRS年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015年12月9日.
- 369) 荻野 真理, 岡 春樹, 松永 諒, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Synthesis of poly(amide-imide) containing phosphorylcholine group and the fabrication of nanosheets. 第25回日本MRS年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015年12月9日.
- 370) 安藤 加奈, 平 孝介, 小田 龍馬, 鈴木 大士, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Improvement of separation property of highly gas permeable membrane by the coating of nanosheets composed of polar polymers. 第25回日本MRS年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015年12月9日.
- 371) 岡村 陽介. 面をもつナノ材料(シート・ディスク)の創製と医用展開. 第8回次世代医工学研究会, 東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設 (新宿区), 2016年1月29日.
- 372) 岡村 陽介. マテリアルの厚みで組織接着性を制御する ～高分子超薄膜の創製と医用展開～. 日本接着学会生体材料接着研究会, 東京医科歯科大学 (文京区), 2016年2月1日.
- 373) 岡村 陽介. 『高分子超薄膜から創成する次世代医用技術』創るチーム. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第6回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016年2月19日.
- 374) 張 宏, 岡村 陽介. Morphological study on crystallization of polymer thin films and their adhesiveness. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第6回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016年2月20日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 375) 中川 篤, 岡村 陽介. SPG 膜乳化法を基盤とするディスク状高分子微粒子の作製とモデル薬剤放出挙動. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 376) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の調製と創傷被覆材としての機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 377) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の調製と 2 次元相互作用を利用した接着挙動. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 378) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化 CMC ナノシート粉末のスプレーコーティング法の確立と癒着防止能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 379) 五十嵐 敦, 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 岡村 陽介. コラーゲンからなるナノシートの調製法の確立. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 380) 坂神 大幹, 張 宏, 岡村 陽介. ナノシートに高接着性が発現する機序の解明. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 381) 信岡 昂平, 中川 篤, 岡村 陽介. 経鼻吸収剤への応用を目指した薬剤内包高分子微粒子の調製. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 382) 青木 拓斗, 張 宏, 岡村 陽介. 多孔質シートの調製法の検討. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 383) 齋藤 大陸, 増田 愛美, 張 宏, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 撥水性ナノシートの調製と生体組織ラッピング手法の確立. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 384) 畑中 朋美, 福島 孝昌, 齋藤 享徳, 藤堂 浩明, 杉林 堅次, 岡村 陽介, 木村 穰. 生体適合性ナノシートを用いた皮膚適用製剤の水溶性抗菌剤への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 385) 樋口 晃司, 岩野 篤, 森田 浩平, 佐々木 海渡, 新屋敷 直木, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基とソフトセグメントを含有するポリマーフィルム物の物性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 386) ジャラットシーサグン ピパット, 小田 龍馬, 安藤 加奈, 岡村 陽介, 佐藤 克典, 藤枝 俊宣, 武岡 真司, 長瀬 裕. Properties of nanosheet composed of polydimethylsiloxane graft copolyimide. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 387) 渡邊 真幸, 小田 龍馬, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有メタクリレートポリマーの合成と表面改質材としての性能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 388) 鈴木 大士, 安藤 加奈, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ポリエチレンオキシド含有ポリアミド膜の気体透過性の改善. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 389) 梅田 知宙, 小田 龍馬, Botakoz Suleminova, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有ポリイミドの合成と分離膜への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第6回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016年2月20日.
- 390) 樺山 一哉, 波多野 佳奈枝, 岡村 陽介, 深瀬 浩一. ナノシートを利用した浮遊細胞のイメージング解析. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第6回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016年2月20日.
- 391) 川田 建人, 梶原 景正, 木村 穰, 岡村 陽介, 槌谷 和義. カルボキシメチルセルロース超薄膜による薬剤投与時の浸透傾向評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第6回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016年2月20日.
- 392) 岡村 陽介. テニユアトラック期間を振り返って. 第6回東海大学テニユアトラック制度シンポジウム, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年2月23日.
- 393) 横山康平, 河原佑紀, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一 自然免疫受容体リガンドの細胞内動態解析に向けて 日本ケミカルバイオロジー学会 第10回年会, 仙台, 2015年6月10日~12日
- 394) 樺山一哉, 横山康平, 深瀬浩一 自然免疫受容体リガンドの細胞内動態解析 第7回光塾, 広島, 2015年9月5日~6日
- 395) 樺山一哉 ナノラッピングによる浮遊細胞のイメージング解析 糖質科学合同セミナー, 箱根, 2015年10月3日~4日
- 396) 篠原厚, 深瀬浩一, 金田安史, 畑澤順, 中野貴志, 福田光宏, 吉村崇, 矢野恒夫, 豊嶋厚史, 高橋成人, 笠松良崇, 神田晃充, 樺山一哉, 下山敦史, 真鍋良幸 医理連携による進行がん治療のための国際医療拠点形成事業 理学研究フォーラム, 豊中, 2016年3月11日
- 397) 樺山一哉, 三宅秀斗, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一 合成糖鎖の細胞膜提示システムによる糖鎖機能の解明 ERATO 村田脂質活性構造プロジェクト終了報告会, 豊中, 2016年3月17日
- 398) 笠原大瑚, 稲垣豊, 木村啓志, ”肝小葉構造再現を目指す酸素勾配形成デバイス”, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, P.202, 京都市勧業館「みやこめっせ」(京都府京都市), 2015年5月17日-19日 (発表日:5月19日) .
- 399) 千田翔太, 吉村拓真, 佐藤泰史, 藤森俊彦, 藤井輝夫, 木村啓志, “受精卵アッセイに向けた高効率抗体スクリーニングデバイス”, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, P.201, 京都市勧業館「みやこめっせ」(京都府京都市), 2015年5月17-19日 (発表日:5月19日) .
- 400) 矢崎亮, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, ”細胞動態オンライン計測のためのオンチップグルコースセンサの開発”, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, P.202, 京都市勧業館「みやこめっせ」(京都府京都市), 2015年5月17日-19日 (発表日:5月19日) .
- 401) 諸星和, 矢崎亮, 小野竜, 望月雄太, 中村寛子, 横山奨, 槌谷和義, 木村啓志, ”薬物動態のオンライン計測を目指す Body-on-a-chip デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune] 第5回学術講演会, P.85, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日.
- 402) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.91, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日.
- 403) 笠原大瑚, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, “酸素勾配制御による肝小葉環境の再現に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.29, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 404) 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの流速依存性と酵素量の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 5 回学術講演会, P.84, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 405) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いたマラリア感染赤血球の変形能計測デバイスの開発 —第二報 感染ステージ別の変形能観察—”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 5 回学術講演会, P.96, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 406) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “マイクロデバイスを用いた精子選別および媒精機能の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 5 回学術講演会, P.83, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 407) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用したオンチップ脳血管モデルの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 5 回学術講演会, P.97, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 408) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスによる一細胞刺激に向けた流体制御の確立”, 2015 年度日本機化学会年次大会, 北海道大学工学部 (北海道札幌市), 2015 年 9 月 13 日-16 日 (発表日:9 月 15 日, 口頭).
- 409) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “脳血管モデル構築に向けたマイクロ流体デバイスの開発”, 第 27 回日本脳循環代謝学会総会, P.161, 富山国際会議場 (富山県富山市), 2015 年 10 月 30 日.
- 410) 笠原大瑚, 住吉秀明, 柳川享世, 中尾祥絵, 茂呂忠, 木村啓志, 稲垣豊, “微小環境制御による肝小葉構造の構築”, 第 29 回肝臓洞壁細胞研究会学術集会, P.64, 秋田市にぎわい交流館 AU (秋田県秋田市), 2015 年 10 月 31 日-11 月 1 日.
- 411) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会, 2P0928, 神戸国際展示場 (兵庫県神戸市), 2015 年 12 月 1-12 月 4 日 (発表日:12 月 2 日, ポスター).
- 412) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロバイオリアクターを用いた酵素的複合糖鎖合成”, 2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会, P.7, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 413) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を用いた脳血管モデルの開発”, 第 11 回総合医学研究所研修会, P.4, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 414) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “Development of a novel ALS model in vitro by using the microfluidic device-based cell culture system“, 2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会, No.08, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 415) 笠原大瑚, 住吉秀明, 柳川享世, 中尾祥絵, 茂呂忠, 木村啓志, 稲垣豊, “微小環境制御による肝小葉構造の構築”, 第 11 回総合医学研究所研修会, P.7, 東海大学伊勢原キャンパス (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 416) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する受精卵作製マイクロデバイスの開発”, 第 16 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, No. 111-7, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2015 年 12 月 16-19 日 (発表日:12 月 16 日, 口頭).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 417) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球変形能計測デバイスの開発 (赤血球のヤング率の定量化)”, 日本機械学会第 28 回バイオエンジニアリング講演会, P.13, 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区), 2016 年 1 月 10 日.
- 418) 横山奨, 和田純希, 荒木良介, 大友麻子, 木村啓志, “神経細胞軸索輸送の定量化に向けた神経細胞極性制御デバイス”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P40, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 419) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた神経疾患モデルの確立”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.33, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 420) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “局所細胞刺激の実現に向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイス”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.42, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 421) 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたオンチップグルコースセンサの開発”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.39, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 422) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球の変形能計測デバイス”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.34, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 423) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “Neurovascular Unit 構築に向けたマイクロ流体デバイスの開発”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.38, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 424) 横山奨, 和田純希, 荒木良介, 大友麻子, 木村啓志, “神経細胞軸索輸送の定量化に向けた神経細胞極性制御デバイスの最適化”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.52, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2月 20 日).
- 425) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロバイオリクターを用いた酵素的複合糖質合成システム”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.71, 東海大学清水校舎(静岡県静岡市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2月 20 日).
- 426) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用した赤血球の変形能計測デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.51, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2月 20 日).
- 427) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “高品質受精卵作製のための媒精用マイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.29, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日 (発表日:2月 19 日).
- 428) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “脳血管構造再現に向けた脳血管モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.69, 東海大学清水校舎 (静岡県静岡市), 2016 年 2 月 19-20 日 (発表日:2月 19 日).
- 429) 小野竜, 木村啓志, “薬物代謝を有する生体モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.58, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2月 20 日) .
- 430) 望月雄太, 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “オンチップグルコースセンサの電極形

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

状に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.59, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日) .

- 431) 田中雄介, 木村啓志, “排泄機能を有するオンチップ腎臓モデル構築のための検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.61, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日) .
- 432) 榛葉健汰, 洞山正幸, 木村啓志, “細胞アッセイのためのマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.63, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日) .
- 433) 桑畑周司, 山口健志, 磯村雅夫, 木村啓志, 小野竜, 樺山一哉, “癌細胞への大気圧プラズマジェット照射”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.99, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日) .
- 434) 小野竜, 木村啓志, “薬物代謝機能を有するオンチップ生体モデルの構築”, 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 講演番号 105, 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10 日.
- 435) 田中雄介, 木村啓志, “ヒト由来腎細胞を用いた腎臓機能再現デバイスの構築”, 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 講演番号 203, 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10 日.
- 436) 榛葉健汰, 洞山正幸, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 講演番号 1118, 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10 日.
- 437) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “複合糖質合成マイクロバイオリクターシステムの構築と応用”, 日本農芸化学会 2016 年度札幌大会, 札幌コンベンションセンター (北海道札幌市), 2016 年 3 月 27-31 日 (発表日:3 月 30 日) .
- 438) 三井駿、久保瑞希、Pan Lei、大友麻子、小池 正人、内山安男、青木正志、山本雅之、石井哲郎、柳川徹、H.F. Shang、吉井文均、秦野伸二、Loss of p62/SQSTM1 but not Nrf2 accelerates motor neuron degeneration in SOD1H46R transgenic mice、第 38 回日本神経科学大会、神戸国際会議場・神戸国際展示場 (神戸市) 2015 年 7 月 28 日～31 日.
- 439) 佐藤海、平塚結衣、鈴木 (宇都宮) 恭子、大友麻子、秦野伸二、Pathogenic mutations in ALS2 alter the oligomeric states of the ALS2 complex and its subcellular localization、第 38 回日本神経科学大会、神戸国際会議場・神戸国際展示場 (神戸市) 2015 年 7 月 28 日～31 日.
- 440) 井上陽子、大友麻子、秦野伸二、遺伝子の配列情報から種間の多様性と共通性を理解する分子生物学の実験開発とその検証、第 39 回日本科学教育学会年会、山形大学 (山形市) 2015 年 08 月 21 日～23 日.
- 441) 佐藤海、平塚結衣、大友麻子、秦野伸二、ALS2 疾患原因変異体は ALS2 複合体構造や細胞内局在を変化させる、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 25 日.
- 442) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、ALS2 及び ALS2 結合低分子量 G タンパク質 Rab17 はリサイクリングエンドソームに局在する、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 26 日.
- 443) 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、秦野伸二、SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 25 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 444) 白川涼平、濱祐太郎、大友麻子、秦野伸二、SQSTM1/p62 の神経細胞における局在解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 25 日。
- 445) 荒木良介、大友麻子、横山奨、和田純希、秦野伸二、木村啓志、マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日。
- 446) 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、小池正人、内山安男、青木正志、山本雅之、石井哲郎、柳川徹、Hui-Fang Shang、吉井文均、秦野伸二、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会 SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日。
- 447) 佐藤海、平塚結衣、大友麻子、秦野伸二、ALS2 疾患原因変異体は ALS2 複合体構造や細胞内局在を変化させる、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日。
- 448) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、ALS2 及び新規結合低分子量 G タンパク質 Rab17 はリサイクリングエンドソームに局在する、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日。
- 449) 白川涼平、濱祐太郎、大友麻子、秦野伸二、SQSTM1/p62 及びその変異体の神経細胞における局在解析、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日。
- 450) 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、小池正人、内山安男、青木正志、山本雅之、石井哲郎、柳川徹、Hui-Fang Shang、吉井文均、秦野伸二、SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する、2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 12 月 5 日。
- 451) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2 in recycling endosomes、2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 12 月 5 日。
- 452) 佐藤海、平塚結衣、大友麻子、秦野伸二、ALS2 疾患原因変異体は ALS2 複合体構造や細胞内局在を変化させる、2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 12 月 5 日。
- 453) 井上陽子、大友麻子、大貫優子、森屋宏美、高橋千香、秦野伸二、遺伝子の配列情報から見た種間の多様性と共通性の理解に向けた授業実践とその検証、日本生物教育学会第 100 回全国大会、東京理科大学・神楽坂キャンパス (新宿区)、2016 年 1 月 10 日～11 日。
- 454) 横山奨、和田純希、荒木良介、大友麻子、木村啓志、神経細胞軸索輸送の定量化に向けた神経細胞極性制御デバイス細胞アッセイ技術の現状と将来、東京大学生産技術研究所コンベンションホール (目黒区)、2016 年 1 月 19 日。
- 455) 荒木良介、大友麻子、横山奨、和田純希、秦野伸二、木村啓志、マイクロ流体デバイスを用いた神経疾患モデルの確立、東京大学生産技術研究所コンベンションホール (目黒区)、2016 年 1 月 19 日。
- 456) 長沢昂、落合成行、砂見雄太、橋本巨、秋元洋輝、“高面圧下における EHL 接触部の可視化およびトラクション力測定装置の開発”、日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2015 秋 姫路、姫路商工会議所 (兵庫県姫路市)、2015 年 5 月 27-30 日、(発表日:5 月 27 日、ポス

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

ター).

- 457) 壽祐輔, 砂見雄太, 橋本巨, “画像認識によるトラフ抑制機構の構築”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2015 秋 姫路, 姫路商工会議所 (兵庫県姫路市), 2015 年 5 月 27-30 日, (発表日:5 月 28 日, 口頭).
- 458) 砂見雄太, 酒井風馬, 落合成行, 橋本巨, “小型ジャーナル油膜すべり軸受における給油条件と安定性の関係”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2015 秋 姫路, 姫路商工会議所 (兵庫), 2015 年 5 月 27-30 日, (発表日:5 月 29 日, 口頭).
- 459) 生田目翔太, 熊澤佑紀, 壽祐輔, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “画像認識を用いた折れしわ前兆現象の検出および発生の抑制”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 460) 小田桐遼, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “動圧スラストフォイル軸受における弾性特性の実験的検証と解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 461) 井上雅文, 越川徹也, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “ダイカストのゲート形状が及ぼす溶湯挙動への影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 462) 横山輝, 三戸部充希, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの滑空状態を模倣した 2 枚翅での可視化実験”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 463) 前川恭一, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “トロイダル CVT における EHL 接触点の可視化実験環境の構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 464) 木ノ下雅康, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “2 つの給油口を有するジャーナル油膜すべり軸受内の潤滑油分布の色による可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 465) 明戸洋介, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “可視化実験によるドライガスシール逆回転時のシール特性の検証”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 466) 甲斐仁智, 堀田博明, 落合成行, 橋本巨, 岡村陽介, 砂見雄太, “マイクログラフィア方式におけるナノシートの膜厚制御”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 467) 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの翅の変形が空力特性に与える影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 5 回学術講演会, 東海大学 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 468) 鈴木太理, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ドライガスシールにおけるシール溝周辺流れの可視化”, 日本機械学会 2015 年度年次大会 第 21 回卒業研究コンテスト, 北海道大学 (北海道市北区), 2015 年 9 月 13-16 日, (発表日:9 月 14 日, 口頭).
- 469) 今井貴博, 砂見雄太, “ロール内部の軸方向に生じる圧力分布を測定可能とする圧力センサの製作”, 日本機械学会 2015 年度年次大会 第 21 回卒業研究コンテスト, 北海道大学 (北海道市北区), 2015 年 9 月 13-16 日, (発表日:9 月 14 日, 口頭).
- 470) 鈴木太理, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “熱変形を考慮したハーフトロイダル CVT の設計手法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

清水市), 2016年2月19-20日, (発表日:2月20日, ポスター) .

- 471) 秋元洋輝, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “ドライガスシールにおける溝形状の変化が流れに及ぼす影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会, 東海大学(静岡県清水市), 2016年2月19-20日, (発表日:2月20日, ポスター) .
- 472) 長沢昂, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “ハーフトロイダル CVT の伝達率向上を目的としたトラクション接触面の可視化装置の開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会, 東海大学(静岡県清水市), 2016年2月19-20日, (発表日:2月20日, ポスター) .
- 473) 横山輝, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの滑空時における翅周りの流れの可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会, 東海大学(静岡県清水市), 2016年2月19-20日, (発表日:2月20日, ポスター) .
- 474) 山本周作, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボのフェザリング運動が生成される空気力に及ぼす影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会, 東海大学(静岡県清水市), 2016年2月19-20日, (発表日:2月20日, ポスター) .
- 475) 今井貴博, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “巻き取りロール内部の応力解析を可能とするセンサの製作”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会, 東海大学(静岡県清水市), 2016年2月19-20日, (発表日:2月20日, ポスター) .
- 476) 篠崎玄一, 橋本巨, 砂見雄太, “薄膜ウェブにおける巻取りロールの内部応力測定”, 日本機械学会 関東学生会第55回学生員卒業研究発表講演会, 東京工業大学(東京都目黒区), 2016年3月10日, (発表日:3月10日, 口頭) .
- 477) 小田桐遼, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “溝スラストフォイル気体軸受におけるフォイルの構造剛性に関する実験”, 日本機械学会 関東学生会第55回学生員卒業研究発表講演会, 東京工業大学(東京都目黒区), 2016年3月10日, (発表日:3月10日, 口頭) .
- 478) 明戸洋介, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “溝形状が異なるドライガスシールの正・逆回転時における気体流れの可視化実験”, 日本機械学会 関東学生会第55回学生員卒業研究発表講演会, 東京工業大学(東京都目黒区), 2016年3月10日, (発表日:3月10日, 口頭) .
- 479) 越川徹也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 渡邊仁, “ダイカストの型内に生じる流動現象のその場観察”, 日本機械学会 関東支部第22期総会・講演会, 東京工業大学(東京都目黒区), 2016年3月10-11日, (発表日:3月10日, 口頭) .
- 480) 飯山誠也, 今井貴博, 砂見雄太, 橋本巨, “熱粘弾性特性および厚みムラを考慮した巻取りロール内部の応力解析と巻取り条件の最適化”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学(東京都文京区), 2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭) .
- 481) 橋本巨, 砂見雄太, “画像認識技術を用いた折れしわ前兆現象の自動防止システム”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学(東京都文京区), 2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭) .
- 482) 砂見雄太, 甲斐仁智, 堀田博明, 岡村陽介, 橋本巨, “マイクログラビア印刷方式を用いた高分子超薄膜の創製”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学(東京都文京区), 2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭) .
- 483) 原田啓, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “インナーロータ型スピンドルにおける空気軸受の特性解析”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学(東京都文京区), 2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭) .
- 484) 上田真保子, 泉泰輔, 佐藤佳, 中川草, エボラウィルス糖蛋白質 (GP) 遺伝子の分子進化

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

解析、第 38 回 日本分子生物学会年会・第 88 回 日本生化学会大会 合同大会、神戸（神戸ポートアイランド）、12/1-4, 2015

485) 下出紗弓、中川草、宮沢孝幸、ネコ内在性レトロウイルスの獲得と宿主機能へ及ぼした影響、第 38 回 日本分子生物学会年会・第 88 回 日本生化学会大会 合同大会、神戸（神戸ポートアイランド）、12/1-4, 2015

486) 中川草、上田真保子、哺乳類のゲノムに内在化したウイルス由来の配列の発現解析、第 38 回 日本分子生物学会年会・第 88 回 日本生化学会大会 合同大会、神戸（神戸ポートアイランド）、12/1-4, 2015

487) 上田真保子、中川草、内在性ウイルス由来の配列のゲノム進化解析、日本進化学会 第 17 回大会、東京（中央大学）、8/20-24, 2015

488) 中川草、上田真保子、gEVE, an endogenous viral elements (EVEs) database, facilitates the evolutionary studies of functional EVEs in various mammalian species、日本進化学会 第 17 回大会、東京（中央大学）、8/20-24, 2015.

2014 年度（学会発表）*4

489) 岡村 陽介、浅尾 幸平、森田 浩平、長瀬 裕. 裁断化高分子超薄膜の創製と水性表面改質材としてのパッチワークコーティング. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014 年 5 月.

490) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と創傷被覆材としての医療応用. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014 年 5 月.

491) 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イオン液体構造を含有するポリイミドの合成と分離膜への応用. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014 年 5 月.

492) 小田 龍馬, 平 孝介, 白石 明美, 岡村 陽介, 長瀬 裕. PDMS グラフトポリイミド膜のナノシートコーティングによる分離性の改善. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014 年 5 月.

493) 岡村 陽介. 超薄膜・ナノ粒子の調製と評価方法. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014 年 7 月.

494) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の調製と肝臓用創傷被覆材としての機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014 年 7 月.

495) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の新規調製法の確立と機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014 年 7 月.

496) 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ナノシート複合化 PDMS グラフトポリイミド膜の気体分離特性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014 年 7 月.

497) 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基を有するポリイミドの合成とナノシート複合化膜の気体分離特性. 第 9 回相模ケイ素材料フォーラム, (公財)相模中央研究所 (綾瀬), 2014 年 8 月.

498) 森田 浩平, 樋口 晃司, 佐々木 海渡, 新屋敷直木, 岡村 陽介, 岩野 篤, Wariya Sirithep, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とポリカーボネートセグメントからなるポリウレタンエラストマーの合成と性質. 第 9 回相模ケイ素材料フォーラム, (公財)相模中央研究所 (綾瀬), 2014 年 8 月.

499) 小田 龍馬, 高田 恭輔, 岡村 陽介, 稲津 敏行, 長瀬 裕. フルオラスコーティングした

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

PDMS グラフトポリイミド膜の分離特性. フルオラス科学研究会第7回シンポジウム, 北海道大学 (札幌), 2014年9月.

- 500) 岡村 陽介, 増田 愛美, 小田 龍馬, 長瀬 裕. フッ素高分子からなる撥水性超薄膜の調製と物性評価. 第63回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014年9月.
- 501) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状ナノシートの調製法の確立と肝臓用創傷被覆材への応用. 第63回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014年9月.
- 502) 岩野 篤, 森田 浩平, Wariya Sirithep, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 生体適合性と弾性を示すリン脂質極性基を有するポリウレタンの合成とナノシートの作製. 第63回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014年9月.
- 503) 森田 浩平, Wariya Sirithep, 岩野 篤, 樋口 晃司, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリエステル-ウレタンの合成と物性. 第63回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014年9月.
- 504) 浅尾 幸平, 荻野 真理, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリイミドからなる裁断化ナノシートの作製と血液適合性評価. 第63回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014年9月.
- 505) 長瀬 裕, 小田 龍馬, 安藤 加奈, 岡村 陽介. ナノシートコーティングによる高透過性膜における分離特性の改良. 第63回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014年9月.
- 506) 岡村 陽介. ユニークな特性を発現するナノ構造体と医用応用～医工連携体制における共同研究～. 東海大学総合医学研究所第10回研修会, 山水楼 (湯河原), 2014年10月.
- 507) 岡村 陽介, 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕. 層状高分子超薄膜の調製と肝臓用創傷被覆材への応用. 第36回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2014年11月.
- 508) 浅尾 幸平, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 鈴木翔一郎, 武岡 真司, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリマーからなるナノシートの作製と表面改質材としての応用. 第36回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2014年11月.
- 509) 岡村 陽介. ユニークな特性を発現する高分子超薄膜の開発と医用応用. 2014年度 SAS 技術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014年11月.
- 510) 増田 愛美, 長瀬 裕, 岡村 陽介. フッ素含有高分子からなる撥水性超薄膜の創製と機能評価. 第58回湘北地区懇話会, 神奈川大学 (横浜市), 2014年11月.
- 511) 増田 愛美, 長瀬 裕, 岡村 陽介. Preparation and Characterization of Fluorine-containing Polymer Ultra-thin Films with Water Repellency. 第24回日本MRS年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2014年12月.
- 512) 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Separation property of PDMS graft copolyimide membranes with nanosheet coating. 第24回日本MRS年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2014年12月.
- 513) 岡村 陽介. 「創る」: 高分子超薄膜(ナノシート)の設計と創製. 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター 第2回講演会<キックオフセミナー>, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 514) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と医工連携体制による in vivo 止血能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 515) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の新規調製法の確立と2次元相互作用による機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 516) 遠藤 友美, 小町 卓也, 樋口 昌史, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 微粒子内包層状高分子超薄膜の

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

創製と貼る気体吸着分離材への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.

- 517) 増田 愛美, 奥山 一生, 保科 貴宏, 幸谷 愛, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 撥水性高分子超薄膜を用いた生体組織ナノラッピングとイメージングツールへの応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 518) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 癒着防止材を指向した裁断化高分子超薄膜の形態制御. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 519) 中川 篤, 岡村 陽介. SPG 膜乳化法を基盤とする機能性高分子マイクロ・ナノ材料の創製. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 520) 佐々木 海渡, 小町 卓也, 岡村 陽介, 喜多 理王, 新屋敷 直木, 八木原 晋. 広帯域誘電分光法によるポリ乳酸超薄膜のガラス転移温度. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 521) 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イオン液体構造を含有するポリイミドの合成と分離膜への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 522) 手塚 基文, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基と疎水基を有するポリウレタンの合成と性質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 523) 高田 恭輔, 小田 龍馬, 岡村 陽介, 長瀬 裕. フルオラスコーティングによる高透過性膜のPervaporation特性の改質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 524) 浅尾 幸平, 荻野 真理, 鈴木翔一郎, 武岡 真司, 岡村 陽介, 長瀬 裕. PC 基含有ポリイミドナノシートの生体適合性材料としての応用研究. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 525) 森田 浩平, 佐々木 海渡, 新屋敷 直木, 岡村 陽介, 岩野 篤, Wariya Sirithep, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とソフトセグメントを含有するポリウレタンの合成と性質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 526) 楊 路, 園部 敦, 浅尾 幸平, 小町 卓也, 岡村 陽介, 長瀬 裕, 木村 啓志. 高分子超薄膜被覆によりPDMS表面改質の特性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjunc】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 527) 岡村 陽介. 止血能を発現するナノ粒子(人工血小板)の設計と特徴. (一社)日本粉体工業技術協会 2014年度第2回造粒分科会 技術討論会, ライオン(株)伊豆高原研修センター (伊豆高原), 2015年3月.
- 528) 微小領域 pH 測定用マイクロ pH センサの開発, 金子 大樹, 榎谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.753-754, 2015年3月17—19日東洋大学
- 529) 第一原理計算によるチタン酸バリウム B サイト添加元素の影響評価, 八十田 穰, 上辻靖智, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page. 1091-1092 2015年3月17—19日東洋大学
- 530) 多角形状断面を有するマイクロ無痛針の剛性検討・比較, 木本 英明, 榎谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.751-752, 2015年3月17—19日東洋大学
- 531) 生体適合性に関するカーボンナノチューブのカイラリティ別評価, 飯森祥子, 梶原景正, 木

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 村穰, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.779-780, 2015年3月17—19日東洋大学
- 532) 針開発における蛍光試薬投与時の皮下浸透観察, 川田 健人, 榎谷 和義, 木村 穰, 梶原 景正, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.781-782, 2015年3月17—19日東洋大学
- 533) 溝付加による中空管マイクロポンプ用アクチュエータの性能向上, 鈴木宏昌, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.581-582, 2015年3月17—19日東洋大学
- 534) マイクロ無痛針の創製における熱分解中空化手法の開発, 深谷雄大, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.755-756, 2015年3月17—19日東洋大学
- 535) シミュレーションを用いた薄膜結晶成長の制御予測 伊藤慶, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.1093-1094, 2015年3月17—19日東洋大学
- 536) C型形状圧電アクチュエータを用いたユニットモデルの開発, 鳥潟昂志, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.583-584 2015年3月17—19日東洋大学
- 537) 微視的領域におけるアキレス腱強度評価, 染谷 直道, 梶原 景正, 木村 穰, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第54回学生員卒業研究発表会, Page. 1501 2015年3月20日 横浜国立大学
- 538) 第一原理計算による MgSiO₃ 圧電性向上を目的とした添加元素の探索, 露木 裕一朗, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第54回学生員卒業研究発表会, Page. 1210, 2015年3月20日 横浜国立大学
- 539) 高圧電性を示す PZT のための最適バッファ層の創製, 吉田 和樹, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第54回学生員卒業研究発表会, Page. 1313, 2015年3月20日 横浜国立大学
- 540) 圧電素子を用いたペースメーカー用発電装置の設計, 村田 智洋, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第54回学生員卒業研究発表会, Page. 1315 2015年3月20日 横浜国立大学
- 541) α -アミラーゼ活性分析モニタを用いたストレス評価とストレス管理, 佐々木 智崇, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第54回学生員卒業研究発表会, Page.1711, 2015年3月20日 横浜国立大学
- 542) RF スパッタリング法を用いたバイオセンサの表面形状の創製, 丹野 順太, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第54回学生員卒業研究発表会, Page.1602, 2015年3月20日 横浜国立大学
- 543) 熱分解を用いたマイクロ無痛針の中空化手法の開発, 深谷雄大, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.103-104, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 544) 中空管マイクロポンプにおける溝付加型 PZT アクチュエータの最良溝割合の探索, 鈴木宏昌, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.189-190, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 545) 第一原理計算によるチタン酸バリウム添加元素の評価および圧電性予測, 八十田 穰, 上辻靖智, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.393-394, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 546) 多角形状断面を有するマイクロ無痛針の剛性検討, 木本 英明, 榎谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.105-106 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 547) 針開発における蛍光試薬投与時の皮下浸透観察, 川田 健人, 榎谷 和義, 木村 穰, 梶原 景

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

正, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.131-132, 2014年9月16—18日
鳥取大学

- 548) 血液循環補助機構における C 型圧電アクチュエータの多重配置による変形挙動の均一化, 鳥潟昂志, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.187-188, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 549) 格子不整合シミュレーションを用いた薄膜の結晶成長予測, 伊藤慶, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.395-396, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 550) カーボンナノチューブのカイラリティに着目した生体適合性評価方法の提案, 飯森祥子, 梶原影正, 木村穰, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.129-130, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 551) RF マグネトロンスパッタリング法を応用したマイクロ pH センサの開発, 金子 大樹, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.111-112, 2014年9月16—18日 鳥取大学
- 552) 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 大下誠一, マイクロ・ナノバブルが水構造ダイナミクスに及ぼす影響, 日本物理学会第70回年次大会, 早稲田大学(新宿区), 2015年3月21-24日.
- 553) 佐々木海渡, 宮良政彦, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, ポリビニルピロリドン水溶液のガラス転移に関する誘電的研究, 日本物理学会第70回年次大会, 早稲田大学(新宿区), 2015年3月21-24日.
- 554) 大西康貴, 長島朋弘, 喜多理王, 榎谷和義, 岩森暁, 光学材料としてのポリテトラフルオロエチレン (PTFE) 真空蒸着膜の検討, 電気学会 誘電・絶縁材料研究会, 名古屋駅前イノベーションハブ(名古屋市), 2014年12月9日.
- 555) 大西康貴, 長島朋弘, 喜多理王, 榎谷和義, 岩森暁, ポリテトラフルオロエチレン (PTFE) 真空蒸着膜の構造が光学特性に及ぼす影響, 日本真空学会 第55回連合講演会, 大阪府立大学(大阪市), 2014年11月18—20日.
- 556) 植竹祐太, 内田夏実, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, Poly(N-isopropylacrylamide)のガラス転移点の分子量依存性の解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 557) 岸広也, 目黒貴行, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 光散乱法による PNiPAM(ポリ N-イソプロピルアクリルアミド)のコイル・グロビュール転移の解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 558) 山本まゆ, 深井俊樹, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, PNiPAM を用いた3成分系の相図決定による熱力学的考察と GPC 測定用の PNiPAM 検量線の作成, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 559) 松井ゆりか, 佐々木海渡, 宮良政彦, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電緩和現象からみる高分子水溶液の協同運動性, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 560) 平田宇宙, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, レーザー装置を用いたポリマー溶液の不可逆的輸送現象の観測, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 561) 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, Poly (vinyl methyl ether)水溶液のガラス転移と協同的な分子運動, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 562) 森川瞳, 千田翔太, 前田晃作, 木村啓志, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 流体デバイスにおける温度勾配下のメダカ卵の発生過程, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 563) 太田有紀, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電分光測定・熱測定・透過率測定を用いたデキストラン DMSO 溶液の経時変化解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 564) 江口和也, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 稲津敏行, 樺山一哉, シクロデキストリン水溶液の濃度勾配形成現象, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 565) 中山耕史朗, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 熱非平衡系における物質輸送研究のためのマイクロデバイス開発, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 566) 豊田大樹, 小田龍馬, 平孝介, 喜多理王, 八木原晋, 新屋敷直木, 長瀬裕, 光散乱法で見る有機溶媒中での機能性高分子【PHFDMA, PI-Im】の構造と物性, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 567) 村田飛鶴, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 藤田恭子, 大野弘幸, 臨界点近傍におけるイオン液体水溶液の振る舞い, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 568) 安田隆人, 佐々木海渡, 宮良政彦, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 低濃度ゼラチン水溶液における氷の誘電緩和現象, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 569) 藤田剛生, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 藤田恭子, 大野弘幸, コールドクリスタリゼーションをもつイオン液体の水溶液中における分子ダイナミクス解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 570) 前田晃作, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, エチレングリコール水溶液を用いた熱物質拡散の分子論的メカニズム解明, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 571) 萬代健太, 佐々木海渡, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, 誘電分光法による低温における 1-propanol 水溶液の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 572) 釧先修平, 佐々木海渡, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, ゼラチン水溶液のゾル-ゲル転移と不凍溶液相における誘電緩和, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 573) 高島いける, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 広帯域誘電分光法を用いた Poly(ethylene glycol)水溶液の融解過程における動的構造, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 574) 宮良政彦, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電分光法によるスクロース水溶液の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T_μne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 575) 佐々木海渡, 小町卓也, 岡村陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 広帯域誘電分光法によるポリ乳酸超薄膜のガラス転移温度, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 576) 前田晃作, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, レーザー干渉法を用いたエチレングリコール水溶液の熱物質拡散測定, レーザー学会学術講演会第35回年次大会, 東海大学高輪校舎(品川区), 2015年1月11日.
- 577) 前田晃作, 新屋敷直木, 八木原晋, Simone Wiegand, 喜多理王, 多価アルコールを用いた熱物質拡散現象への水素結合の影響, 第52回 高分子と水に関する討論会, 東京工業大学(大岡山), 2014年12月9日.
- 578) 佐藤駿介, 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 増田治史, 浅原孝之, in vivo 測定法を用いた生体組織の水構造解析, 第52回 高分子と水に関する討論会, 東京工業大学(大岡山), 2014年12月9日.
- 579) 宮本陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 分子動力学法による水溶液中の分子ダイナミクスと水素結合ネットワーク, 第52回 高分子と水に関する討論会, 東京工業大学(大岡山), 2014年12月9日.
- 580) 藤田剛生, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 税田祥平, 藤田恭子, 大野弘幸, 誘電分光法を用いたホスホコリン水溶液の分子ダイナミクス評価, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2014年7月24日.
- 581) 萬代健太, 佐々木海渡, 新屋敷直木, 喜多理王, 八木原晋, 誘電分光法による 1-propanol 水溶液の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2014年7月24日.
- 582) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, ピコ秒からメガ秒のソフトマター分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2014年7月24日.
- 583) 喜多理王, ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析, 科研費新学術「ゆらぎと構造の協奏」公募班キックオフ研究会, 京都大学(京都市), 2014年4月26日.
- 584) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, "マイクロ流体制御による一細胞スケールでの液性刺激", 2014年度精密工学会秋季大会学術講演会, pp.135-136, 鳥取大学鳥取校舎(鳥取県鳥取市), 2014年9月16日-18日
- 585) 矢崎亮, 鳶崎翔, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, "マイクログルコースセンサにおける酵素固定法の検討", 2014年度精密工学会秋季大会, pp.141-142, 鳥取大学鳥取校舎(鳥取県鳥取市), 2014年9月16日-18日
- 586) 梅津大貴, 堀尾直史, 木村啓志, "濾過・再吸収機能を再現する腎臓モデルデバイスの構築", 日本機械学会関東学生会第54会学生員卒業研究講習会, P404, 横浜国立大学(神奈川県横浜市), 2015年3月20日
- 587) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, "マイクロバイオリアクターを活用した複合糖質合成", 日本化学会第95春季年会(2015) 日本大学 理工学部船橋キャンパス/薬学部, 2015年3月29日
- 588) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, "一細胞"スケールでの液性刺激を実現するマイクロ流体デバイス", 日本機会学会第6回マイクロ・ナノ工学シン

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

ポジウム, 日本機会学会, pp.210-211, くにびきメッセ(島根県松江市), 2014年10月20日-22日

- 589) 堀尾直史, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “薬剤代謝機能を再現する肝代謝モデルデバイスの構築”, シンポジウム:細胞アッセイ技術の現状と将来, 細胞アッセイ研究会, P25, 東海大学生産技術研究所コンベンションホール, 2015年1月13日
- 590) 永樂俊, 矢崎亮, 鎚谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “異なる電極材料によるマイクログルコースセンサ性能の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第3回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第3回学術講演会, P34, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2014年7月24日
- 591) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスによる一細胞刺激”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第3回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.33, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2014年7月24日
- 592) 新井健太, 蟹江善美, 洞山正幸, 木村啓志, 樺山一哉, 蟹江治, “化学工学的アプローチによる細胞脂質膜の動態解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第3回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.34, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2014年7月24日
- 593) 額賀正行, 小川陽, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球の変形能計測デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, P42, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 594) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する媒精デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P57, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 595) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “癒着防止材を指向した裁断化高分子超薄膜の形態制御”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P62, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 596) 石井翔, 洞山正幸, 樺山一哉, 木村啓志, “三次元重力分散型微小重力装置の重力変化に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, P85, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 597) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを活用した糖鎖転移反応促進”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, P98, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 598) 蓼沼啓介, 田中潤太郎, 中山平, 永田栄一郎, 瀧澤俊也, 木村啓志, “オンチップ invitro 脳虚血モデルの構築に向けて”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第4回学術講演会, P132, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 599) 梅津大貴, 堀尾直史, 木村啓志, “腎臓機能を再現する臓器モデルデバイスの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, P080, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 600) 武永光雄, 笠原大翻, 稲垣豊, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスによる肝細胞培養”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第4回学術講演会, P115, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2015年2月26日

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 601) 楊路, 園部敦, 浅尾幸平, 小町卓也, 岡村陽介, 長瀬裕, 木村啓志, “高分子超薄膜被覆により PDMS 表面改質の特性評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P127, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 602) 中村寛子, 古目谷暢, 藤井輝夫, 小川毅彦, 木村啓志, “精巢組織片培養のためのマイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P104, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 603) 諸星和, 堀尾直史, 矢崎亮, 梅津大貴, 永楽駿, 榎谷和義, 木村啓志, “オンチップグルコースセンサ集積型肝代謝モデルの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P70, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 604) 堀尾直史, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “肝臓代謝機能を模倣する肝臓モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P120, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市)
- 605) 荒木良介, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.54, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 606) 笠原大瑚, 稲垣豊, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス内酸素勾配形成による肝小葉構造の構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.135, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 607) 千田翔太, 原太一, 塚本智史, 藤森俊彦, 木村啓志, “胚アッセイに向けた薬剤スクリーニングデバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, pp.88, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 608) 古市啓朗, 荒田幸信, 稲葉岳彦, 佐甲靖志, 木村啓志, “細胞極性システムのサイズ不変性仮説の検証に向けたツールの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.50, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 609) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 榎山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “高分解能液性刺激に向けたマイクロ流体デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.110, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 610) 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第4回学術講演会, p.125, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 611) 額賀正行, 小川陽, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球変形能計測デバイスの開発”, 日本機械学会関東学生会第54回学生員卒業研究発表講演会, 414, 横浜国立大学(横浜市), 2015年3月20日
- 612) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する媒精用マイクロデバイス”, 関東学生会第54回学生員卒業研究発表講演会, No.1105, 横浜国立大学(神奈川県横浜市), 2015年3月20日
- 613) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを活用した糖鎖転移反応促進”, 日本機械学会関東学生会第54回学生員卒業研究発表講演会, 1102, 横浜国立大学(横浜市), 2015年3月20日

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 614) 永樂駿, 矢崎亮, 槌谷和樹, 藤井輝夫, 木村啓志, ”異なる電極材料によるマイクログレースセンサ性能の検討”, 日本機械学会関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 413, 横浜国立大学(横浜市), 2015 年 3 月 20 日
- 615) 鈴木太理, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “溝付きドライガスシールにおける気体流れの可視化実験”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 616) 吉越彩香, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “2つの給油口を有する小型真円ジャーナル油膜すべり軸受の振動特性”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 617) 今村祥, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “空気潤滑を可能とする HDD 用スピンドルの開発”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 618) 横井誉壮, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの羽ばたき時のピッチングモーメント測定装置の作製”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 619) 藤本英治郎, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間の摩擦特性に与えるローラ表面粗さの影響”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 620) 今井貴博, 砂見雄太, 橋本巨, “巻き取りロール内部の応力分布を測定可能とする圧力センサの製作”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 621) 藤本英治郎, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間の摩擦特性に及ぼすローラ表面粗さの影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tμne】第 4 回学術講演会, 2015 年 2 月
- 622) 飯山誠也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “巻取りロールにおける軸方向の応力分布測定を可能とするセンサ製作方法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tμne】第 4 回学術講演会, 2015 年 2 月
- 623) 水戸部充希, 伊勢田祐也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “インクジェット方式印刷による薄膜圧力センサーの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tμne】第 4 回学術講演会, 2015 年 2 月
- 624) 小玉翔伍, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ドライガスシールのシール時における気体流れの可視化実験”, ‘14 SAS インテリジェントシンポジウム, 2014 年 11 月
- 625) 藤原靖, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間のトライボロジー特性に関する基礎研究”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2014 秋 盛岡, 2014 年 11 月
- 626) 原田啓, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “小型流体軸受スピンドルの性能評価”, 日平成 26 年度 神奈川ものづくり技術交流会, 2014 年 10 月
- 627) 水戸部充希, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “翅表面の圧力測定装置の作製”, 日平成 26 年度 神奈川ものづくり技術交流会, 2014 年 10 月
- 628) 藤原靖, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間のトライボロジー特性に及ぼす雰囲気の影響”, 日本トライボロジー学会 第五回 トライボロジー 秋の学校 in 愛知, 2014 年 9 月
- 629) 杉石光, 飯山誠也, 砂見雄太, 橋本巨, “巻取りロールの内部応力に及ぼす厚みムラの影響”, 日本機械学会 2014 年度年次大会, 2014 年 9 月
- 630) 藤原靖, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間の摩擦特性に及ぼす雰囲気の影響”, 日本機械学会 2014 年度年次大会, 2014 年 9 月

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 631) 酒井風馬, 砂見雄太, 橋本巨, “トンボの羽ばたき運動の変化と空気力の関係”, 日本機械学会 2014 年度年次大会 第 20 回卒業研究コンテスト, 2014 年 9 月
- 632) 飯山誠也, 砂見雄太, 橋本巨, “多点センサを用いた巻取りロールの軸方向に対する応力分布測定”, 日本機械学会 2014 年度年次大会 第 20 回卒業研究コンテスト, 2014 年 9 月
- 633) 横山大一郎, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ダイカスト鑄造法における適切な射出行程の確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会, 2014 年 7 月
- 634) 井上達貴, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “断面形状の異なる人工翅を用いた定常揚力実験”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会, 2014 年 7 月
- 635) 鈴木太理, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “最適化手法を用いたドライガスシールにおける有効性の実験的検証”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会, 2014 年 7 月
- 636) 落合成行, 佐々木勇人, 砂見雄太, 橋本巨, “溝形状最適化による非接触ドライガスシールの密封性能の向上 - 広範囲の運転条件下における最適溝形状の検討 -”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2014 春, 2014 年 5 月
- 637) 中尚義, 川村祐太郎, 砂見雄太, 橋本巨, “トンボの翅表面の微細突起構造が滑空飛行に及ぼす影響”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2014 春, 2014 年 5 月
- 638) 秦野 伸二、潘 雷、大友 麻子、阿部 幸一郎、小池 正人、内山 安男、青木 正志、吉井 文均、石井 哲郎、柳川 徹、p62/SQSTM1 の機能喪失は ALS マウスモデルの疾患症状を悪化させる、日本実験動物科学技術さつぼろ 2014: 第 61 回日本実験動物学会総会/第 48 回日本実験動物技術者協会総会、講演要旨集、口頭発表、p190(0088-S)、札幌(May 15-17).
- 639) 佐藤海、大友麻子、秦野伸二、ALS2 変異体発現コンストラクトの構築と ALS2 変異体の機能解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P038)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 640) 久保瑞希、潘雷、大友麻子、秦野伸二、ALS マウスモデルにおける疾患の発症と進行に伴うオートファジー活性の変化について、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P039)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 641) 三井駿、潘雷、大友麻子、秦野伸二、ALS 発症に及ぼす p62/SQSTM1 の影響、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P040)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 642) 小野寺和歌奈、大友麻子、福田光則、秦野伸二、ALS2 結合候補分子、低分子量 G タンパク質 Rab30 の細胞内動態解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P041)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 643) 小野 鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、HeLa 細胞における ALS2 と低分子量 G タンパク質 Rab17 の局在解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第 3 回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P042)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 644) 秦野 伸二、潘 雷、大友 麻子、阿部 幸一郎、小池 正人、内山 安男、青木 正志、石井 哲郎、柳川 徹、Hui-Fang Shang、吉井 文均、オートファジー基質である p62/SQSTM1 の機能喪失は ALS マウスモデルの疾患症状を悪化させる、O-I-1-1、口頭発表 (英語)、第 37 回日本神経科学大会(Neuroscience2014)、横浜(Sept-13)
- 645) 秦野 伸二、王 亭、田中 政之、林 英樹、荻原 早苗、岡田 千沙、伊藤 誠敏、福西 菜穂子、飯田 裕美、中村 彩花、大友 麻子、大塚 正人、オートファジー動態の可視化を目的と

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

した新規トランスジェニックマウスの作出、第 37 回日本分子生物学会年回、ポスター発表、266(2P-0944)、横浜(Nov 25-27).

- 646) 藤谷 和子、大友 麻子、永山 勇人、立花 太郎、加藤 朋子、高田 修治、加藤 利佳、小寺 義男、高松 信彦、伊藤 道彦、Isolation and characterization of DMRT1-associated factors in *Xenopus male gonads*、第 37 回日本分子生物学会年回、口頭発表：106(3W-12-9)、ポスター発表：318(3P-0618)
- 647) 小野寺 和歌奈、大友 麻子、福田 光則、秦野 伸二、筋萎縮性側索硬化症原因遺伝子産物 ALS2 に結合する新規調節因子 Rab30 の機能解析、第 37 回日本分子生物学会年回、ポスター発表、301(3P-0384)、横浜(Nov 25-27).
- 648) 小野 鈴花、大友 麻子、福田 光則、秦野 伸二、ALS2 及び新規 ALS2 結合低分子量 G タンパク質 Rab17 の細胞内局在解析、第 37 回日本分子生物学会年回、ポスター発表、301(3P-0385)、横浜(Nov 25-27).
- 649) 井上陽子、大友麻子、佐藤忠之、林英樹、田中政之、谷回泰史、木村穰、秦野伸二(2015)「生物」高校生の理解を助ける遺伝子実験教材の開発 ～ DNA 配列の共通性と多様性に焦点をあてて～、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、31(P002)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 650) 佐藤海、大友麻子、秦野伸二(2015)ALS2 変異体コンストラクトの構築と ALS2 変異体の機能解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、43(P013)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 651) 久保瑞希、大友麻子、秦野伸二(2015) p62/sqstm1 欠損 ALS マウスモデルの疾患発症と進行に伴う遺伝子発現変化について、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、46(P016)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 652) 荒木良介、大友麻子、秦野伸二、木村啓志(2015) マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、54(P024)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 653) 三井駿、大友麻子、秦野伸二(2015)p62/SQSTM1 の欠損が ALS モデルマウスの発症を速める要因の探索、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、65(P034)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 654) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二(2015)ALS2 及び ALS2 結合低分子量 G タンパク質 Rab17 の細胞内局在、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、74(P043)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 655) 小野寺和歌奈、大友麻子、福田光則、秦野伸二(2015)ALS2 結合候補分子、低分子量 G タンパク質 Rab30 の細胞内動態解析.東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、75(P044)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 656) 白川涼平、大友麻子、秦野伸二(2015)蛍光タンパク質を融合させた SQSTM1/p62 発現プラスミドの構築とその機能解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、112(P081)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 657) 濱祐太郎、大友麻子、秦野伸二(2015)ALS 患者由来 p62/SQSTM1 変異体のオートファジー関連機能の解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会、プログラム&予稿集、130(P099)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 658) 新井健太、蟹江善美、洞山正幸、木村啓志、樺山一哉、蟹江治、化学工学的アプローチによる細胞脂質膜の動態解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講習会・湘南 7月24日(2014) *ポスター賞受賞
- 659) 樺山一哉、三宅亜依、Tack Joong Kim、Han Sung Kim, 宇宙環境利用を志向した脂質解析法の確立 第6回「光塾」・明石 9月6日(2014)
- 660) 洞山 正幸、大久保 智樹、新井 健太、樺山 一哉、藤井 輝夫、木村 啓志, 一細胞スケールの部位局所的な液性刺激を実現するマイクロ流体デバイス, 第6回マイクロ・ナノ工学シンポジウム・松江 10月20日(2014)
- 661) 中川草, 哺乳類のゲノムに内在化するウイルス由来の配列の比較解析, 第37回日本分子生物学会, 横浜, 2014年11月
- 662) 下出紗弓, 中川草, 宮沢孝幸, ネコの進化過程における内在性レトロウイルスの獲得, 第37回日本分子生物学会, 横浜, 2014年11月
- 663) 中川草, 次世代シーケンサを用いたウシ胎盤形成に関与する内在性ウイルス由来の遺伝子の分子進化解析, 第3回生命医薬情報学連合大会, 仙台, 2014年10月
- 664) 中川草, 哺乳類のゲノムに内在化したウイルス由来の配列データベース, 日本進化学会第16回大阪大会, 高槻, 2014年8月
- 665) 中川草, 内在性ウイルスのデータベース作成に向けて, 第17回 日本レトロウイルス研究会夏期セミナー, 熱海, 2014年7月

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。
<既に実施しているもの>

■ ホームページ公開 *1*4*6

東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター (ニュース、メンバー、研究業績など)
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/>

■ ホームページ公開 *3

東海大学イメージング研究センター (ニコンと設立したイメージングセンター、利用予約など)
<https://www.ticar.u-tokai.ac.jp/>

■ 中間 (3年目) 成果報告会 *4

文部科学省 平成26年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」中間報告会
2017年2月25日土曜日 9:50~12:30
東海大学湘南校舎6号館6B-101, 17号館ネクサスホール
教員メンバー8名による成果報告を実施

■ 東海大学・株式会社ニコンインステック産学連携包括協定締結式&内覧会 *3

2016年8月9日火曜日 10:30~11:30
東海大学湘南校舎17号館ネクサスホール, 12号館イメージング研究センター

IMAGING CENTER FOR ADVANCED RESEARCH
東海大学イメージング研究センター

株式会社ニコンインステックとの産学連携包括協定により
「東海大学イメージング研究センター」が始動します。

■多くの研究者が集う研究サロンとして運営

東海大学の研究者と学生および他大学・研究所の研究者、さらに企業の方々も利用可能です。各種顕微鏡やX線CT装置などを用いて、ご自身のサンプルで細胞イメージングや材料計測などのご希望があれば、お問い合わせください。ニコン技術者との情報交換も可能です。

「高分子超薄膜の医用応用に関する共同研究」
*東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター
*株式会社ニコンインステック

■お問い合わせ先
東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター
神奈川県平塚市北金目4-1-1
電話 0463-58-1211 (代表)
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/>

■湘南校舎12号館1階
マイクロ・ナノ研究開発センターの向かい側です。

■設置する主な機器
ニコン社製のバイオイメージング機器と産業機器を備えた
共同利用研究センターです。

共焦点レーザースキャン顕微鏡 A1R
白色干渉顕微鏡 BW
日本電子 卓上電子顕微鏡
正立顕微鏡 Ni
細胞チェック用倒立顕微鏡 TS2
実体顕微鏡 SMZ25
実体顕微鏡 SMZ17
X線/CTシステム(3D計測)X-RAY MCT25
*その他、顕微鏡カメラを2台付属

■ キックオフセミナー

2015年2月26日(木) 湘南校舎6号館6B-101
「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」
教員メンバー8名による研究プロジェクトの紹介

■ マイクロ・ナノ研究開発センター開所式 / 施設見学会 / 交流会

2015年1月16日(金)
マイクロ・ナノ研究開発センター
学長 山田清志 挨拶
センター長 稲津敏行 挨拶
研究代表 喜多理王 事業の概要説明

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

■研究会・シンポジウム*1

文理融合の柔軟なテーマから、教育・研究・卒業後進路の啓発、ニコソとの共催講演会、専門的な学術講演会など、学術的・教育的な交流を深めるために多岐にわたる大小さまざまな講演会シリーズを主催してきた。以下にそのタイトルと発表者を記す。

上記の講演会シリーズとは別に「コアタイムコーヒー」(毎週 月、水、金 15:00 から)を開催中であり、これにより教職員、学生、企業人が自由な雰囲気での交流できる場を提供している。なお、これら講演会シリーズ等については随時ホームページで情報公開している。以下に年度別に記す。

2016 年度 (研究会・シンポジウム)

- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 33 回講演会 <PD 講演会>
マイクロ・ナノ研究開発センターPD/RA による研究成果報告
2017 年 3 月 22 日水曜日 10:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 32 回講演会 <特別セミナー>
藤本 恭一 氏 (名古屋工業大学先進セラミックス研究センター特任研究員)
「ナノ中空粒子の世界とその合成方法の紹介」
2017 年 3 月 13 日月曜日 15:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 31 回講演会 <特別セミナー>
Ir. Dr. M. Danial Ibrahim (Universiti Malaysia Sarawak)
“Innovating Research in Academia with Industrial Research”
2017 年 7 月 8 日水曜日 18:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 30 回講演会 <特別セミナー>
Dr. Alex Rozhin (Aston Universityies)
“Functionalized carbon-based nanomaterials as nano-ink for printable photonic applications”
2016 年 11 月 17 日金曜日 16:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 29 回講演会 <特別セミナー>
Dr. R. Jhon Bosco Balaguru (SASTRA University/インド)
“Nano-Bio-Sensors for Food & Water Quality Applications”
2016 年 11 月 14 日月曜日 16:30～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター講演会 <特別セミナー>
Dr. Simone Wiegand (ユーリッヒ研究所/ドイツ)
“Use of thermal gradients in soft matter systems”
2016 年 9 月 29 日木曜日 17:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 28 回講演会
計測エンジニアリングシステム株式会社による
「汎用物理シミュレーションソフト COMSOL 紹介セミナー」
2016 年 8 月 10 日金曜日 15:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 27 回講演会
野澤 和世 氏 (ランスタッド株式会社)
キャリアトーク “大学院に進んで研究を頑張る学生さんのために～Ⅱ”
2016 年 8 月 5 日金曜日 15:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 26 回講演会< Social Chat Salon >
加瀬 大 氏 (東海大学新聞編集部)
“大学の勉強って何の役に立つ?”
2016 年 7 月 15 日金曜日 17:30～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 25 回講演会
野澤 和世 氏 (ランスタッド株式会社)
キャリアトーク “大学院に進んで研究を頑張る学生さんのために”
2015 年 6 月 3 日金曜日 15:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第 24 回講演会<特別セミナー>
Dr. C. P. Vardhani (Osmania University, Hyderabad)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

“Development of Photonic Integrated Optical Devices and Components”

2016年5月19日木曜日 16:00～

- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第23回講演会
エッペンドルフ株式会社によるマイクロピペットセミナー

2016年5月16日月曜日 17:00～

- ・東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第8回学術講演会
日時 2017年2月25日(土)
場所 東海大学湘南校舎6号館6B-101, 17号館ネクサスホール
- ・東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第7回学術講演会
日時 2016年8月9日(火)
場所 東海大学湘南校舎17号館ネクサスホール

2015年度(研究会・シンポジウム)

- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第22回講演会
PD・RA7名による研究成果報告
「東海大学MNTC特定研究員」
2016年3月9日水曜日 13:00～17:00
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第21回講演会
山下健太さん(東海大学工学部動力機械工学科2年次)
「世界の頂点を目指す戦い」
2015年12月11日金曜日 16:00～17:30
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第20回講演会
坂本 純二 博士(公益財団法人九州先端科学技術研究所ナノテク研究室)
「紐からシートへ: 二次元高分子の合成と構造制御」
2015年12月11日金曜日 16:00～17:30
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第19回講演会
保坂華子准教授(東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科)
「自由に考えるクリティカル・シンキングのすすめ」
2015年11月24日火曜日 13:25～14:55
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第18回講演会
Dr. Ganesh Kumar Mani (MNTC 特定研究員)
PD 着任セミナー
2015年11月4日水曜日 15:00～17:00
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第17回講演会
遠藤誠二教授(東海大学政治経済学部経済学科)
「English 101: Secret Weapons」 Social Chat Salon Vol.5
2015年10月7日水曜日 17:30～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第16回講演会
岡嶋孝治教授(北海道大学大学院情報科学研究科)
「細胞の物理学: プローブ顕微鏡による細胞の物性計測」特別セミナー Vol.3
2015年9月2日金曜日 15:00～
- ・ニコンバイオイメージングセミナー(マイクロ・ナノ研究開発センター 第14回講演会)
～細胞イメージング技術が切り拓く医工連携研究の最前線
飯塚 怜 助教(東京大学大学院薬学系研究科)
「エバネッセント光を利用した1分子蛍光イメージング」
島山 裕康 助教(東北大学大学院医工学研究科)
「一分子計測で迫る糖輸送体分子の細胞内輸送システム」
2015年8月3日月曜日 13:00～
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第15回講演会
Dr. Simone Wiegand (ユーリッヒ研究所/ドイツ)
「Thermophoresis: how it can be used in Soft Matter systems」特別セミナーVol.2

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<p>2015年8月28日金曜日 15:00～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第13回講演会 野澤 和世 氏 (ランスタッド株式会社) Career Talk Vol.1 「大学院で研究する皆さんへ」 2015年7月22日水曜日 15:00～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第12回講演会 佐々木 海渡 氏 (MNTC 特定研究員) Social Chat Salon Vol.4 「MNTCにおける高分子超薄膜の電気計測のこれから」 2015年7月16日木曜日 17:30～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第11回講演会 太田博之氏 (イルミナ株式会社) 「次世代シーケンサ MiSeq 活用セミナー」 2015年7月8日水曜日 18:00～19:00 ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第10回講演会 橋本 巨 教授 (工学部機械工学科教授) イブニングセミナーVol.3 「院生からプロ教員への道のり～若手研究者へのメッセージ～」 2015年7月3日金曜日 17:30～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第9回講演会 木元 道博 氏 (研究推進部産官学連携センターPM) ランチョンセミナー Vol.1 「企業のR&D戦略、知財戦略について」 2015年6月22日月曜日 12:35～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第8回講演会 武岡 真司 教授 (早稲田大学先進理工学部 生命医科学科) 特別セミナー Vol.1 「高分子ナノシートのユニークな物性と それを利用した応用展開」 2015年6月12日金曜日 16:30～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第7回講演会 鈴木 裕一 氏 (教育支援センター技術支援課) Social Chat Salon Vol.3 「室内環境と作業効率」 2015年5月29日金曜日 17:30～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第6回講演会 萱場隆人氏 (健康推進センター保健師) Social Chat Salon Vol.2 「お酒の適量を知っていますか？」 2015年5月15日金曜日 17:30～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第5回講演会 加藤 英晃 先生 (工学部動力機械工学科) Social Chat Salon Vol.1 「マジックと心理工学」 2015年4月20日月曜日 17:00～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第4回講演会 橋本 巨 先生 (工学部機械工学科教授) イブニングセミナーVol.2 「院生からプロ教員への道のり～若手研究者へのメッセージ～」 2015年4月28日火曜日 17:00～ ・マイクロ・ナノ研究開発センター 第3回講演会 PD3名による講演・勉強会 張 宏 博士 横山 奨 博士 Isala Dueramae Ph.D 2015年4月17日金曜日 15:00～ ・東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会 日 時 2016年2月19日(金)～20日(土) 場 所 東海大学海洋学部海洋科学博物館講堂 (東海大学清水キャンパス) ・東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会 日 時 2015年8月25日火曜日 13:00～
--

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

場 所 伊勢原校舎松前記念講堂・望星台レストラン(医学部伊勢原キャンパス)

2014年度(研究会・シンポジウム)

- ・キックオフセミナー 2015年2月26日(木) 湘南校舎 6号館 6B-101
「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」
教員メンバー8名による講演など
- ・イブニングセミナー Vol.1 2015年2月12日(木)
於 マイクロ・ナノ研究開発センター
橋本 巨 先生(東海大学工学部教授)
「ウェブハンドリング技術を中心とした産学連携について ～若手研究者へ向けて～」
- ・マイクロ・ナノ研究開発センター開所式 / 施設見学会 / 交流会 2015年1月16日(金)
於 マイクロ・ナノ研究開発センター
- ・東海大学FD研究会 (総合理工学研究科、工学研究科)
2014年12月26日 湘南校舎12号館5階 12-1会議室
喜多 理王、岡村 陽介
「私大戦略事業の概要と採択されたプロジェクトの内容について」
- ・マイクロ・ナノセンター 第1回講演会
2014年9月24日(水) 湘南校舎18号館1階サイエンスフォーラム
特定研究員 中川 篤 博士、
高橋(上田)真保子 博士、
楊 路 博士
- ・東海大学マイクロ・ナノ啓発会【tune】 第4回学術講演会
日 時 2015年2月26日
場 所 湘南校舎6号館6B-101・コムスクエア2階
- ・東海大学マイクロ・ナノ啓発会【tune】 第3回学術講演会
日 時 2014年7月24日
場 所 湘南校舎14号館1階14-103・地下カフェラウンジ

<これから実施する予定のもの>

■国際シンポジウム(主催)

MNTC International Symposium 2017

August 26-27, 2017, Kanagawa, Japan.

(MNTC: Micro/Nano Technology Research Center, マイクロ・ナノ研究開発センター)

■学術講演会(主催)

東海大学マイクロ・ナノ啓発会【tune】 第9回学術講演会

東海大学 熊本・阿蘇キャンパス 2018年2月 詳細予定

■プロジェクト最終成果報告会および評価者による審査会

2019年度末 詳細予定

■講演会シリーズ(主催)

学内外の研究者、職員、学生らによる文理融合の柔軟なテーマから専門的な学術講演会まで、多岐にわたる講演会をこれまで通り随時開催

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

1.4 その他の研究成果等

「1.2 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記1.1(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

■知的財産権 *4

- 1) 岡村陽介, 青木拓斗, 張宏,
「浮遊系細胞保定用多孔質超薄膜とその製造方法」,
特願 2016-225434, 2016年11月18日出願. *4*5
- 2) 藤井輝夫, 土肥浩太郎, 木村啓志,
「細胞培養装置」,
特願 2016-176338, 2016年9月9日出願.
- 3) 喜多理王, 木村啓志, 諸星和,
「水素同位体を含む水の分離方法」,
特願 2016-109028, 2016年5月31日出願.
- 4) 岡村陽介, 長瀬裕, 曾我部大輝, 中川篤,
「異形高分子粒子の製造方法」,
特願 2015-086663, 2015年4月21日出願, 特開 2016-204491, 2016年12月8日公開.
- 5) 藤井輝夫, 木村啓志, 小川毅彦, 古目谷暢,
「組織片の機能を発現・維持する方法および組織片培養デバイス」,
特願 2014-119858, 2014年6月10日出願, 特開 2015-231354, 2015年12月24日公開.
- 6) 岡村陽介, 長瀬 裕, 小町 卓也, 保地 基典, 後藤 ユキ, 荒金 徹.
「高分子積層体」,
特願 2015-526780, 2015年4月20日出願, 再表 2015/163289, 2017年4月13日再公表.
[米国] 15/305460, 2015年4月20日出願, US2017/0043062, 2017年2月16日公表.
[欧州] 15783466.4, 2015年4月20日出願, 3135315, 2017年3月1日公表.

■企業との連携実績 *2

2016年度(企業連携)

- 1) 株式会社 JVC ケンウッド・クリエイティブメディア
責任者: 岡村陽介
- 2) 株式会社日立ハイテクサイエンス
責任者: 喜多理王
- 3) 株式会社ニコンインステック
責任者: 樋谷和義
- 4) 太陽化学株式会社
責任者: 砂見雄太
- 5) 中川産業株式会社
責任者: 砂見雄太
- 6) 企業共同研究(株式会社エバートロン, (独) 産業技術総合研究所)
喜多理王
- 7) 企業共同研究(A社)
樋谷和義
- 8) 企業共同研究(L社)
樋谷和義
- 9) 企業共同研究(H社)
樋谷和義
- 10) 企業共同研究(R社)
岡村陽介
- 11) 企業共同研究(武田薬品工業株式会社)
木村啓志
- 12) 企業共同研究(三菱ケミカル株式会社)
砂見雄太

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 13) 企業共同研究 (芝浦メカトロニクス株式会社) 砂見雄太
 14) 企業共同研究 (旭東ダイカスト株式会社) 砂見雄太
 15) 企業共同研究 (M 社) 砂見雄太

2015 年度 (企業連携)

- 16) 企業共同研究 (株式会社エバートロン, (独) 産業技術総合研究所)
喜多理王
 17) 企業共同研究 (花王株式会社) 喜多理王
 18) 企業共同研究 (株式会社アクアテック) 木村啓志
 19) 企業共同研究 (三菱樹脂株式会社) 砂見雄太
 20) 企業共同研究 (旭東ダイカスト株式会社) 砂見雄太

2014 年度 (企業連携)

- 21) 企業共同研究 (日産化学株式会社) 喜多理王
 22) 企業共同研究 (花王株式会社) 喜多理王
 23) 企業共同研究 (株式会社エバートロン, (独) 産業技術総合研究所)
喜多理王
 24) 企業共同研究 (DNA チップ研究所, 高電工業株式会社)
槌谷和義
 25) 企業共同研究 A 社 槌谷和義
 26) 企業共同研究 B 社 槌谷和義
 27) 企業共同研究 C 社 岡村陽介
 28) 企業共同研究 (株式会社アクアテック) 木村啓志
 29) 企業共同研究 (マイクロ流体システム工房) 木村啓志

■ 報道発表 (新聞、テレビ、ラジオ等) *6

2016 年度 (報道発表)

- 1) 日刊工業新聞 2017 年 2 月 7 日 23 面
“エボラ感染拡大の仕組み解明 東海大”
 2) 日経産業新聞 2017 年 1 月 19 日 8 面
“異変で感染しやすく、エボラウイルス、東海大など確認”
 3) 東海大学 公式ウェブサイト 2017 年 1 月 18 日
“工学部応用化学科の岡村陽介准教授が日本バイオマテリアル学会の科学奨励賞を受賞しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_184.html
 4) 東海大学 公式ウェブサイト 2017 年 1 月 13 日
“医学部・中川助教らの研究グループがエボラウイルスの感染効率上昇に寄与する塩基突然変異を同定しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/news/detail/post_34.html
 5) 東海大学 報道発表 2017 年 1 月 13 日
“ザイールエボラウイルス糖タンパク質の 82 番目と 544 番目のアミノ酸変異が感染効率の上昇に関与していることを確認”
 6) TBS テレビ: 未来の起源 2016 年 12 月 25 日 夜 10:54~ 放送

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 「ヒトの体内を手のひらの中に」 木村啓志 (マイクロ・ナノ研究開発センター)
- 7) 毎日新聞 WEB マガジン東海イズム 2016年10月17日
 “クローズアップ研究室 “先端研究と地域の発展を支える””
<http://mainichi.jp/sp/tokaism/laboratory/57.html>
 - 8) CONVERTECH INTERNATIONAL SEP/OCT 2016 VOL.1 NO.1
 “Biocompatible Ultra-Thin Polymer Films: A Mass Production Technology to Revolutionize the Medical Field”
 - 9) 日経テクノロジーオンライン 2016年9月26日
 “医療応用を目指す、R2R印刷で作るナノシート ICFPE2016 報告”
<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/092404222/?rt=nocnt>
 - 10) コンバーティング総合情報誌 コンバーテック 2016年9月15日
 “分解能 1pm の白色干渉顕微鏡等のイメージング機器を設置-基礎研究から製品開発までカバーする開かれた拠点に-”
 - 11) 東海大学 公式ウェブサイト 2016年9月15日
 “産学パートナーシップ創造展に出展しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post_547.html
 - 12) 東海大学 国際プレス発表 prweb SEPTEMBER 8, 2016
 “Tokai University, Japan launches interdisciplinary Micro/Nano Technology Center (MNTC) for research based on polymer nanosheets”
<http://www.prweb.com/releases/2016/09/prweb13665079.htm>
 - 13) 東海大学新聞 2016年9月1日 10面
 研究室おじゃまします “幅広い領域の光学機器を導入 先端研究と地域の発展を支える”
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1242>
 - 14) 東海大学新聞 2016年9月1日 1面
 “「見ること」に特化した新拠点 イメージング研究センター開設”
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1231>
 - 15) 科学新聞 2016年8月26日 1面
 “東海大にイメージング研究センター”
 - 16) ラボキャブ-先端研究者のためのソリューション-vol.16 2016年8月25日
 “マイクロ・ナノ研究開発センターの研究紹介”
 - 17) 東海大学公式ウェブサイト 2016年8月12日
 “ニコンインステックとの産学連携包括協定締結式と東海大学イメージング研究センターの内覧会を行いました”
http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_20.html
 - 18) 日刊工業新聞 2016年8月10日
 “東海大、ニコンと協定”
 - 19) オプトロニクスオンライン 2016年8月9日
 “東海大、ニコンの協力でイメージング研究センターを開設”
<http://www.optronics-media.com/news/20160809/43617/>
 - 20) 東海大学 国際プレス発表 prweb August 5, 2016
 “Tokai University research: Ice dielectric response studies find preparation is key”
<http://uk.prweb.com/releases/2016/08/prweb13596675.htm>

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 21) コンバーティング総合情報誌コンバーテック 2016年6月15日
 “厚 60nm、幅 100mm の PLLA 超薄膜を RTR プロセスで-多層化で接着性と強度を両立、止血用途での活用も-”
- 22) 毎日新聞 WEB マガジン東海イズム 2016年6月1日
 “目指すは「針と糸いらずのばんそうこう」小さな世界の大きな挑戦”
http://mainichi.jp/sp/tokaism/opinion/con59_1.html
- 23) 東海大学 学園メールマガジン<スクエア>第718号 2016年6月1日
 “ハゼ科魚類キヌバリとチャガラ核 DNA とミトコンドリア DNA を用いた種分化の解析”
<http://www.pr.tokai.ac.jp/square/700/718/71801.html>
- 24) 宮内庁報道発表 2016年5月
 “ハゼ科魚類キヌバリとチャガラ核 DNA とミトコンドリア DNA を用いた種分化の解析”
<http://www.kunaicho.go.jp/page/ronbun/show/1>
 このたび天皇陛下は、日本周辺に生息する2種のハゼ科魚類、キヌバリとその近縁のチャガラ核 DNA とミトコンドリア DNA を用いた種分化の解析に関する論文を、秋篠宮殿下、国立遺伝学研究所の五條堀孝特任教授、復旦大学の長谷川政美教授、京都大学の中坊徹次名誉教授を始めとする共同研究者によりオランダ発行の国際遺伝学雑誌「Gene (ジーン)」に発表された。本プロジェクトメンバー中川草が共著者として参加。
- 25) 中日新聞 2016年4月1日 29面
 別種からウイルス感染 犬山・ニホンザル大量死
- 2015年度(報道発表)**
- 26) 東海大学 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2016, pp. 24-25
 「研究最前線、マイクロ・ナノの世界から広がる世界」
- 27) 東海大学産学連携フォーラム 2015 GUIDE BOOK (Dec. 16, 2015), pp. 5-6.
 「研究の峰」事例 幅広い分野の若手研究者が集い次世代医用技術の創出を目指す
- 28) TOKAI Vol. 80, pp. 6~7, 2015年10月1日
 「特集～明日を担う研究者の育成、研究の峰事例」
- 29) 東海大学 湘南校舎ニュース 2015年8月17日
 「マイクロ・ナノ研究開発センターが医療機器産業参入セミナーに出展しました」
- 30) NHK「サイエンス ZERO」、2015年8月2日 放送
 ニャンとも不思議！ 遺伝子が明かすネコの秘密、
 Shimode, S., Nakagawa, S., Miyazawa, T. (2015) Multiple invasions of infectious retrovirus in cat genomes. *Scientific Reports* 5, 8164 に関する特集
- 31) 東海大学新聞 2015年7月1日
 「大学の“研究の峰”形成へ、異分野間の共同研究を促進」
- 32) 東海大学 新聞 2015年4月1日
 「高分子超薄膜研究の最先端を披露／マイクロ・ナノの可能性を探る／キックオフセミナーを開催」

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2014年度(報道発表)

- 33) 科学技術振興機構 JST サイエンスポータル Science Portal 2015年2月4日
(<http://scienceportal.jst.go.jp/>)
ニュース速報「世界史とネコの移動を遺伝的に実証」、中川草
- 34) 京都新聞 2015年2月3日 1面および25項
ネコ移動史 解明へ/ウイルス感染痕跡に着目 品種の分岐 裏付け/京大グループが手法、中川草
- 35) Yahoo Japan トップページ 2015年2月3日
「うちのネコはどこ起源?判別法」、中川草
- 36) The Yomiuri Shimbun February 9, 2015
Secret of cat migration discovered、中川草
- 37) マイナビニュース 2015年2月3日
「ネコはどのように世界を移動し、多品種化したのか-京大が解明のカギを発見」中川草
- 38) 産経新聞 関西版 2015年2月3日 一面、26頁
「ネコのルーツ 分かるニャ」、中川草
- 39) フジテレビ NEWS JAPAN 放送 2015年2月3日
ネコで発見1リケジョも貢献/「1万年の旅」解明へ、中川草
- 40) 東京新聞 2015年2月3日 朝刊 15ページ
「ネコの広がる歴史 解明へ/京大など 遺伝子利用、手法開発」、中川草
- 41) 日本経済新聞 2015年2月3日
「ネコの品種分化、ゲノムに裏付け、京大が手法開発」、中川草
- 42) 日本経済新聞社 2015年2月3日プレスリリースサービス
「感染性レトロウイルスの度重なるネコゲノムへの侵略/ネコの移動の歴史を探る手がかりとなるレトロウイルス感染の痕跡を発見」、中川草
- 43) 日本経済新聞 電子版 2015年2月3日
「ネコの品種分化、ゲノムに裏付け、京大が手法開発」、中川草
- 44) 毎日新聞 大阪夕刊 2015年2月3日 10頁 社会面
「ネコ:世界移動、ゲノムで追跡 京大チーム、品種多様性を解明」、中川草
- 45) 日経産業新聞 2014年11月12日 朝刊
「口内pH電極で測定」、樋谷和義
- 46) 日本経済新聞 2014年10月6日 夕刊1頁
「東海大・東大/チップに人体再現/薬効をチェック」、木村啓志
- 47) 日本経済新聞 2014年10月2日 朝刊
「知の明日を築く/東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター/超薄膜、異分野集い応用」
- 48) ラジオ FM やまと (ブリージング・スカイ 「お茶の間の大学」)
2014年10月29日第51回: “東海大学マイクロ・ナノ啓発会 “ってなあに?”
2014年11月5日第52回: 東海大学マイクロ・ナノ啓発会は何を創ろうとしているの?
2014年11月12日第53回: 東海大学マイクロ・ナノ啓発会リーダー喜多理王先生にインタビュー!
2014年11月19日第54回: 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 樋谷和義先生にインタビュー!

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2014年11月26日第55回：来月完成！「東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター」とは

- 49) 東海大学 VISTA vol. 256 2015年2月号
「湘南キャンパス12号館にマイクロ・ナノ研究開発センターを設置」
- 50) 東海大学新聞 2015年2月1日
「マイクロ・ナノ研究開発センターが完成／高分子超薄膜研究の拠点に」
- 51) 東海大学新聞 2014年10月1日
「医工連携で次世代時術開／マイクロ・ナノ研究を推進へ」
- 52) 東海大学新聞 2014年9月1日
「マイクロ・ナノの第3回学術講演会／研究者間の連携と相互理解を深める」
- 53) 東海大学 VISTA vol. 250 2014年8月号
「文部科学省 平成26年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に東海大学の研究プロジェクトが採択/プロジェクト名： 高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」
- 54) 伊勢原タイム 2014年8月22日
「医理工+産官学連携の実践／東海大学マイクロ・ナノ啓発会」
- 55) 東海大学新聞, 2014年8月
「研究室おじゃまします！ ナノサイズの特性を生かして未来の“絆創膏”を作り出す」, 岡村 陽介.
- 56) Press release in 248th American Chemical Society National Meeting, Aug. 2014.
“Like cling wrap, new biomaterial can coat tricky burn wounds and block out infection”, Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase.
(<http://www.acs.org/content/acs/en/pressroom/newsreleases/2014/august/like-cling-wrap-new-biomaterial-can-coat-tricky-burn-wounds-and-block-out-infection.html>)
- 57) Feature in Plastics Today in USA, Aug. 2014.
“PLLA-based wound dressings conform and adhere to irregular body surfaces”, Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. (<http://www.plasticstoday.com/articles/PLLA-based-wound-dressings-conform-and%E2%80%93adhere-irregular-body-surfaces-140811>)
- 58) 東海大学新聞, 2014年5月.
「ナノ寸法の超薄膜創製と応用に評価 岡村講師に文科大臣表彰」, 岡村 陽介.
- 59) 東海大学 VISTA, 246号, p.19, 2014年4月.
「未来を担う TOKAI の研究者①: ユニークな特性を発現するナノバイオマテリアルの構築と医用展開」, 岡村 陽介.

■受賞等

- 1) 岡村 陽介 2016年度バイオマテリアル科学奨励賞 “生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 2016年11月21日. *4*5
- 2) 砂見 雄太 Best Paper Award, H. Hashimoto and Y. Sunami, “Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermal-Viscoelastic Property”, Proceedings of 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment, June 16, 2015. *4
- 3) 砂見 雄太 日本機械学会 2015年度情報・知能・精密機器部門 優秀講演奨励賞,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<p>“Tribological Characteristics between Thin Plastic Film and Steel Roller”, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Mar. 15, 2016. *4</p> <p>4) <u>岡村 陽介</u> Best Young Investigator Poster Award: Yosuke Okamura, Takuya Komachi, Ami Masuda, Shinji Takeoka, Yu Nagase, “Fabrication of bio-friendly nanosheets for biomedical applications”, The 5th Asian Biomaterials Congress, Taipei/Taiwan, May 9, 2015. *4*5</p> <p>5) <u>砂見 雄太</u> Bronze Award, Yana Shaheera Binti Yunos, Yuta Sunami, Mohd Danial Ibrahim, Microfluidics Flow Technology Improvement in Medical Industry Application, The International Engineering Invention and Innovation Exhibition 2015, (2015), Apr. 19, 2015. *4</p> <p>6) <u>砂見 雄太</u> Outstanding Paper Award, H. Naka, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Development of the Artificial Wing Suitable for Flapping Micro Air Vehicle Based on Dragonfly Wing”, The 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Crech Republic, Sep. 2, 2014. *4</p> <p>7) <u>岡村 陽介</u> 平成 26 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 「生分解性超薄膜の創製と医療材料への応用に関する研究」 文部科学省 2014 年 4 月. *4</p>
--

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<p><「選定時」に付された留意事項></p> <p>なし</p> <p><「選定時」に付された留意事項への対応></p>

(様式1)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成26年度	施設	94,284	54,284	40,000				
	装置	39,411	20,911	18,500				
	設備	18,800	9,875	8,925				
	研究費	95,623	36,229	24,283		35,111		
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	75,000	25,391	49,609				
	研究費	161,980	76,036	24,552		61,392		
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	144,179	64,232	22,202		57,745		
総額	施設	94,284	54,284	40,000	0	0	0	0
	装置	39,411	20,911	18,500	0	0	0	0
	設備	93,800	35,266	58,534	0	0	0	0
	研究費	401,782	176,497	71,037	0	154,248	0	0
総計	629,277	286,958	188,071	0	154,248	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
マイクロ・ナノ研究開発センター (12号館1階)	平成26	385m ²	5	150	94,284	40,000	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

(様式1)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
クリーンルーム設備	平成26	クラス1000	1	17520 h	23,205	11,000	私学助成
恒温恒湿室設備	平成26	DW-1-5/RH-L	1	17520 h	16,205	7,500	私学助成
(研究設備)							
ミューコーター	平成26	μ 350	1	700 h	9,800	5,762	私学助成
オールインワン顕微鏡システム	平成26	BZ-X700	1	3000 h	9,000	3,163	私学助成
卓上型マスクレス・リソグラフィ装置	平成27	μ PG101	1	300 h	20,000	13,333	私学助成
リアクティブイオンエッチング装置	平成27	RIE-10NRT	1	750 h	20,000	12,943	私学助成
デスクトップ型次世代シーケンサー	平成27	MiseqシステムSY-410-1003	1	41 回	15,000	10,000	私学助成
全反射エバネッセント顕微鏡	平成27	Ti-E-TIRF-T4システム	1	560 h	20,000	13,333	私学助成
(情報処理関係設備)							

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 26 年度	創るチーム	* 共通予算からの支出は3チームで按分		
小科目	支出額	積算内訳			
		主な使途	金額	主な内容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	2,459	実験材料、施設備品	1,250	理化学機材、試薬、細胞等	
光熱水費	203	電気代		電気代 * 3チームで按分	
通信運搬費					
印刷製本費	12	印刷代		セミナーチラシ * 3チームで按分	
旅費交通費	80	国内出張		研究打合せ	
報酬・委託料	84	講演料、委託費		WEBサイト製作、講師謝金	
(機器備品修繕費等)	44	会合費		会議、研究打合せ	
計	2,882				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	12	事務補助		時給890円、年間時間数41.5時間 実人数 2人	
教育研究経費支出				* 全体に関わる業務のため按分	
計	12				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	14,681		600	冷却遠心機、PC等	
図書					
計	14,681				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント					
ポスト・ドクター	2,360		2,360	学内1人	
研究支援推進経費					
計	2,360				

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 度	平成 26 年度 試すチーム * 共通事項の支出は3チームで按分		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,009	実験材料、施設備品	1,800
光 熱 水 費	203	電気代	
通 信 運 搬 費			
印 刷 製 本 費	13	印刷代	
旅 費 交 通 費	82	国内出張	1
報 酬・委 託 料	84	講演料、委託費	
(機器備品修繕費等)	349	装置修繕、学会参加費	300
計	3,740		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	12	事務補助	
教育研究経費支出			時給890円、年間時間数41.5時間 実人数 2人 * 全体に関わる業務のため按分
計	12		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	14,465		2,268
図 書			
計	14,465		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	2,316		2,316
研究支援推進経費			
計	2,316		

年 度	平成 26 年度 知るチーム * 共通事項の支出は3チームで按分		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,109	実験材料、施設備品	1,900
光 熱 水 費	203	電気代	
通 信 運 搬 費			
印 刷 製 本 費	12	印刷代	
旅 費 交 通 費	87	国内出張	6
報 酬・委 託 料	85	講演料、委託費	
(機器備品修繕費等)	58	学会参加費、会合費	13
計	3,554		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	13	事務補助	
教育研究経費支出			時給890円、年間時間数41.5時間 実人数 2人 * 全体に関わる業務のため按分
計	13		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	14,035		201
図 書			
計	14,035		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	2,442		2,442
研究支援推進経費			
計	2,442		

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 度	平成 27 年度 創るチーム * 共通事項の支出は3チームで按分		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,184	実験材料、施設備品	3,736
光 熱 水 費	1,154	電気代	
通 信 運 搬 費	6	送料	
印 刷 製 本 費	0		
旅 費 交 通 費	1,973	国内外出張	1,847
報 酬・委 託 料	795	講演料、委託費	181
(機器備品修繕費等)	569	修繕費、学会参加費	491
計	10,681		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	46	事務補助	
教育研究経費支出			時給920円、年間時間数127時間 実人数 1人 * 全体に関わる業務のため按分
計	46		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	10,220		5,525
図 書			
計	10,220		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	9,350		9,350
研究支援推進経費			
計	9,350		

年 度	平成 27 年度 試すチーム * 共通事項の支出は3チームで按分		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	13,942	実験材料、施設備品	11,494
光 熱 水 費	1,154	電気代	
通 信 運 搬 費	9	送料	3
印 刷 製 本 費	18	印刷費	18
旅 費 交 通 費	1,420	国内外出張	1,294
報 酬・委 託 料	664	講演料、委託費	50
(機器備品修繕費等)	524	修繕費、学会参加費	446
計	17,731		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,724	事務補助	1,678
教育研究経費支出			時給1000円×2,791時間/年、706時間/年 時給920円、105時間/年 910円 40時間/年 時給920円、127時間/年 * 全体に関わる業務のため按分
計	1,724		実人数 4人+1人
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	7,847		3,152
図 書			
計	7,847		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	6,890		6,890
研究支援推進経費			
計	6,890		

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 度	平成 27 年度 知るチーム			* 共通事項の支出は3チームで按分
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	6,990	実験材料、施設備品	4,542	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	1,153	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費	21	送料	15	サンプル送付
印 刷 製 本 費	0		0	
旅 費 交 通 費	3,173	国内外出張	3,047	学会発表、研究打合せ等
報 酬 ・ 委 託 料	1,159	講演料、委託費	545	英文校閲等
(機器備品修繕費等)	863	修繕費、学会参加費	785	装置修理、学会参加費
計	13,359			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	46	事務補助	1,678	時給920円、年間時間数127時間 実人数 1人
教育研究経費支出				* 全体に関わる業務のため按分
計	46			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	10,817		6,122	マルチプル・タウ・デジタルコリレータ等
図 書				
計	10,817			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,405		2,405	学内1人
ポスト・ドクター	9,472		9,472	学内2人うち1人は外国人
研究支援推進経費				
計	11,877			

年 度	平成 28 年度 創るチーム			* 共通事項の支出は3チームで按分
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	5,175	実験材料、施設備品	3,210	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	1,223	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費	14	送料		
印 刷 製 本 費	509			
旅 費 交 通 費	1,290	国内外出張	1,328	学会発表、研究打合せ等
報 酬 ・ 委 託 料	1,175	講演料、委託費		
(機器備品修繕費等)	590	修繕費、学会参加費	587	装置修理、学会参加費
計	9,976			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	168	事務補助	168	時給930円×3、年間時間数547時間 実人数 3人
教育研究経費支出				* 全体に関わる業務のため按分
計	168			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	5,750		3,548	小型熱プレス機、高速・高精度レーザー変位計等
図 書				
計	5,750			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	4,760		4,760	学内1人 外国人
研究支援推進経費				
計	4,760			

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 度	平成 28 年度 試すチーム			* 共通事項の支出は3チームで按分
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	10,156	実験材料、施設備品	8,192	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	1,223	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費	31	送料	18	フィルム送付
印 刷 製 本 費	510	印刷費		
旅 費 交 通 費	2,751	国内外出張	2,790	学会発表、研究打合せ等
報 酬 ・ 委 託 料	1,237	講演料、委託費	62	クリーニング等
(機器備品修繕費等)	1,150	修繕費、学会参加費	1,147	装置修理、学会参加費
計	17,058			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	1,481	事務補助 実人数 2人+3人	1,313	時給1000円, 672時間/年、時給940円, 762時間/年 時給930円, 547時間/年 * 全体に関わる業務のため按分
教育研究経費支出				
計	1,481			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,069		1,867	バイポテンシヨスタット、PC等
図 書				
計	4,069			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	9,659		9,659	学内2人うち1人は外国人
研究支援推進経費				
計	9,659			

年 度	平成 28 年度 知るチーム			* 共通事項の支出は3チームで按分
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	6,618	実験材料、施設備品	4,653	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	1,222	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費	14	送料		サンプル送付
印 刷 製 本 費	1,180		671	論文投稿料
旅 費 交 通 費	3,783	国内外出張	3,820	学会発表、研究打合せ等
報 酬 ・ 委 託 料	1,952	講演料、委託費	777	英文校閲等
(機器備品修繕費等)	612	修繕費、学会参加費	608	装置修理、学会参加費
計	15,381			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	169	事務補助	168	時給930円 × 3, 年間時間数547時間 実人数 3人 * 全体に関わる業務のため按分
教育研究経費支出				
計	169			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	6,032		3,829	大規模データ解析エントリーサーバー等
図 書				
計	6,032			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,398		2,398	学内1人
ポスト・ドクター	9,533		9,533	学内2人うち1人は外国人
研究支援推進経費				
計	11,931			